

318
194

m 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10⁶m 1 2 3 4 5

始



酒清一第本日

酒清一第本日



醸造元

兵庫縣灘西宮市

辰馬悦藏商店

荷捌所

東京市麴町區永樂町一丁目一番地
丸の内ビルヂング第三六六區

合資升本總本店

電話丸之内(23)四一九六五番

釀社
酒銘切飛表代



リカザンホニ

賜 最高名譽大賞牌

賜 宮内省御買上榮

元造釀

市宮西灘津攝

社會式株造宮西

元賣發

町場茅南區橋本市京東

店商本土富

番〇七六二番〇七八二
番七五六〇町場茅話電



第十回全國酒造組合聯合會定時總會
酒醬油時事新聞創刊五週年 記念

京都酒類問屋仲買業總鑑

第十回全國酒造組合聯合會定時總會
酒醬油時事新聞創刊五週年 記念

酒醬油時事新聞社藏版



酒 銘

大衆の定評
酒界第一



詰樽 ◇ 詰場

芳醇品位
天下に誇る

廣島縣吳市
釀造元合名社 三宅清兵衛

センプク

發賣元 三宅東京支店

東京市芝區露月町一

電話芝三一九五番

序 言

生産業者も販賣業者も、要するによりよく商品を賣らんが爲めに同一の目的を有し、同一の段階を歩むものとするならば、生産販賣兩業者の接觸と協調とは、凡ゆる業界を通じて最も緊切なる問題でなければならぬ。

我が酒造業者も、酒類販賣業者も、以上の意味で、よりよき條件に於て、酒類の消化を目的とし、共同の福利を頒つべく、同一線上を進むものとするならば、右兩業者の協調と團結との意義は、餘りに明白過ぎることであらうと思ふ。

然るに我が酒造並に販賣兩業界の現状を見るに、特に大量生産により消費地を都會方面に求めたる酒造業者は、其の消費地の販賣業界に多少の知見を有するが如きも、否らざるものに至つては殆んど消費地の販賣事情に對して、暗黒に等しきものであると稱しても過言ではあるまい。

最近全國酒造界の不振甚しく、延いて大消費地の販賣業界も亦疲弊の極に沈淪し、相共に一種の危機を現出せんとしてゐるが、斯の如きは勿論一般景氣の沈衰による酒類消費の減退と生産の過剩に基くであらうけれども、一面より切實なる近因を、業界自體の根柢に探究しなければならぬ。

即ち前述の如く全國酒造界を通じて生産酒の合理的な消化に關する自覺に缺ぐるものがあり、且つ釀造販賣兩業界に協調團結の緊密ならざるものがあるといふ事實が、今日の生産過剰と消費の澁滯を招來した一半の理由であると斷ずることは、必ずしも早計ではあるまいと信するのである。

此の意味に於て、吾人は我國最大の酒類消費地たる帝都の酒類販賣業者と、全國各地の酒造業者との提携協調は、現下業界の局面展開にとつて甚だ有利なる結果を招來するものであることを信じ、帝都の酒類販賣業界乃至個々の同業者の現状を齎して、全國酒造界に示唆する所あらんと企てたものである。

此の秋我が東京に於ては全國酒造組合聯合會第十五回定時總會の開催せられんとするあり、更に之れと時を同じうして吾人が全國酒類醬油業界新聞紙として呱呱の聲を擧げてより五週年を迎ふるに際會したので、右兩者を永く記念する意味に於ても、上述の目的を達成すべき企畫の實行は、極めて機宜に適したものであると信じたので、客月初旬具體的計畫を發表し、銳意之れが完成に邁進した結果、僅々五旬にして茲に本書『帝都酒類問屋仲買業總鑑』を完成することを得たのである。

本書の内容は題名の示すが如き極限せられたるものではなく、別項凡例に記載せる通り帝都酒類販賣業界の一般的個別的兩面の記述によつて、實際營業取引上に資する所あらしめんとするばかりでなく、上述の如く釀造販賣兩業者の協調團結を促進し、現下の行き詰れる業界の局面打開に必要

なる問題を提示せんとしたものである。

尤も本書は其の計畫の發表から完成に至る期間が極めて短日月であつた爲に、十分吾人の意圖を盡し得なかつたことを遺憾とするから、願くば將來業界識者の叱正に俟つて、更に増補大成を期したいと思ふ。唯今日吾人は大方業界から、本書によつて吾人が業界操縦者としての熱誠の存する所を理解せられるならば、甚だ欣快とし且つ光榮とする所である。

終りに臨み本書の發行に就て多大の便宜と聲援を與へられた大方業界有志諸賢に對して深甚の謝意を表し、茲に本書の刊行を告げて其の歡喜を俱に頌ちたいと思ふものである。

昭和三年四月

酒醬油時事新聞社

社長 田 中國 太郎 識

凡例

- 一、本書は東京酒類販賣業界の一般的な現状に對する記述と、東京酒類問屋仲買業者の營業乃至人物の個別的な記述と相俟つて營業取引上の指針たらしめ、併せて醸造販賣兩業者の協調に資せんとしたものであります。
- 一、本書の内容は天體「東京酒類販賣業界の現在と將來」と題する論説と、東京酒類問屋仲買業者を網羅せる名簿と、主なる東京酒類問屋仲買業者の營業乃至人物に對する月旦的記述との三部より成るものであります。
- 一、本書中東京酒類問屋仲買業者の名簿は本社に於て昭和三年四月現在により實地調査の上正確を期したものであります。問屋乃至仲買業者の掲載範圍は本社の認定により主要なる問屋乃至仲買業者と目するものに限りました。
- 一、本書中營業乃至人物の月旦的記述を記載せる酒類問屋仲買業者等は、特に信用確實なる向に限つてゐますから、實際營業取引上の参考となるものであります。

帝都酒類問屋業總鑑目次

東京酒類販賣業界の現在と將來……………	一	甲東會員名簿……………	五二	深川區……………	六六
一、緒論……………	一	更新會員名簿……………	五二	荏原郡……………	六六
二、東京の酒類需要傾向……………	三	東京醬油問屋組合員名簿……………	五三	豊多摩郡……………	六七
三、醸酒と地方酒の概観……………	六	東京市並隣接郡部主要酒類問屋仲買業者名簿……………	五三	北豊島郡……………	六八
四、酒類販賣機關の回顧……………	一〇	麹町區……………	五四	南足立郡……………	六八
五、問屋と造家直營店の現状……………	一四	神田區……………	五四	南葛飾郡……………	六九
六、仲買小賣業者の現状……………	一九	日本橋區……………	五五	東京市並隣接郡部主要酒類問屋仲買業者其他營業紹介及廣告……………	七〇
七、販賣取引の狀態……………	二二	京橋區……………	五七	富士本商店……………	七〇
八、中央酒類問屋聯盟會……………	二六	芝區……………	五八	株式會社富士西商店……………	七一
九、東京酒類商同業組合……………	三〇	麻布區……………	五九	升本幸太郎商店……………	七一
一〇、其他の小團體に就て……………	三五	赤坂區……………	六〇	株式會社丸玉商店南店……………	七二
十一、販賣業者の大同團結……………	三九	四谷區……………	六〇	伊坂市右衛門商店……………	七三
一二、業界重大問題の検討……………	四二	牛込區……………	六〇	株式會社加島屋……………	七四
一三、醸造販賣兩團體の協調……………	四五	小石川區……………	六一	鹿島本店……………	七五
一四、結 論……………	四八	本郷區……………	六一	山尾鈴木商店……………	七六
東京酒類問屋組合員名簿……………	五一	下谷區……………	六一		
東京酒類問屋組合員名簿……………	五一	淺草區……………	六三		
		本所區……………	六四		

金星鈴木商店	七七	野田酒造株式會社東京支店	一四三	布屋本店	一四六
合資會社三橋本店	七八	荒井佐五兵衛商店	一三九	折原耕次郎商店	一八七
堀越孝次郎商店	七九	金陵西野商店	一六五	小川長治郎商店	一七五
大關の中井酒店	七九	久星酒造株式會社東京營業所	八四	尾川原商店	一六九
山田五郎助商店	八一	三宅清兵衛東京支店	一五六	大彦本店	一五三
高原吉藏商店	一五九	今成眞助商店	一八四	尾田國三郎商店	一四六
内藤才兵衛商店	八三	池田東京支店	一八三	彌橋酒類部	一九〇
株式會社丸玉 店本店	九六	磯川信一商店	一六五	堀宮味噌店	一七七
奴利彦總本店	一〇三	石塚正治商店	一四九	櫻原要次郎商店	一七七
牧原仁兵衛商店	八二	石川仁市商店	一四五	加瀬政本店	一六八
小西孝兵衛商店	九四	伊藤木治郎商店	一三五	河東商店	一五五
平野太郎兵衛商店	八八	磯川喜三郎商店	一三六	加丸屋本店	一三六
兩關發賣元一本商店	八七	池田屋本店	一三五	勝田喜三郎商店	一九九
本嘉納商店東京支店	九九	今宮善太郎商店	一二七	川又源一郎商店	一〇九
嘉納合名會社東京支店	一〇一	今井龜太郎商店	一五五	吉村政次郎商店	一五八
宅合名會社東京支店	一〇七	林久吉東京支店	一五〇	辰口平作商店	一七三
安岡又四郎商店東京支店	八五	二宮安也商店	一二八	高橋篤商店	一七二
井上酒造株式會社東京出張所	九一	新山政右衛門商店	一二七	辰巳屋東京支店	一六一
六甲商店	一〇〇	程田松藏商店	九二	瀧澤石男商店	一〇五
大星岡村商店	八八	本高山商店東京支店	八九	津谷治助商店	一四四
竹野兵之助商店	九七	戸澤爲則商店	一八八	津谷一治郎商店	一三三
中盤餅店東京支店	一六一	戸澤爲榮商店	一八八	つる屋本店	二一〇

合資會社村上商店	一六六	酒井屋本店	一四〇	野田醬油株式會社	九〇
村田愛助商店	一四〇	盛屋本店	一三〇	麒麟麥酒株式會社	八六
村田貞一郎商店	一一二	三又本店	一二八	正田醬油株式會社	一〇六
野木東京支店	一五七	御影酒造東京支店	一四八	五十嵐商店	一一一
倉石儀助商店	一六六	三河屋本店	一二九	日本釀造機械株式會社	一六七
久保田義則商店	一一八	三ツ矢本店	一二七	星野四郎商店	一三二
久家商店	一一四	新川屋總本店	一二九	京條重治商店	一七六
栗林善次郎商店	一〇九	鹽崎東京支店	九三	東京空想問屋組合	一七〇
中山尙親商店	一六〇	守山翁助商店	一四五	東條吉藏商店	一六九
矢部候坪商店	一四九	森田善太郎商店	一三六	大津屋商店	一八五
山本酒造東京支店	一四七	盛川東京支店	一一三	神田屋商店	一七四
山屋本店	一三三	額津酒造東京出張所	五〇	大八屋厚司店	一八六
安武清藏商店	一二〇	鈴木康之丞商店	一二五	竹内金次郎商店	一七三
矢野清三郎商店	一〇八	パーム飲料合資會社	一三一	反町次郎商店	一六四
山中兵右衛門支店	一〇四	濱口儀兵衛商店	一六四	南玉堂岡本保之助商店	一七八
升本總本店	一四一	鳥海合名會社	一七九	中村秀夫商店	一七二
萬長酒店	一一九	銚子醬油株式會社	九三	武藏屋陶器店	一八〇
松崎吉三本店	一一二	大友味噌店	一六一	株式會社山崎鐵工場	一七一
藤井七兵衛商店	一一〇	開水社	一五七	合名會社益池商店	一八九
小西保三商店	一一五	河合欣三郎商店	一六三	荒井恭助商店	一八一
秋田鶴岡東京出張所	一四二	田中喜兵衛商店	二二四	澁谷文古商店	一八二
淺田徳次郎商店	一三〇	大日本麥酒株式會社	一〇二	汐留運送店	一三八

天下一品

登録

最上赤味

商標



チイマツア

△販賣店は市内外到處の酒醬油店にあり

東 京 荷 捌 問 屋

小網町	中野長兵衛
同 殻	升本喜三郎
同 川	和田善平
北新川	加島屋
同 島	山星鈴木商店
富島町	中井半三郎
同 町	中條商店
南新堀	牧原仁兵衛
北新堀	遠山市郎兵衛
同 町	高梨仁商店
同 町	村上商會
同 町	濱口商會
同 町	太田久七
同 町	淺草馬道

品質滋養美味に於て他に類がありません。んお砂糖も鯉節も要らず御家庭向として最も理相的の徳用品であります

武州南平柳村元郷

醸造元 大熊武右衛門

電話川口二五〇番 振替東京七四一七六番

東京酒類販賣業界の現在と將來

附醸造業者と販賣業者の協調促進の急務

酒醬油時事新聞社述

一、緒論

(一)

我が業界は、醸造方面であると販賣方面であるとを問はず、共に大きな危機に臨んでゐるやうです。此の意味は私達が「更迭」するまでもなく、實際業者の方々が切實に體感し痛感せられてゐる所でありませうし、私達も亦業界の操縦者といふ責任から、夙に紙上で意見を説述したり、對策を提唱したりして來ましたが、容易に業界に徹底して、危機に臨んだ局面の展開が研究され、實行されて、効果を奏するといふ域に至らない

のを遺憾とせねばなりません。今回私達が「帝都酒類問屋仲買業總鑑」を發行し、信用と實力ある東京の酒類販賣業者を業界に紹介するに際して、別に「東京酒類販賣業界の現状と將來」と題する一文を草して、大方業界諸賢の御批判に訴へること、しましたのは單に此の標題の示す意味に止まらず、相當に重大な内容と意義を含んでゐる積りであります。云ふまでもなく業界が今日のやうな極端な波瀾と困難に陥つたのは、過去數ヶ年に亘る社會的、經濟的、諸般の事情が逼迫して、業界に幸ひしなかつたといふこと

が、重大な原因をなしてゐるでせうけれども一面業界そのもの、中にも、何かしらからうした行き詰りを招來するやうな禍根が胚胎してゐたのではないかと考へさせられます。業界そのもの、中に醸成された危機の原因といふものは、到底一二にして止まらないでありませうが、私達が夙に其の紙上を通じて力説して來ましたものは、從來業界人の協調と團結の精神が缺けてゐて、相互に戮力同心して前途に邁進しなければならぬ秋に拘はらず、反對に陥穿と排擠とを事として、所謂共存共榮を實現するの念

に乏しかつたといふ結果に起因したものでないかといふことでもあります。

(二)

之れは一應平凡な觀察ですが、然し私達は之れを眞相であると信するものであります。今更外國の例を引出す必要もないでせうが、戦前は勿論のこと戦後の獨逸が産業的に急速な回復と發達をなしたあるのは、産業制度が合理的に充實し、精神的に經濟的に、各業者が共同團結して斯業に邁進しつゝある爲めだといふことですが、戦争によつてあれだけの打撃を受

けた獨逸の醸造界でも、努力によつては局面を開いて急激に發展しつゝあるのですから、我國の醸造界——殊に我が業界の如きが、過去數年以來逐年疲弊と困憊に陥るのみで、毫も回復と發展の途に進み得ないといふ筈はないやうに思はれます。

そこで私達の考へは結局獨逸の如きが産業制度を改善し、國民中の産業に従事する人々の意識が進歩して、協同團結を遂げた爲めに異常な發展を遂げたことを思ひ、我國の業界も須らく協同團結によつて局面を開くより外に途がないといふことを感ずるのであります。

實に我が業界を、思惟なく評すれば協同と團結の精神に缺如してゐる點に於て、他の業界に觀照を見出し難いと思はれます。それは醸造方面であると販賣方面であると、大した差異はないやうであり

ます。醸造方面は酒造組合といふ團體があつて相當に法律の保護を受けてゐるので、販賣方面よりも——此の方面にも同業組合によつて團結を認められてゐますが——一段有利であるべき筈ですが、事實は兩方面共に大差がないとすれば、寧ろ特別な保護を與へられてゐるだけに酒造界の方面に協同の精神が乏しいと觀られるかも知れないでせう。然し別個の觀方をすれば、酒造界の人々は比較的鞏固な財的基礎に立つてゐるから、獨立自衛の精神と可能性が強い結果、協同團結を重要視しないとも申されませんが、販賣界は群小業者が多くて酒造界に比し、薄弱な基礎に立つてゐるに拘はらず、結束協同の精神と努力に乏しいのは、酒造界の人々よりも一層團結の觀念に缺けてゐると云はれ

ても止むを得ないかも知れません。こんな状態にある業界に向つて協同團結を説くことは、寧ろ勞して功のないことであるかも知れないけれども、私達は今や更に以上の特長を敢てしやうとしてゐるのです。それは私達が「東京酒類販賣業界の現在と將來」に就て述べやうといふことが、既に現在あるが儘の東京の販賣業界の表面的な記述と、將來の單純な歸趨の觀察だけに止めるのではなく、此の文章の全體を通じて、もつと高い大きな目的と使命の爲めに業界を動かしたいといふ考へから來るものであります。

即ち具體的に云へば標題に附註したやうに、醸造業者と販賣業者の理解と協同の促進を期する目的を以て、東京に於ける酒類販賣業界の現状と歸趨を論じ、併せて業界に於ける醸造方面、販賣方面の緊密な關係を説き、兩業者の合理的な接近によつて、經濟的にも精神的にも行き詰つた局面を開き得る途を探究したいと考へるからであります。

言ふまでもなく東京は封建時代から昭和の今日まで、全國酒類の最大消費地として、單に量的方面ばかりでなく、質的方面に於て、他の消費地に見出し難い一種の彈力とも稱すべきものがあり、之れが爲めに東京で販賣する酒類の醸造家や販賣業者には、有利な點が多かつたのです。過去數百年來東京の酒類の需要を殆んど壟斷して來た酒類が、今日益々盛運に驅まれてゐるのは酒類自身の努力にもよるでせうが、反面に於て右のやうな意味で、東京といふ消費地が豊富な條件によつて、酒類の發達

を促進したといふ點を考慮に入れなくてはなりません。然し酒類其他一二の生産地の醸造業者を除く一般の全國酒造家は從來酒類の最大消費地としての東京にどれだけの理解と知識を持つて來たことでありませう。近來酒造界には都會向きの吟醸傾向が著るしくなり、且つ大量生産の趨勢が促進されて來ましたから、勢ひ大消費地としての東京が注目され同時に販賣業界の實狀に對する觀察や研究を行ふ者も多くなり、中には英斷を以て實際市場に進出して來る者も、逐年數を加へるやうになりました。然し大體として全國酒造界の東京市場に對する觀察販賣業者に對する理解は、未だ決して徹底してゐるとは申されません。之れは要するに何を物語るものかといふに、我國大部分の酒造業者が進歩的でなく、斯業を家内

工業の域に置いて、飛躍と發展の途を講ぜず今日に至つたことを示すものであり、同時に結局現在のやうな業界の萎微沙滯と、行き詰りを招來した重大な原因となつたものであるといふことが出来るであります。

【四】

勿論酒造業者に對すると同じやうなことは、酒類の販賣業者にも云ふことが出来ます。特に東京の酒類販賣業界は時勢と共に幾多の變遷はありましたが、比較的傳統と因習に捉はれて、時勢に先驅する精進と努力を怠つて來たやうでありますから、酒造界の萎微沙滯に關聯して共に同一の途を辿り、遂に行き詰りの現狀に陥るやうになつたものだと稱しても過言ではないでせう。そこで前に述べたやうにかうし

界の現状と歸趨を論じ、併せて業界に於ける醸造方面、販賣方面の緊密な關係を説き、兩業者の合理的な接近によつて、經濟的にも精神的にも行き詰つた局面を開き得る途を探究したいと考へるからであります。

言ふまでもなく東京は封建時代から昭和の今日まで、全國酒類の最大消費地として、單に量的方面ばかりでなく、質的方面に於て、他の消費地に見出し難い一種の彈力とも稱すべきものがあり、之れが爲めに東京で販賣する酒類の醸造家や販賣業者には、有利な點が多かつたのです。過去數百年來東京の酒類の需要を殆んど壟斷して來た酒類が、今日益々盛運に驅まれてゐるのは酒類自身の努力にもよるでせうが、反面に於て右のやうな意味で、東京といふ消費地が豊富な條件によつて、酒類の發達

た業界の局面を開くには醸造業者と販賣業者との緊密な協同團結を急務とすることが明白になるのであつて、醸造業者は販賣業者の現状を知り、販賣業者はよく醸造業者の立場を解し、共に手を握り合つて此の難局に處して行かねばならないと信ずるのであります。故に此の目的を達する重要な手段として、茲に「東京酒類販賣業界の現在と將來」と題して、東京に於ける酒類販賣業界の實狀と歸趨に對する、所見を開陳してみたいと思ふのであります。勿論此の記述は目的を單なる實狀の紹介に止めるものでないことは、前述の通りです。既に過去の歴史に關して現在並に將來に働きかける意義を失つた事實は、なるべく開明して、より多く現在並に將來に重大な價值を齎す方面に觸れてみたいと思ひます。

二、東京の酒類需要傾向

【一】

東京の酒類販賣業界の現在と將來を検討するに先んじて、私達は東京に於ける酒類の需要傾向を觀

察して見たいと思ひます。それは申すまでもなく酒類の生産や販賣といふ事業も、要するに目的を需要者の消費に置くもので、すから、東京の販賣業界を知るに先立つて、該販賣業界乃至業者の根柢となつてゐる需要者の實状や將來への動きを知つて置く必要を痛感するからであります。

而して東京に於ける酒類需要の傾向を知るといふことは、先づ東京といふ大都市の内容や市民の生活の上に立脚せねばならぬと考へられますが、然し之れを簡単に表現するといふことは極めて困難な問題でありまして恐らく不可能なことであらうと思ひます。或詩人の如き大都會を嚮物と言ひ、或ひは怪物と呼んでゐますが、恐らく冷靜な科學者であつても、要するに大都會は迷路であり、スヒンクスであらうと想像されます。殊

に大都市としても、特殊な發達を遂げて来た東京の正確な把握するといふことは最も困難であつて、到底私達のやうな立場にあるものなし得る所ではありません。故に東京に於ける酒類の需要乃至嗜好傾向の科學的な検討は到底不可能であります。唯私達のやうに東京の住民として、東京の雰囲気の中に没入し、民衆の生活趣味嗜好等に注目してゐる者の立場として、僅に斷片的な抽象的な觀察を述べるといふことに止めねばなりません。

【二】

私達の茲で述べる東京乃至東京市民といふ意味は、行政區劃による東京市並に隣接郡部を併せたものを稱するのであります。此の膨大な範圍と多數の人口を包含する『東京』といふ大都市の内容が極めて複雑微妙なものであつて、單純な抽象的事實を以て全貌を律することの出来ないのは前述の理由で明かであります。

從つて酒類の嗜好の推移といひ需要の傾向といふも、同様であつて千篇一律に論ずることは出来ませんが、凡そ江戸時代から明治時代に入り、更に大正昭和の現代に至るまで、江戸乃至東京市民によつて需要され歓迎されて来た酒類の歴史を考察してみると、幾分そこに現在乃至將來の需要傾向を洞察する機軸を握ることが出来るやうであります。

即ち江戸時代から今日まで最も多數の東京市民に需要され、歓迎された酒類を指すならば、言ふまでもなく灘地方の生産酒を主として之れに亞いで起つた伏見方面の生産酒であります。而して此の酒が、少くとも過去一世紀以上の長

い歲月の間、江戸乃至東京市民の需要を確保し得たといふことは、大都市の民衆の共通に持つてゐるであらう特殊の嗜好に觸れて、之れを満足せしめる可能性の多い酒類を製造し、絶えず其の嗜好の變遷に策應しつゝ、進展して来た結果であると思ふより外にはないの

酒の嗜好傾向は其の地方々々によつて幾分の分野が存在するやうに云はれてゐて、一般に關東は甘口、關西は辛口といふやうなことを流布されてゐますが、之れは其の地方によつて人情風俗習慣を異にするやうに、酒類の嗜好の上にも同様の傾向があることを示すものであります。然し最近我國に於ける人口の都會集中が著るしくなつて来た結果は、人情風俗等の分野に混亂を生じて来たやうに、酒類の嗜好や需要傾向の分野にも

異常なる變動を生じて来たことは當然であります。然し少くとも過去の時代の東京に於ける酒類の嗜好上の分野は比較的明瞭であつたやうでありまして、之れは永い間の東京の生活雰囲気の中に棲息して来た都會人としての東京市民が大多數を占め、此の人々の要求する酒類の嗜好が自ら他と傾向を異にして、一分野をなしたつた結果でありませう。即ち此の人々の歓迎した酒質は、専門家の言葉で『旨口濃醇酒』と稱して、之れに該當するものが灘伏見方面の代表的な一流銘酒であることは申すまでもありません。

【三】

從つて東京に於ける酒類の販賣業界は、概ねまでかうした東京の需要傾向に追従して、相共に創生

し發達して来たのであります。新川新堀の間屋業者を始めとして市内郡部方面に存在する多數の仲買業者、小賣業者の大部分は、同じく、かうした東京市民の要求に應じて、今日に至つたことは云ふまでもありません。

然し前にも述べたやうに、最近の著るしい地方人口の都會集中の傾向は、殊に東京の如き大都市の内容を著るしく變化せしめ、更に時勢の急激な進歩は、市民の思想的生活的方面に影響して、人情風俗習慣乃至嗜好にも著る變化を促して止まないものであります。

此の結果は現在並に將來の東京に於ける酒類の需要傾向を、昔日の状態の儘に推移せしめる等は全く不知不識の間に、過去の嗜好上の分野を破壊し、驚くべき混亂の狀態に陥れつゝあります。

されば私達は今や將來の東京に

於ける需要傾向を洞察し、把握することの困難な状態に置かれてゐることは申すまでもありません。更にかうした需要傾向の混亂に伴つて必然的に惹起せられつゝあるのは、販賣業界の動搖と混亂でなければなりませんし、之れに更に關聯して主産地に於ける醸造業者の醸造方針の動搖と革新でなければなりません。私達は此の意味に於て現に東京に於ける販賣業界の内部的な動搖と、主産地に於ける酒造業者の影響とを同時に指摘することが出来るのであります。

【四】

寒に一個の複雑な微妙な内容と魅惑に充ちた大都市『東京』の將來を洞察し把握することが不可能なやうに、此の不可思議な都會の市民の需要する酒類嗜好の前途を遠眺するといふことはより以上に困難であります。

それは現在並に將來の東京市民が、益々近代的な雰囲気の中に没入して、感覺的に敏感に洗練されて行く結果、酒類の嗜好の如きも複雑な魅惑を持ち、而も新鮮な味感を有するものを要求するやうになることでありまして、單純な甘口とか辛口とかいふやうな平凡なものではなく、洋酒の cocktails を持つやうな微妙な風味を、日本酒の上にも要求するやうになるのではないかといふことです。之れは階級とか購買力とかの如何を問はず一般的に斯く進むべきものであらうと考へるのは、近代人の生活隔越から割り出しても當然であると思はれるのであります。

由來日本酒は純粹な生一本を以

てよしとされたものですが、それは寧ろ日本國民の本質的な嗜好といふよりも、一種の後天的な気分から來たもので、將來は寧ろ複雑微妙な風味によつて、近代人の感覺に満足を得るやうに、不知不識の間に、酒質の變化向上が行はれ、又行はるべきであると斷ずるのは、私達の謬想でありませうか。

現に東京に於ける特殊の偏した嗜好を有する酒客を別として、一般の市民の飲用してゐる酒は、殆んど販賣業者の供給に一任され、敢て純粹な生一本であることを要求しないのでありまして、之れは將來酒類の需要傾向に何等かの重大な暗示を與へるものであります。右は或ひは餘りに日本酒の本質を没却した空論かも知れませんが、これも、將來の日本酒は、一種の完全な混合酒として、需要者の要求

によつて、酒質の異つた酒を自由に調合し、別個に新しい酒を創造するといふ域に到達せしめることを、寧ろ理想とすべきではないかとさへ考へられるのであります。此の主張は一應狂激に失するやうであります。現在に於ける東京市民の嗜好乃至需要傾向と、之れに策應しつゝある販賣業者の立場とを洞察した結果でありまして、大方業界諸者の斧正を乞はんとするものであります。

【五】

最近東京のみならず都市方面の特殊階級の嗜好に順應すべく高級罐詰酒が陸續として輩出する傾向があります。これは一二の先驅者を除いて、他は單に模倣に走る無定見者流ではあるまいかと思はれます。然し一般に於つた傾向が起つたといふことは、業界人と

して注目すべき問題でありまして、兎に角高級罐詰酒の出現によつて從來存在しなかつた新しい嗜好と需要を開拓したといふことになり、之れが先驅者の努力と英断には敬意を表すべきでありませう。凡そ大都市の需要方面は——特に東京の需要方面は、量的にも質的にも未だ十分の伸展性を存してゐるやうに思はれるのであります。之れは右の高級罐詰酒の出現と發達に徴しても、明かに看取される所であります。唯未だ此の殘されたる曠野を開拓し得る幸福者は、以上詳説して來たやうに、東京に於ける需要者の嗜好乃至需要傾向を敏感に把握して實際の酒質の上に表現し、之れを勇敢に需要者に供給し得る人々のみ與へられるのであります。決して饒近まで、東京市場に勢力を扶殖して來た生産地の醸造業者や、之れに

三、灘酒と地方酒の概観

（一）

前項では東京に於ける酒類の需要乃至嗜好傾向に關する、概念的な、抽象的な意見を述べたに止まりましたが、本項では實際東京に於て需要され、供給されてゐる酒類の現在に就て述べることにします。前項にも多少述べたやうに、酒

戦時代から昭和の今日まで、東京に於て最大の需要を確保して來たのは兵庫縣灘地方で生産される灘酒であり、之れに亞いで伏見京都方面の酒であつたことは言ふまでもありません。

右の酒は江戸時代から明治時代の中葉頃まで、下り酒と稱し或ひは本場物と稱して、他の各地方に於て生産される酒と儼然たる區別を立て、下り酒、本場物と對蹠的に地廻り酒又は場廻り物と一種の賤稱を以て呼んだのであります。

右は酒造技術の進歩してゐなかつた江戸時代から明治の中葉頃までの事實として寧ろ右の對蹠的な酒を品質的方面から斷じて當然と云はなければなりません。最近に於ける酒造科學の進歩は、全國各地に銘醸酒の醸出を見るに至つた結果として、既に本場物とか場廻り物とかいふ一種の尊卑稱

は失はれてあるべき筈なく、一律一體に良酒を良酒とし、悪酒を悪酒として、所謂機會均等となすべき譯であります。

そこで私達は所謂昔から下り酒と呼ばれて東京市場に傳統的な勢力を扶殖して來た酒を總稱して「灘酒」と呼び、其他の地方から東京市場に移出されてゐる酒を總稱して「地方酒」と稱し、以上兩酒の現在東京に於ける、分布、勢力、消長其他に於て考察を加へ、併せて其の將來歸結すべき點に就ても、一端の所見を披瀝することにしたと思ひます。

【二】

灘酒が江戸時代から今日に引き續き東京に勢力を扶殖するに至つた沿革的な記述は、將來東京に飛躍しやうとする酒造業者や乃至販賣業者にとつて、新しい興味を刺

戟するものではないと思ひます。然ら、なるべく省略することにしたと思ひます。

何故それが酒造業者や販賣業者にとつて新しい興味を刺戟しないかといふに、凡そ後にも述べるやうに、灘酒が江戸乃至東京に勢力を扶殖した時代は、既に遠い舊時代に屬し、而も文物制度其他一切の環境が餘りに幼稚であつた過去のことであり、酒造界並に販賣業界も亦共に同様の事情にあつた頃のことです。今日の如く社會的進歩が進行し、酒造界並に販賣業界も亦進歩して來た時代には、到底過去の「灘酒」が追つて來たやうな可能だからであります。

然し今日より數百年前に於て地方の酒造家が、生産酒の消費地を當時全國最大の都市であつた江戸に求め、凡ゆる苦心努力を拂つ

て、毫も倦むことなく、今日に到達したといふ點に對しては多大の敬意を拂ふべきでありまして、恐らく如何に天惠的に恵まれてゐた灘酒であつても、消費地を江戸乃至東京に求めてゐなかつたとしたら今日の盛運を招來することは絶対に不可能であつたと信ずるものであります。

實に灘酒は江戸時代から江戸稱と稱して、其の生産酒の八割以上を江戸へ廻送したと傳へられ、明治時代から今日に至るも、此の傾向は持續せられ、大なる消長はなかつたのであります。

従つて江戸乃至東京に於て供給された酒は當然灘酒を中心として之れを補ふ意味を以て一部分の地方酒が供給されたに過ぎなかつたと云つても差支ないでせう。而して最近に至るまで、東京全體に消費される酒を灘酒と地方酒との比

率に對照するも、七號三乃至六號四の狀態を通り、最近の如く大いに地方酒の進出勃興を見るに至つても六號四乃至五號五の比率を上下することのないといふことは、偉大なる酒の勢力を裏書するものであります。

【三】

斯くの如く酒が東京に於ける酒類の需要の大半を獨占して今日尙舊價を維持しつゝあるのは、勿論酒の品質的方面が、多年の經驗と努力によつて東京の需要者の認識に深く執着するに至つたものであることを認めなければなりません。一面此の理由を酒の販賣機關の上にも探究する必要があらうと思ひます。

酒を主として供給しつゝある販賣機關の勢力にあることを考慮に入れなければなりません。往昔に於ては殆んど此の販賣機關中の所謂「酒問屋」によつて、一切を左右されて來ましたが、明治の中期から幾分趣きを異にするに至りましたけれども、尙且つ此の間屋の勢力は旺盛でありまして、多數の仲買小賣業者に君臨し、之れを自由に驅使して、酒の宣傳販賣に努力し來つたのであります。

ものであると云はなければなりません。今日に於ても東京に於ける販賣機關のシステムは、往昔の傳統と習慣を多分に存するのであります。此の具體的な方面は後に項を改めて説明する積りでありますが、然し大體に於て近時著しく改革を餘儀なくされた形があり、従つて往昔の販賣機關に據つて販賣を繼續して來た酒は、漸次過去の環境と立場に満足してゐることが出來ないやうな状態に至りつゝあります。之れは全く急激な時代の變遷の然らしめたものであつて止むを得ない次第であらうと思はれるのであります。

【四】

條件から見ても、寧ろ當然であつたかも知れないのであります。當時東京の販賣機關や一般需要階級が、地方酒に對して與へた待遇は、地方酒の品質乃至地方酒の醸造家の持つた精神から見ても、決して安價であつたといふことは出來ないと云はなければなりません。然し概近全國的に吟醸の氣運が勃興すると同時に、心ある地方酒の醸造業者も、科學的大量生産を企畫し、消費地を大都市に求めて活躍しやうとするやうになりました。それから、此の情勢に映發されて、東京の販賣機關も著しく覺醒するに至り、總對に會社等とは行かないまでも、地方酒の價値を比較的正確に認識して、之れが供給に努力しやうとする眞摯な動きを認め得るに至りました。そして現在東京市場に於て所謂地方酒でありながら、酒の一流品と同等の認

價と市價を得るに至つたものを一二に止まらず輩出するの狀態となつたのであります。

由來東京に移出される地方酒は目標を酒に置いてゐるやうですが、之れは現在の體系に立脚する販賣機關を利用し又は追従する場合を得たものでありませうけれども、然し將來東京の需要傾向を遠視する時、前項に述べたやうに酒以上の新しい世界を創造して未來の新しい嗜好乃至需要傾向を誘導し、先驅するの決心と努力を致すことを今日の急務とするではあるまいかと思ひます。

此の意味に於て地方酒は地方酒としての特長を發揮し、又は新しい特色を創造して、以上のものを提げて東京の需要者に呼びかけるといふ積極的な行き方を、私達は地方酒の爲めに切望するものであります。前項にも述べたやうに、

近來東京に於ける嗜好の分野は著るしく混亂を來してゐるやうでありますから、徒らに傳統的な嗜好に追従し阿附して、酒の傾向を模倣することは決して勇敢にして賢明なる態度と稱することは出來ないと思ひます。

故に此の立場から地方酒の醸造家は、徒らに先進者としての酒に腕を執る必要はなく、自ら深く東京の嗜好乃至需要傾向を探究把握して之れを酒の實際に表現することに苦心せらるべきであり、又かうした地方酒の販賣業者は、よく其の地方酒の特色を理解し、此の特色を活かし得る方法を選擇して、宣傳販賣に關進すべきであらうと思ひます。此の意味から將來東京に於ては、一層よき地方酒の醸造業者と、よき販賣業者との協調提携を益々必要とするであらうと思ひます。

【五】

酒は東京に於て過去の惠まれたる傳統と環境に立脚してゐる以上、更に自らの精進と努力を怠らない限り、益々將來に有利なる展開を保持することを信じないものはありませんが、一面地方酒の頭は酒にとつて確に恐るべき一敵國の出現でなければなりません。此の意味は勿論酒の醸造業者と、其の東京に於ける販賣業者に共通するものでありますから、徒らに過去の傳統と環境に委據して醸造業者は品質的方面の創造的な革新を怠り、販賣業者は舊來の體裁や習慣に拘泥して、新時代的な經營の改善を怠るやうなことがあつたら、此の間隙に臨んで、地方酒は激瀾として酒の牙城に押し寄せざるであらませう。

現在東京に於ける販賣業者の思

傳のない批評を聞けば、酒と地方法のとの品質としての價値は、寧ろ後者に高い場合があり、それは販賣業者の主眼する品質乃至酒の成績に徴すれば、思ひ半ばに過ぎるものがあるものであります。唯酒が現在商品として高く價値されてゐるのは、需要者に商標價値の認識が徹底してゐること、東京に於ける販賣機關が、傳統と習慣に支配され酒に有利に働いてゐるといふ二つの結果に過ぎないやうに思はれます。果して然らば酒たるものは決して安價たる能はざるものでありまして、之れが醸造業者は勿論、販賣業者も亦敏感に時勢の變遷を洞察し、酒の品質としての價値と、商品としての價値を同等に高め、且つ合理的な宣傳販賣手段に訴へて、飛躍しつゝ苟くも地方酒によつて其の間隙に乗じられ、多年の努力によ

つて築いた牙城に閉塞せられるやうなことはないやうに、奮勵努力を急務とせらるゝと信じます

四、酒類販賣 機關の回顧

(一)

東京に於ける酒類の中間販賣機關に關する個々の實狀と將來に論及するに先立って、聊か其の業界を通じて過去に起つた歴史的な回顧を必要とするやうに考へます。凡そ今日の現狀に到達した東京の酒類販賣機關は、問屋、仲買、小賣各業者の外に醸造業者の直營販賣店をも加へて、相當複雑多岐に亘つてあるのではありませんが、以上の機關が過去から現在に亘るまで進つて來た發達の過程といふものは、多少興味ある事實でなければなりません。

然し現在の酒類販賣機關の創生は遠く徳川時代の初期にあり三百年の發達の過程を経て、今日に至つたもので之れを歴史的に順序を追ふて記述するといふことは、歴史家でない私達の到底なし得る所ではありません。殊に東京の業界には殆んどさうした方面の文獻の遺すべきものがなく、今日現存する古書も亦、販賣機關の創成と發達に對する系統的な記憶を所有してゐないやうですから、私達は一層の困難を感じるのではありません。而も前項に述べたやうに、過去の業界に起つた歴史的實事の多くは、現在並に將來の業界に、有益な示唆を與へるものではなく、舊時代と共に滅亡してしまつたものであるといふ點に於て、私達は既に餘りに埋没し盡された歴史的實事を探査するの必要を認めないのであります。

(二)

唯私達は現在並に將來の業界に何等かの裨益と影響を與へ、よりよき未來への展開を示唆するに役立つ過去の歴史的實事を回顧して、本文の目的とする私達の意圖を果したと思ふのであります。東京に於ける酒類販賣機關の變遷は、之れを外面的に求むるよりもより内部的に求めなければなりません、即ち一つの機關としての形式には大なる變動はなかつたやうであります。其の内容に入つては時勢の進退と共に著しい變遷を除きなくされつゝ今日に至つたやうであります。

然り、小賣も亦然りと稱して差支あるまいと思ひます。更に個々の各販賣機關の營業の實際に立ち入つて檢討する場合になつたならば、恐らく時勢の進退と共により微妙なる變化を示しつゝあるもので、到底一般的な販賣機關の名稱——問屋、仲買、小賣等の概念的な應答に入れて、決定附けることは不可能であらうと思へせられるのであります。故に既に今日内容を著しく異にした個々の販賣機關を、往時の歴史的な概念に據つて出來た販賣機關の名稱を以て律するといふことは、誤つてゐるといふことを考へねばなりません。少くとも現在問屋、仲買、小賣といふやうな販賣機關の名稱は、過去の歴史的な概念をより多く含むものであるものであります。今日著るしく内容と現實を異にした販賣機關の概念と

は、自ら相容れないものがあるといふことを知るべきであります。

(三)

然しさうした問題は暫らく措いて現在一般的な過去の概念の下に問屋と稱し、仲買と稱し、小賣と稱する販賣機關の起原は、全く文献の遺すべきものがなく、詳細ではありませんが、恐らく江戸時代の初期に屬し、徳川家康が幕府を置いて後の江戸が急激に大都市としての發達の道程に上つた頃より、期せずして自然の必要から起つたものでありませう。

當時江戸には鴻池のり酒があり、之れに類されて、池田、伊丹一帯、次いで灘地方の枰興となり賣つて江戸積と稱して江戸に酒を回漕するに至つたので、醸造家が土地の事情に通じないと、賣捌の手數の煩雜とを除かん爲め、

當時の回漕業者——即ち船宿に委託して販賣するに至つたのを、今日の酒問屋の起原とするといふ説があります。

而して江戸の酒問屋は爾後發達の過程に於て自ら二つの階級に分れ一つを下り酒問屋と稱し、一つを地廻り問屋と稱するやうになり下り酒問屋は勿論池田伊丹灘方面の酒を扱ひ、地廻り問屋は關東諸國の酒を扱ひ、其の間に嚴然たる區別を存しました。而して當事業に従事する者も一世の大富豪が多く、異常の勢力を扶植して、内は仲買小賣業者に君臨し、外は醸造業者を操縦して、殆んど江戸時代全期に亘つて、時には多少の盛替消長があつたとともに、以て江戸の酒問屋と稱する者の黄金時代を現出したのであります。

故に當時は江戸に於て醸造業者も仲買小賣業者も酒問屋の手を経

ずして賣買取引を行ふことは不可能であつて、萬一之れを行はんとする者があれば、忽ち嚴重な制裁を加へられて、再び起つことか出來なくなつたといふこととあります。

斯くの如く酒問屋の旺盛なる體勢は、如何なる原因によつて發生したものかと考へるに、凡そ當時の江戸に於ける販賣市場を開拓したものは酒問屋であつて、仲買小賣人の如きも、寧ろ酒問屋の保護に據つて起り、精神的に經濟的に仲買小賣人は、酒問屋と一種の從屬關係にあつたからであります。又當時の醸造家は、悉く酒問屋と純然たる委託取引によつてゐたもので殆んど販賣上に指示することが不可能なばかりでなく、一般に當時の醸造家は家内工業の小規模なもので資本も薄弱でありましたから、勢ひ經濟的實力の絶大な酒

(四)

故に當時の酒問屋は嚴なる委託販賣制度に立脚する一種の代理商であるは勿論、今日の所謂金融業者であり、倉庫業者であり、信託業者であり、運送業者であり、旅館業者であつたと稱しても差支ないのではありません。恐らく今日の酒問屋と稱するものゝ意味とは甚しく内容を異にするものであつて、當時一個の酒問屋が斯くの如く豊富な内容に立脚してゐたのでありますから、内は仲買小賣人に君臨し、外は醸造家を操縦して毫も動ずる所がなかつた所以であります。而して當時の酒問屋は前にも一す述べたやうに、二つの階級に分

れ下り酒問屋と地廻り問屋となり此の傳説は現在の東京に於ける販賣機關にも尙且つ影響を存してゐますが、當時は純然たる差別を有し、下り酒問屋は酒を背景とした爲めに著しく有利の立場に置かれ、酒の物與隆昌と相俟つて益々異常の勢力を扶植し、販賣取引の如きも、絶対に小買人に直接に行はず、地廻り問屋又は仲買人の手を經て行つたといふことでもあります。

然し江戸時代末期より明治時代初期にかけては著しい時勢の變動によつて、かうした當時の販賣機關にも異常の刺戟と革新の機運を與へたことは言ふまでもありません。申すまでもなく、明治時代に入つてから交通機關の著しい發達だけを見ても、従来の酒類販賣制度に改革を餘儀なくされたのは當然でなければなりません。

【五】

一方誰方面の醸造業者も、かうした時勢の變遷に盲目である筈はありませぬから、先づ機に乗じて從來酒問屋との間に成立してゐた取引制度の改革を行ひ、自己に有利な展開を策せんとする傾向を生ずるに至りました。

然し當時はまだ江戸積の禮讓と酒問屋の勢力を畏敬するの氣風旺であつて、斷乎として江戸積の弊風を改革すべく、實行的に進出した業者は、殆んどなく、唯消極的に江戸積を變じて、他國積——即ち販路を東京以外に求めんとして新しく他の地方に進出する酒造業者を輩出したのであります。

「櫻正宗」の山邑太左衛門氏であるといふことではありますが、當時にあつては一大英斷と稱すべく多大の犠牲と努力を拂つて東京に支店を設置し、酒問屋に對抗して販賣取引の有利なる展開を企てたのであります。

一二の醸造業者があつたといふことではありませんが、悉く問屋方面の壓迫と、延いて仲買小賣方面の反目によつて、遂に撤回して元の委託取引に返るの止むなきに至つたといふことでもありますから「櫻正宗」の英斷が遂に實現して、今日に繼續發展しつゝあるといふのは、勿論醸造元の舉措財力共に充實してゐた結果でありませうけれども、一面當時既に東京の販賣業界には、かうした新しい販賣機關の出現と發達を受け容るゝに足る新しい機運が存在してゐたものであるといふことを考慮すべきであります。

【六】

以上如く明治時代の中葉以來東京の販賣業界には、酒問屋の外に、造家商販賣店を加へるに至つて、内面的に益々動搖と混亂を醸しつゝ推移したことを想像するに難くありません。勿論かうした卸賣方面の動搖は、延いて仲買小賣方面に及ぶのは當然でありまして、明治の中葉から今日まで約三十四年間に亘る仲買小賣業者の隆昌消長は單に内面的に止まらず數の上に最も明白に表現せられてゐるのであります。

されば今日の販賣機關中には冒頭に述べたやうに、嚴密な意味で仕時の問屋、仲買、小賣各業者の存在は失はれたものといふべく、現在の問屋業者であつて、純然たる委託販賣制度に立脚し、自己の名に於て他人の爲めに商品を買入れ又は販賣しつゝあるものを幾許數へ得るでありませうか、又仲買業者と稱する者も問屋と小賣業者との中間機關であつた意義は失はれて、寧ろ問屋に接近し、問屋も亦仲買業者に接近した形があら

すから、兩者の區別は判然とした基準を以て律することは出来ないと思ひます。故に強て現在の販賣機關を區別するならば「卸賣」と「小賣」の二大別とするを適當と信ずるものでありまして、現在並に近き將來も、此の二大機關の對立によつて、酒類の販賣供給が行はれるものと考へなければなりません。

【七】

東京に於ける過去の酒類販賣機關の形式と内容は、以上述べたやうに古き時代の傳統と習慣に立脚して來たものでありますが、然し時勢の進運と共に、漸次改善進歩の跡を示しつゝあるものでありまして、私達は必ずしも東京の業界が、徒らに過去の因習にのみ拘泥してゐるものと考へることは出来ません。

るまで、残存する結果となつたのであります。

然し前述の如く東京の酒類販賣機關の現在は、著るしく過去と趣きを異にし、混濁と變動の渦中に於て何等かの統一と飛躍を求めてゐるやうであります。此の飛躍が果して如何なる結果を招來するかは、速に豫斷するを得ませんけれども、時代の趨勢に順應して卸賣小賣の二つの機關が合理的な組織と内容を以て更生することを想像するに難くないのであります。

私達は往々に時代の叫びに追従して「生産より直接消費へ」といふやうな觀察から、今日の間販賣機關と擬視しやうとするものではなく、今日の社會制度の上から更に東京といふ特殊の立場にある大都市の實狀の上から、酒類の間販賣機關の存在を十分に肯定するものであります。唯問題は之れ

が、科學的な、合理的な、改善と進歩にあることを考慮しなければなりません。

【八】

此の意味に於て現在の東京の酒類販賣機關は、問屋、造家直營店仲買、小賣各業者を擧げて、新しい未來への改善と飛躍の苦惱に悩みつゝあるやうであります。此の事實は外面的に醸成せられるといふよりも、寧ろ内部的に醸成せられつゝあるもので、私達は其の苦惱を時代の寵した當然の試練であるとして、冷静に觀察すると共に一面此の苦惱から脱却して、よりよき改善と飛躍への將來に指導を意つてはならないと考へるものであります。

現在東京市場に活躍しつゝある酒類の醸造業者、又は新に將來東京市場に進出せんとする酒類の醸

造業者は、かうした販賣市場の情勢に鑑みて、何をか考究し、何をか實行すべきでありませうか。既に過去の販賣業者と醸造業者との間に醸成して、永い問市場を覆つし得た傳統は失はれ、又は失はれんとしてゐる今日、心ある全國の醸造業者と、東京の酒類販賣業者とは、急遽に緊密に提携して、新しい販賣度の攻究と、樹立に進み、之れを根柢として時代に適合した合理的な供給販賣を行ふことにあると信ずるのであります。

此の意味に於て私達は心ある全國の酒造業者と、東京の酒類販賣業者が、私達の要求する意味に於て、一日も早く接觸して、相寄り相助けて新時代の合理的な販賣制度の研究と確立の爲めに——即ち以上の目的の貫徹に勇往邁進せられんことを切望して止まないものであります。

五、問屋と造家直營店の現状

【一】

前項に於て東京に於ける酒類販賣機關の歴史的な回顧を詳述しましたが、本項に於ては、該酒類販賣機關の中、特に問屋と造家直營店の現狀に對する觀察を記述してみたいと思ひます。

按に私達の問屋と申しますのは傳統と習慣に從つて、現在業界から問屋の名稱を以て遇せられてゐる卸賣業者を總稱するのであります。必ずしも嚴密な意味で、商法の規定に據る取引を行つてゐるものであるといふものではありません。少くとも醸造家から直接酒類の供給を受けて、之れを小賣業

者に擬視しつゝあるもの——即ち卸賣業者を意味するのであります。又造家直營店とは生産地の醸造業者が、自ら東京に支店を設置して、自己の名に於て直接小賣業者に販賣するものを指稱するのであります。

問屋と造家直營店とは、小賣業者を對象として同一の職能を有し同一の目的に進みつゝあるものであります。此の二つを東京に於ける主なる卸賣業者と稱して善文あるまいと思ひます。

【二】

現在右の意味に於ける東京の問屋は、新川新堀茅場町を中心として市内市外に散在し、其の數凡そ百に達するであらうと思ひます。

新川新堀茅場町方面に問屋が集中したのは、往昔のドリ酒問屋、地廻り問屋の歴史に徴すれば自

ら明かな譯で、當時舟楫の便のよかつた該方面に問屋が集中して今日に至りましたけれども、現在の如く交通機關の發達した時代には寧ろ貨物驛の附近に存在するを便利とするのでありませうし、又必ずしもオフィスと倉庫を近接させる必要もないでせうし、更に各問屋が同一區域に集團してゐる必要も失はれたであらうと思ひます。

然し傳統の久しきに亘つて、ドリ酒問屋、地廻り問屋が新川方面に集中して互に勢力を扶植してゐた時代は、事實上新川は東京の酒類集散市場であつたでありませうが、既に今日に於ては時勢の赴く所此の意義と實際を失ひつゝあるものといふべきであります。

即ち灘酒の卸賣業者は既に新川方面の問屋に止まらず、多數の造家直營店が加はるに至り、更に地方酒の夫は寧ろ新川方面以外の

問屋乃至造家直營店で販賣せられつゝある現狀に於て、各問屋乃至造家直營店の間に經濟的運賃がありませんから、酒類の集散狀態、需給の關係等を明白にして、一定の販賣價格を決定するといふやうな市場的職能を行ふことは不可能な譯であります。

かうした今日の問屋乃至造家直營店の狀態は、果して業界の健全なる發達を招來する所以であるかどうか、少くとも將來東京の酒類販賣業界の歸趨を考察しやうとするには、かうした卸賣業界の現狀を擬視して置く必要があらうと思はれます。

【三】

由來東京の酒問屋は、明治維新後、江戸時代のドリ酒問屋、地廻り問屋其他を基礎として、大體三組に區別されてゐたのであります

甲を東京酒問屋組合と稱して、純然たるドリ酒問屋を以て組織し、乙を東京酒類問屋組合と稱して、ドリ酒仲買及地廻り問屋を以て組織し、乙を清酒輸入組合と稱して前項に述べた造家直營店とは意義を異にして、攝津の一二酒造家が自釀酒を東京に於て小賣する爲めに設けた一種の直營店と、之れに類似した關東關西の酒造家直營店を糾合して組織せられたものであります。

東京酒問屋組合は甲組として明治七八年頃の申合せで成立し、同十年規約を作り同三十五年推則組合として東京酒問屋組合規約八十三條を規定し今日に至つたものであります。而して各問屋は酒質を檢定して酒價を設定する爲め、一定の役員を置き、一方組合に於ては相場研究會を設けて、酒質の標準を分ち、酒類の集散狀況、在荷

調査、需給状態等を精査して毎月三回建何を設定発表し之れを各問屋の役員の設定した酒價と照り合せて仲買人に通達し、仲買人は出印と稱する一定の日に問屋に赴き取引を行ふ習慣でありました。而して當時の取引は通帳であり支拂期間は二ヶ月乃至六ヶ月に及び、小賣人との直取引は現金であつたといふことでもあります。

斯の如く東京酒問屋組合は、威あるものであつて、造家直営店等の出現によつて酒問屋の販賣體裁を攪亂せられない以前までは、組合の舉措はよく造家を左右し、仲買小賣人も亦追従を餘儀なくされつあつたといふことでもあります。然し時勢の變遷と共に、前各項に述べたやうに、酒問屋の販賣體裁は著るしく變動を招來し、遂に今日に至つては、到底昔の如く絕對的な權威を以て臨むことは不可能

となつたのであります。唯現在東京酒問屋十五店は、江戸時代から昭和の今日まで、數百年の傳統と地盤に立脚して來たものであるが故に、財的背地の鞏固なるものがあるばかりでなく、仲買小賣方面に扶植した信用地盤は牢固として抜くべからざるものがあることを知らねばなりません。

而も該東京酒問屋各店は最近時勢の推移に眼を凝めて、醸造家、仲買小賣人等の關係を合理化することに努力しつゝあるやうでありますから、其の將來は益々刮目すべきものがあらうと考へられるのであります。

【四】

乙組は右の状態でありますから自然甲組の如く組合事業として統一的に實行されたものは乏しいやうであります。而も内面的にはよく協調を遂げて發達し遂に今日に至つたものであります。又個々の問屋に就て見ても、往時からの傳統的立場に於て下り酒問屋と異り、地廻り問屋であつたといふやうな點から、過去の因習に提はれること少く、營業方針が積極的であつて、從來乙組問屋の紹介と努力によつて、無名の地方酒から一躍高い市場價値を有するやうになつたものもあるといふことでもあります。

現在東京酒問屋組合は十二店を數へますが、勿論個々の商店によつて状況を異にしてゐますけれども、甲組同様財的背地が鞏固であることは勿論であり、時代の趨勢に眼を凝めて、造家並に小賣との中間に立つ中間業者としての合理的な取引經營を行はんとする努力は、亦甲組に勝るとも劣らないものがあつて、其の將來は十分期待して差支ないものであらうと信ずるのであります。

【五】

明治維新當時丙組と稱された清

酒輸入業組合は、『澤の鶴』の石崎氏の主張であつたといふことですが、其の變遷は詳でなく今日では全く其の存在を認めることは不可能であります。『澤の鶴』は東京に於て生産より小賣まで一切を自營とした先驅者であり、同時に成功者であります。大量生産業者として、小賣までも自營するといふことは困難であります。酒問屋地方の造家で、東京に於て『澤の鶴』を模倣するものは殆んどなかつたやうであります。

然し造家直營の精神だけは酒問屋地方の造家に多大の刺激を與へたといふべきで、前項にも述べたやうに『櫻正宗』が新川の島本店との委託取引を全廢して、東京支店を設置したのに端を發し、爾後年々を遂ふて、酒問屋の大量生産業者にして、東京に直営店を設けする者が多くなり、一流銘酒と目され

るものだけの直営店だけでも十指に満たんとするに至つたのであります。而してかうした造家直営店だけの確據として、四五年前『甲東會』なる團體を組織しましたが、之れを或意味に於ては甲組乙組と並稱して今日の丙組としても差支ないものであります。勿論往時の丙組とは全く内容を異にするものであり、唯『澤の鶴』が此の會員中に存在するを一奇觀ともいふべきであります。

右の甲東會は本店を酒問屋大坂等に置く、最も實力ある醸造業者の東京に於ける直営店でありまして、現在九店を數へ、其の販賣する酒も、帝都第一流の價値を維持しつゝあるものが大部分を占めてゐるのであります。然し此の會員に屬する人々は、甲乙丙組の人々に比して、仲買小賣方面に傳統的に扶植せられたも

のか乏しいとも考へられます。他の方で有利な點が多いとして、經營に非常な努力を要する譯であります。兎に角個々の立場によつて相違はありますが、多年の習慣に結ばれた東京に於ける酒類の問屋委託販賣制度を全廢し、今日に至るまでの地盤と價値を扶植した経路は、將來東京に飛躍せんとする心ある全國酒造業者以て範とすべきものであらうと思ひます。

此の人々の將來は時勢の進運と共に益々有利に展開せられる筈でありますけれども、環境に安んじて努力を怠る時は、忽ち既成問屋によつて牙城を奪還せられることを考へねばなりません。故に對小賣との關係、需要階級への宣傳等に於て、益々努力せられねばならぬ必要があるであります。然し私達は、此の人々の將來を大いに希望ある眼を以て注視しつゝある

ことを附言するものであります。以上詳説した問屋乃至造家直営店の外に、東京の販賣界には、未だ幾多の有力なる問屋乃至造家直営店を數へることが出来るのであります。

或ひは寧ろ未來性に富む問屋乃至造家直営店は、以上の三組合に屬する者よりも之れから述べやうとする新興新進の問屋乃至造家直営店にあると稱することが出来るかも知れません。何故なればかうした問屋や造家直営店は、殆んど過去の傳統に支離せられることなく、自由の境地に於て、新しい時代に適應した經營方針を實行して、業界を從順に馳驅し得るからであります。然し之れに伴つて幾多の危險が、傳統的立場に立脚する人々に比して

大であるといふことは、新興新進に属する者の當然負担せねばならぬものでありませう。

右の間屋造家直営店は、醸酒である地方酒であると論ぜず、自由な立場に立つて卸業者として活躍しつゝあるものであります。就中、最近著しく地方酒の擡頭と、市場への進出とにより、右の間屋造家直営店は大いに地方酒に奮目するに至り、更に一方には、新しく地方酒の宣傳販賣を目的とする新聞屋乃至新造家直営店の増加する傾向を生じつゝあります。

元來東京市場に於て、斯くの如く地方酒が勇躍に擡頭するやうになつたのは、大正十二年の關東大震災が重大な轉機となつたやうであります。即ち震災直後の復興景氣に乗じて地方酒は澎湃として東京市場に押し寄せて來ましたが、多くの地方酒は眞に根柢ある信念

と立場に立つて居たものではなかつたと見えて、復興景氣の沈衰と共に再び潮の引くが如く影を没するに至りましたが、唯かうした地方酒中に於て、眞に根柢と實力ある一部分の者は儼然として存在し遂に今日に至つては、既に確固たる地盤と堅價を扶植し、一流の卸業者として東京市場を闊歩しつゝあるものであります。

更に最近地方に於て益々吟醸の傾向が旺盛となり、且つ經濟的飛躍を目論む醸造業者が多くなつたやうでありますから、造家直営店の販賣方法に據らないとしても、間屋造家直営店を経る東京市場に進出するものは、到底從來の比ではないやうであります。此の傾向は遂に喜ぶべきでありまして眞に自置した醸造業者と、時勢に眼めてより合理的に中間販賣機關の機能を遂行しやうといふ意

識に燃えてゐる、販賣業者とが、向くまで合理的な基礎に立脚して相結び、より良き酒類の宣傳普及に邁進するといふことは、十分可能であると共に又推察すべきであると信するものであります。

右に述べたやうな新興新進の間屋乃至造家直営店は、未だ團體的に結合するの機運に至つてゐませんから、其の數を詳にすることを得ませんけれども、かうした間屋造家直営店中で、比較的歲月を長く閱し、店舗を新川方面に置く人々を中心として組織されたものに『更新會』と稱する團體があつて、現在會員九名を數へ、悉く實力ある間屋であり造家直営店であります。

而して東京の業界に於ては、初めに述べた甲組乙組の兩間屋組合員、甲東會員、並に右に述べた更新會員を併せて四十餘名を打つて

一團となし、以て『中央酒類間屋聯合會』と稱する團體を組織して居ますが、之れが實狀に就ては別に項を更めて説くこととします。

【七】

右の如く中央酒類間屋聯合會に属する間屋乃至造家直営店は、大體東京の酒類販賣業界に於て中堅と目すべきものではあります。前述の如く時勢の進展と業界の趨勢とは、殊々に新興新進の勢力の擡頭を促しつゝありますから、今や中堅と目すべき一團の間屋乃至造家直営店の外にも、幾多の新興勢力の潜在しつゝあることを考へなければなりません。

之れを愚憚なく評せしむれば、東京の販賣業界も亦一種の混沌時代にありといふべきでありまして將來歸納する所を今日より把握するといふことは、到底不可能であ

りませう。

甚だ適切を缺く譬喩ではあります。が、『亂れて忠臣現はれ、家貧しうして孝子出づ』とか申しますから、かうした斯界の現状こそ驚ろ心ある間屋業者にとり又醸造業者にとつて寧ろ與へられたる重大な機會ではあるまいかと信ずると共に、其の新躍邁進を期待するものであります。

六、仲買小賣業者の現状

【一】

本項では東京に於ける酒類仲買並に小賣業者の現状と歸趨に就て稍具體的な觀察と所見を開陳してみたいと思ひます。

仲買小賣業者の歴史の方面に就ては簡單に記述したやうに記述し

ますが、由來仲買といふ言葉の意味は今日の時勢では頗る曖昧なものとなつた形があります。往昔トリ酒問屋、地廻り問屋等の勢力が旺盛であつた頃は、純然たる小賣人との取引を行はなかつたやうです。此の間を介在して酒問屋と小賣人との中間機關としての職能を果しつゝあつたものを即ち純然たる初期の仲買人とするのでありませう。然し今日では問屋乃至造家直営店の激増により、同業者間の競争も激甚であつて、往時の如く高踏的な態度を以て小賣業者に臨むことが不可能になり、問屋乃至造家直営店が進んで小賣業者と直接取引を行ふやうになつては既に所謂仲買人の存在は失はれたのであります。

故に仲買人としての傳統に立ち純然たる仲買人としては存在不可能となつた爲めに、酒類を比較

的大量に消費する料理店飲食店等を顧客とし、或ひは需要者に直接して小賣販賣を行ひ、或ひは地方酒の醸造業者と協調して、一種の間屋業をも兼營する等の展開を企てたのであります。要するに純然たる小賣業者と同一様に、一面小賣販賣をも兼營して今日に至つてゐるのでありますから、結局仲買人と稱するも、一種の小賣業者と見做すべきものであつて、純然たる小賣業者よりも幾分内容が廣汎であるといふに過ぎないと思ひます。

【二】

東京の酒類の販賣業界に於て、直接需要者に酒類を供給しつゝあるのは、右に述べたやうな仲買小賣業者でありまして、現在市内郡部を通じて約八千人の多數に達し

てゐるといふことであります。斯く仲買小賣業者が多數を算するといふことは、自然同業者間の競争を惹起し、よい結果を齎すものではありませんが、而も斯界經營者が逐年多きを加へるの現状にあるといふのは何を意味するものでありませうか。

勿論東京が大都市として將來益々發展の可能性があり、殊に市外に向つて人口の膨脹する傾向がありますから、之れに策應して同業者の増加するのは當然であります。が、一面かういふ傾向を助長する理由と動因其のものが、實に業界の内部に胚胎してゐるのではないかといふことを考へなければなりません。

然し東京は近代的な豐富な内容を持つ大都市として、酒類の需要的方面は、量的にも質的にも無限の伸展性があるといふ點に就ては

業に詳説した通りでありますから最近同業者が激増しつつある傾向を冷静に観察する時、單に之れを目して憂ふべしとなすばかりではなく、より以上に他に何等かの重大なヒントを與へられるものであるといふ事も出来るのであります。今や東京に激増しつつある小賣業者は、果して如何なる立場と自費を有する者であるか、若し眞に現在並に將來の東京市民の嗜好乃至需要傾向を洞察し、之れに先驅して新境地を開拓せんとする者であるならば、私達は大いに之れを歓迎したいと思ふものであります。然し過去數ヶ年間に於ける同業者の濫増消長の跡を振り返つてみると、私達は其の人々の餘りに來ることの速かにして、餘りに去ることの早きに慨嘆せざるを得ないといふ状態であります。

【三】

海上は波立つても、海底は震として穏やかなものであるといふことではありませんが、然し東京に於ける約八千人の同業者中、常に海波の如く動搖常なきものは、其の幾部分に過ぎないのであります。他大部分の業者は、海上が波立つても海底の靜かなる如く常に安定して營業に従事しつつあるものであります。此の階級の人々は恐らく傳統的にも經濟的にも相當の立場にあるものであつて、多くは父祖傳來の營業の繼承者であるか、又は少壯時代から業界に入つて經驗を蓄積した後獨立創業した人々であつて、目的方面か、又は信用方面か、何れに又は全體に長ずる所あるものやうであります。此の階級の人々の營業状態は、極めて穩健であつて、幾分保守的な點を免れませんが、一面危險性

の少いものであつて、現在の同業者が此の階級により中心の勢力をなしてゐることは當然でありませう。而して其の取引關係から見て、今日の一流問屋乃至造家直營店の對象とするものは此の階級であつて、そこに緊密なる關係の結ばれつつあることは云ふまでもありません。此の階級の外に一種の海上の波の如く常に動搖しつつある階級があります。之れは必ずしも目的方面に於けるものではなく、前記の階級とは自ら選を異にするものであつて、所謂素人上りの商賣人が多いといふことを特色とせねばなりません。此の階級は勿論進取的であり積極的であつて、新時代の營業に對する理解は多分に持つてゐるでせうが、業界の内面的方面に經驗が不足してゐる爲

めに現在の如き過渡時代には稍もすれば危險を伴ふ虞れがあるやうであります。故に私達は前記の階級を中堅階級とするならば、此の階級を一種の浮動しつつある新興階級として、其の將來は未知數に屬するものと思ふのであります。而して其の取引關係を見ても、自ら中堅階級と異なるものあるは言ふまでもないことあります。故に東京に於ける仲買小賣方面に於ても、以上の意味に於て二つの潮流の相競い、相押し合ふ所の一つの激しい渦巻きを生じ、混沌たる状態を現出してゐるのであります。

【四】

由來東京の所謂一流問屋乃至造家直營店は、前に述べたやうな中堅階級と傳統的に永く相續んで來た結果、相互の間に福利を増進す

る點も多かつたでありませうが、一面因習と情弊を生じ、相互に一種のデレンマに陥り、此の境地より脱却せんとして種々の業界問題を惹起しつつある現状であります。之れは現在並に將來の、新興卸賣業者乃至新興小賣業者の深く考慮すべき重大問題であらうと思ひます。故に將來の酒類販賣業界は、凡て問屋も、直營店も、小賣業者も自主的に合理的に營業取組を改善し、苟くも舊來の陋習に提はれて不合理な關係に於て、局而を彌縫粉飾するといふやうな態度があつてはならないと思ひます。特に小賣業者は近代科學經營の本質を理解し、營業の一切を計算の基礎に立つて行ふことを必要とせねばなりません。而して一面同業者間に共通する福利増進の問題乃至同業者の營業

上の弊害を矯正する問題は、同業者相互の共同團結による組合組織の充實によつて徹底的に斷行せねばなりません。かうした個人的團體的理解と觀念に於て、現在の同業者は著るしく欠ける所があるやうですから速かに反省自覺して實行的方面に邁進すべきであらうと思ひます。

【五】

東京に於ける仲買小賣人の團體的方面に就ては、別に項を改めて記述する積りではありませんが、此の方面に於ても既に江戸時代から一種の協調機關が存在したことを認められるのであります。明治時代に入つてから、各區に商會と稱する同業者の社交機關が成立し、仲買買人によつては仲買商組合なるものが組織され、約十年前に仲買商組合を中心として全區並に廣

接郡部の小賣業者をも合せて同業組合法に據る東京酒類仲買小賣商同業組合を組織し、最近名稱を變更して東京酒類同業組合となり今日に至つて居ります。右の組合は東京に於ける仲買小賣業者を網羅し、現在組合員七千餘人を算するといふことであります。此の組合は各區各郡を一部として二十部に分ち、各部に役員を置いて組合員の統制をなし、組合員の福利増進と、營業上の弊害を矯正する爲めに諸般の施設計畫を行ひ近來漸く見るべき業績を挙げんとするに至つてゐます。此の組合の外に各區並に隣接町村の同業者を以て今日まで商會と稱する團體が繼續してゐますが、右は單なる社交機關に止まり、殆んど同業者の營業上に關する所はないやうであります。然し最近心ある小賣業者は、時代の趨勢に伴

ふ販賣經營の改善研究其他營業の實際に觸れて、經濟的方面に眼目を策せんとする目的を以て、小區域の同業者が團結して、共同賣場共同購入、共同販賣等の方面に進まんとするかの氣運を認めることの出來ますのは、甚だ刮目すべきであります。右は眞にいきりダーを必要とし更に之れに参加する者の理解と自覺を要することでありますから、其の業績を期待し得るのは未だ遠い將來ではあるまいかと信ずるのであります。

【六】

東京の酒類仲買人小賣業者の現状は、個人的方面並に團體的方面共に、大體右の如きものであります。其の將來適する所を豫斷するといふことは頗る困難でなければなりません。現在東京で行はれてゐる酒類の小賣經營は、掛賣

制度とか御用制度とかいふやうに一時勢の進運に背致するやうな點もありませんが、一面之れは單に小賣業者だけの自費や努力によつて急激に改善せられるものではなく、かういふ制度の由つて来る濫産を探究する時は極めて深刻な問題であつて、各方面に影響する所多く、殆んど如何ともすることの出来ない現状であることを痛感するのであります。

故に凡て物の末を正さんとするならば、先づ本を究むべく、下流を清めんとするならば、源流を探る必要がある如く、現在東京に於ける小賣業界を革新して、時代に適應した經營方法を實行せしめんとするならば、先づ問屋業者乃至醸造業者も自ら立つて、相呼應し協力して改訂發達の途に進進しなければなりません。

き詰りの状態にありますが、之れは需要階級の購買力が減退しつつある際に、近代的な資本主義に立脚する百貨店等の出現により、益々小賣業界を壓迫する結果と云はなくてはなりません。此の局面を展開するは小賣業者の急務でありまして、我が酒類小賣業界でも痛切に且つ急速に考究せらるべきであります。

然し此の問題は既に酒類小賣業者のみによつて攻められ、實行さるべきものではなく、問屋乃至造家直營店、又は醸造業者も進んで之れに参加し相協力して一切の現實に直視し、十分の攻めと対策を樹立實行せらるべきであります。之れは農夫がより良き作物を得んが爲めに、田畑に肥料を施して作物を培養するが如く、問屋や生産者の爲めには田畑とも稱すべき小賣業者に對して、當然行はるべき

七、販賣取引の状態

(一)

實務であらうと信ずるからであります。私達は此の意味に於ても、速かに醸造業者と、販賣業者の協同團結の急務であることを大膽疾呼して止まないものであります。

前各項に於て大體東京酒類販賣業界の現状を、販賣機關の方面から觀察して、記述した積りであります。然し約一萬に近い問屋、造家直營店、仲買小賣業者の個々の營業取引の實際に就いて、一々其の状態を記するといふことは到底不可能でありますし、萬一成し得るとしても、個人の營業の内部的方面を露呈するといふことは、許さるべきではありません。然し之れまでの凡での記述が餘りに抽象

的概念的であつて、東京の酒類販賣業界の實狀に觸れた譯でない人々には殆んど要點を捕捉し難いであらうと思ひます。

固より本文の目的は概観的な東京の酒類販賣業界の現在と將來を記述するに止めるも、要するに心ある全國の酒造業者と、東京の酒類販賣業者とが、本交を一つの機軸として協同團結の道程に上り得るならば、十分の満足としなければならぬのであります。

然し私達の懸望する醸造業者と販賣業者の協同團結といふも、それは單なる精神的な協同に止まるのではなく、個人的には勿論實際營業上に於て取引を行ひ、經濟的に緊密なる團結を結ぶことであり、團體的には、後に項を更めて記述するやうに業界共通の重大問題を解決する爲めに協同團結を實現することでありませぬ。

然らば私達はさうした心ある全國の酒造業者と、東京の酒類販賣業者とが、實際販賣取引上に於て協同團結するに必要なる方面に就ても、今少しく具體的な研究をして置かねばならないと思ひます。

勿論此の目的の爲めには前各項で述べたことも、幾分の参考となり材料となるでありませうけれども、今少しく本項では、直接に此の問題の解答となるやうな方面に關して所見を開陳してみたいと思ひます。

(二)

世間には往々現在の東京に於ける酒類の需要は全く行き詰つてゐて、局面展開の餘地はないといふやうに觀察し、且つ之れを口にしてゐる人があります。果してさうでありませうか。

前にも述べたやうに東京の需要

販賣はまだ十分に展開する可能性があるやうに信じられるのでありまして、之れを目して既に行き詰まつたといふ人々は、其の八自身が既に行き詰まつたことを證明するものではないでせうか。

東京は之れを地理的にも、階級的にも、生活的にも、趣味的にも幾許かの分野を形造つてゐるので地理的には山の手と下町とか、都部と市内とかは幾分人情習慣等を異にし、そこに生活する市民の階級も幾許りに分かれ、又其の趣味嗜好にも自ら相違があるといふやうなものであります。

故に清酒の如きもさうた複雑した階級とか生活とか趣味とかを考慮に入れて、策應し適當に飛躍するならば、新しい境地と需用を開拓することは容易でありまして決して前途の行き詰まりを歎く必要はありません。

故に地方に於て天晴吟醸を醸出しつゝある酒造家が、大いに東京に進出して販賣を誦はれんとする希望を有するならば、速かに東京の販賣業者と提携するか、又は自ら直營店を設置して、實行に移るべきであります。今日と雖も決して晚いといふ筈はないと信じて置かざるは前に述べたやうに

今や一種の混亂時代にある東京の販賣業界に於て、新しい地方の吟醸酒が進出して、近代的な合理的な販賣經營の下に飛躍するならば必ずや大いに事をなすの秋ではないかとさへ思ふのであります。

現在東京に於ては過去の努力によつて相當に高い商標價値を獲得してゐる清酒も二三に止まりませんが、其の概抵は生産高に於て品質に於て、十分に鞏固なものではなく、必ずしも恐れるに足らぬものであらうと思ひます。故に將來

私達の期待するやうな意味に於て醸造業者と、販賣業者が合理的に緊密に提携して、東京市場に進出し得るならば、必ずや好結果を招くことが出来ると信ずるのであります。

(三)

東京の酒類販賣業界が、江戸時代に端を發した委託販賣制度による問屋と醸造家の取引を原則として今日に至つたといふことは歴史的に維新以來六十年を経過した東京の業界を十分に躍進せしめなかつた原因であつたといふことは過言でありませうか、今日東京の問屋中に於て、果して如何なる程度まで委託制度が徹底してゐるか、又は値決制度が行はれてゐるか、不明であります。少くとも過去に於て全般を支配した此の制度は醸造家を疲弊せしめたと共に、問屋業

者を偷安に導いたやうであります。問屋業者なるものはかりした偷安によつて造家直営店を生み附せて今日の混亂時代をも生むに至りました。偷安時代の問屋の行つた販賣手段は、小賣業者を中心とする傳統的な常套的なものに過ぎなかつたやうであります。而して小賣業者の背後に多数の需要者のあることに氣付き積極的に跳躍したのは近來のこのやうであります。若し今日の問屋が明治時代中期から既に偷安より覺め、科學的な販賣手段に脚驅してゐたならば現在の東京に於ける販賣業界は、素晴らしい華やかな色彩に充ちたものとなつてゐたであらうと想像されるのであります。

故に今後問屋業者を通じて東京市場に進出しようとする醸造業者は、寧ろ販賣手段に就て問屋業者を誘導する程度の識見を必要とするのであります。

若し不正業者によつて損害を蒙つた造家があつたとするならば、寧ろ弊點は造家にありと云はなければなりません。然し苟くも東京の酒類販賣業者と名乗る者によつて不正業を行はれるといふことは東京の業界として耻辱とする所であり且つ之れが爲めに他の大多數の健全なる東京の販賣業者が悪影響を蒙るといふ場合もありますから地方の醸造業者はよく當事者を調査し殊に、不正業者の常套手段とする契約當時の好餌に釣られ、後に至つて多額の代金を回収し得ないといふやうなことのないやうに、十分注意すると共に、今少しく積極的に東京の販賣業界に對する考察と、販賣取引の研究を行はるゝ必要があらうと思ひます。

るかも知れません。少くとも問屋業者と協力して販賣手段を攻究し得るだけの能力を蓄積せねばならないのであります。

【四】

従つて新しく問屋業者に委託するといふことは、經濟的にも精神的にも要するに直営店を設置することに如かないやうな結果になりますから、最近直営店が増加するに至つたのは故あることに考へられるのであります。

尤も造家直営店といつても、卸賣を専攻とする大規模なものよりも小賣を兼營して傍ら卸方面に進出するといふ、今日の仲買商類似の行き方をする一種の小規模な直営店が最も激増しつゝあるやうに思はれます。地方に於ける小醸造家の東京進出の手段としては右のやうな方法

に據るを比較的合理的とするでせうが其の將來は果して如何に歸趨するものであるか、震災直後に於てかうした直営店は雨後の筍の如く輩出しましたが、忽ち影を没するに至り、最近になつて再び擡頭するの傾向がありますのは、果して何を意味するものでありませうか。

【五】

兎に角造家直営店の増加と發達は、問屋業者にとつて深甚の轉機となり、其の販賣取引、販賣手段等の改善飛躍を招來する動機となりつゝあるやうでありますから、將來問屋業者はより合理的な條件の下に、進んで醸造業者と提携協調するであらうといふことを想像するに難くありません。斯く自覺した問屋業者と醸造業者との提携は誠に喜ぶべきことでありまして私達は其の財的信用の基礎に於て十分未來に飛躍する可能性を有す

近來一般的な業界の不況は生産過剩を招來し、地方の醸造業者中には濫賣投資を行つて局面を切り抜けやうとする人々があるといふことではありますが、東京の酒類販賣業界に於ても同様の不振は勢ひ不正業者を輩出し、偶々地方造家の慮に乗じて不正の利を貪らんとする者の現はれるのは實に遺憾とせねばなりません。

若し不正業者によつて損害を蒙つた造家があつたとするならば、寧ろ弊點は造家にありと云はなければなりません。然し苟くも東京の酒類販賣業者と名乗る者によつて不正業を行はれるといふことは東京の業界として耻辱とする所であり且つ之れが爲めに他の大多數の健全なる東京の販賣業者が悪影響を蒙るといふ場合もありますから地方の醸造業者はよく當事者を調査し殊に、不正業者の常套手段とする契約當時の好餌に釣られ、後に至つて多額の代金を回収し得ないといふやうなことのないやうに、十分注意すると共に、今少しく積極的に東京の販賣業界に對する考察と、販賣取引の研究を行はるゝ必要があらうと思ひます。

【六】

而して地方の醸造業者中で個々の力が不足してゐて、單獨に東京市場の研究と進出が不可能であるといふやうな場合があつたならば共同の力を以て東京の販賣業界に乗り出して来ることは出来ないでありませんか。

現に埼玉縣酒造組合の如きは、東京に接近してゐるといふ地理上の便宜もありませうが、然しそれは別として縣當局の援助と、東京酒類同業組合の應援を受け、最近前後二回に亘つて各酒造組合員の生産酒を、東京の販賣業者の喇味鑑定に供し、一面販賣取引上の研究と協調を行つたといふ事實があります。

仕事も一年又は一ヶ月を以て成し得るのでありますから、私達は將來心ある全國酒造業者が、東京市場への積極的進出を企てんとする場合は、寧ろ困難なる個人的事業として行ふよりも、其の地方を區域として各業者の鞏固なる團結を圖り、團體として以て東京市場の開拓を計るべきであらうと思ひます。

は十分の指導と力を與へ、相共に其の福利を擧げべきであらうと思ひます。

八、中央酒類問屋聯盟會

【一】

前各項に於て東京酒類販賣業界の個別的方面に就ては、其の捕象的ではあります。大要を述べ終つたやうに思ひます。之れから以下數項に亘つて團體的方面——即ち各個の卸賣業者の團結によつて形造られた會合とか、組合とか、又は之れに類似した組織の現狀に就て記述してみたいと思ひます。尤も東京酒類販賣業界に於ける主なる團體に就ては、販賣機關の創生と發達を述べた際に附隨して一般的な方面に觸れた積りであり

ますが、勿論概念的な記述であつて、其の團體の實際に觸れて、其の活動の状況と將來の歸趨を把握するといふ域には至らなかつたと思ひます。そこで此の方面に對して、幾分詳細な觀察を下してみたいと思ふのであります。

前各項にも述べたやうに、東京の酒類販賣機關は、其の創生から發達の過程を通覽しみますと、明かに複雜から單純化への一路を辿つて來つゝあるやうでありまして現在としては前にも述べたやうに卸賣業者と小賣業者の二大別を以て充分販賣機關の内容を決定付けることが出来るやうになつて來ました。従つて販賣機關の團體的結合も、其販賣機關の統一の單純化傾向に隨伴して、同様の歸趨を辿りつゝあることは言を要しない所でありませう。

此の目的の外に該會の組織を急速に激成せしめた直接的な動機は、業界の取引改善を實行せんとする點にあつたのでありまして、當時關東大震災後漸く一ヶ年有餘を經過したに過ぎず未だ業界の秩序回復せず、卸賣業者に對する小賣業者の取引は一極の亂脈を呈しつゝ、容易に是正せられんとする形勢がなく、爲めに卸賣業者の蒙る損害は少くなかつたのであります。而も一面業界は復興の大業を遂へて斯くの如き取引制度の混亂は其の前途に最も憂ふべき障害を與へるものでありますから、該問屋乃至造家直營店中の有志は敢然として賦起し、取引改善を標榜して、同志を糾合し遂に該會を組織するに至つたのであります。故に該會

【二】

本項に於ては主として卸賣業界の團體的機關に就て、觀察してみたいと思ふのであります。現在斯界に於て、其中堅と目され、事實上中心勢力をなしてゐる問屋乃至造家直營店の大部分を以て組織せられた團體に「中央酒類問屋聯盟會」があります。

該會の内容に關する大體に就ては販賣機關の項に記述した通りであります。東京酒類問屋組合、東京酒類問屋組合、甲東會、更新會に屬する各組合員乃至會員四十餘名を以て組織せられたもので、現在では一種の協議團體と目すべきものであります。同業組合乃至卸賣組合等の法令に據るものではありません。

然し該會の分子をなす東京酒類問屋組合、東京酒類問屋組合は其の傳統的方面に於て業權に於て確固たるものがあると共に準卸賣組合として法令によつて認められてゐるは勿論、甲東會、更新會は歴史的には以上二組合に及ばぬものがありますが、其の協調的精神に於ては進歩的であつて、團體の鞏固なることは敢て二組合に伍して遜色のないものであります。されば該會は單なる協調團體に過ぎぬやう

に觀察せられますけれども、之れが組織の内容は右の如く鞏固なる分子によつて構成せられたものであつて、寧ろ該會が法令其他外面的な背景を必要とせずして而も内部的に鞏固なる團結を遂げつゝあることを推奨すべきであります。

【三】

中央酒類問屋聯盟會の創立は大正十四年二月一日でありまして、創立以來現在で滿三年餘の歲月を經過してあります。創立の目的に就ては東京の酒類販賣業界の中樞として内は小賣業者に對して、外は釀造業者に對して重大の責任と立場にある卸賣業者——問屋乃至造家直營店として、從來個々に組合乃至團體を設けて之れが連絡統一を實現してゐないといふことは、共同的福利増進の上に於て遺憾とせねばならないといふので、各團

體を打つて一丸とする該會を組織せられることとなつたのであります。

此の目的の外に該會の組織を急速に激成せしめた直接的な動機は、業界の取引改善を實行せんとする點にあつたのでありまして、當時關東大震災後漸く一ヶ年有餘を經過したに過ぎず未だ業界の秩序回復せず、卸賣業者に對する小賣業者の取引は一極の亂脈を呈しつゝ、容易に是正せられんとする形勢がなく、爲めに卸賣業者の蒙る損害は少くなかつたのであります。而も一面業界は復興の大業を遂へて斯くの如き取引制度の混亂は其の前途に最も憂ふべき障害を與へるものでありますから、該問屋乃至造家直營店中の有志は敢然として賦起し、取引改善を標榜して、同志を糾合し遂に該會を組織するに至つたのであります。故に該會

【四】

而して該會の組織を見るに役員として理事十五名以内を置き、單に理事の方選として理事長を置くに止めて別に會長副會長等を設けず、總ては會員の總意を尊重する一種の合議制に立脚するものであります。而も一應理事者と目すべ

き十五名以内の理事も、該會の内容を成す四團體を代表して會員數に比例して選出されてありますから一面各團體の意志を代表することにもなり、一層該會の緊密なる團結に有意義な結果を齎してゐるのであります。大正十四年二月一日創立總會に於て議定した規約を通過するに、第四條に於て該會の目的を達する爲め左の事業を規定して居ます。

- 一、取引方法の改善議定並に之に關する諸般の設備
 - 二、相談部の設置
 - 三、機關とすべき者の表彰
 - 四、不正商店の公表
 - 五、品質會の設置
 - 六、講習會の開催
 - 七、其他本會の目的達成に必要な一切の事項
- 更に別に該會に於ては細則を設け取引に關する規定を左の如く議

- 定して居ます。
- 一、取引は總て現金を以て本位とす。
- 二、延取引の場合は二十日締切月未勘定とす。
- 三、延取引の際は擔保品の提供を受ける事。
- 四、買渡商品變味其他の場合返還期間を三十日以内とす。
- 五、本會は理事會に於て不正者と認めたる者と取引を爲すことを得ず。
- 六、本會員は自己の商取引に依り其の買掛代金の支拂を受けざる事三ヶ月以上に及びたる取引先あるときは其旨必ず本會に申告すべし。

つ相互の利益を増進するを以て目的とす。

一、相談部は理事二名顧問一名を以て組織す。

一、會員は自己の商取引より生じたる紛争又は回収困難なる掛代金債權を相談部に申告する事を得。

一、相談部は申告事項を審議したる上、相手方と協議し、其他適當の方法を以て妥協を講ずべし

一、理事會に於て不正と認めたる場合は全會員に通知し、且つ新聞紙其他によりて公表するの外適當なる方法を講ずべし。

由來東京業界の販賣取引は前各項にも述べたやうに、江戸時代からの因習的關係が、根柢をなしてゐて、稍もすれば時勢の進展に伴はないものがあり、爲めに問屋業者造家直営店の鬨る損弊のみならず延いて醸造家に及び、小賣業者も亦之れが爲め益々窮乏に陥るの狀態となり、結局生産販賣全體を擧げて疲弊の極に沈淪せんとする状態でありましたが、更に關東大震災を重大なる機會として一層此の取引上の混亂を招来せんとしましたので、斯くては業界の爲めに一大根柢なりとして遂に該會が、大英斷を以て大膽取引規定に示すが如き要綱に據り全會員結束協同して取引改善に努力しましたので効果著しく現はれ、一時危機に類せんとした取引上の混亂も極端なる現實を露呈することなく、遂に局面を拾收し得、爾來三ヶ年東京の

業界は益々安定して、健全なる取引が行はるゝに至つたのであります。

右は全く該會が機宜に應じて適當の施設策を斷行した爲めでありまして、當時小賣業界に多少批評の聲を發する者もありましたがいつしか沈黙して該會の改善的施設に服するに至りました。私達はこの會の業績に就き幾多の保證を擧げることが出来ましたが震災後の混亂せし業界に軋軟を與へ、取引改善の巨額を投じて斯界を淨化した功績は深甚であると信ずるのであります。

【七】

該會の業績としては右の外に規約第四條に示す他の事業に就ても相當の刮目すべき効果を顯彰しつつあるものであります。

東京の酒類販賣界に於ては歐洲

戦争前後の景氣波瀾時代から、一種の販賣政策として卸賣業者より小賣業者に對する製品附特賣の風習が旺となり、大震災を経て尙繼續しつゝ却て弊害の大なるものあらんとするの情況に達しましたので、該會では深く攻究の結果將來全廢を斷行するまでの過渡期として一定の制限を附することとし、先づ總詰酒類十款五十圓以内の製品に制限することを決議しました

が、別に之れが違反者に對する罰則等を設けず、會員の德義に任じて一種の申合せの形式に過ぎないに拘はらず、會員一同よく之れを遵守奉行して制限を破るが如き不徳業者を輩出せず、次で總詰酒類も樽詰同様の範圍に於て制限を行はれましたが、之れも亦よく履行せられ、今日に至つては漸次自發的に製品特賣を斷止し、又は制限の最低位に止める等其の遵守奉行

ぶりは追に帝都業界一流の紳商を以て組織せられた該會であると感ぜなければなりません。

其他時代に適應したる公休日の改正、講義會の開催、相談部の活躍等、着々として意義ある業績を擧げつゝあるものであります。

創立以來僅々三ヶ年の歳月に過ぎない該會としての飛躍は甚だ刮目すべきものであると信ずるのであります。

【七】

言ふまでもなく該會は東京酒類販賣業界の中心勢力として、内は萬に近き小賣業者に對し、外は灘其他の主産地に於ける多數の醸造業者に對して中間に介在する最も重大の責任あるものでありますから、其の一舉一動は慎重を要するものがあります。濫りに局外者の指示容喙すべき限りではないと思

ひますが、然し該會が從來實施して来た業績が多く對内的のものであつて未だ對外的方面に企及し得ないやうでありますから、今後はかうした方面に積極的飛躍を期待して止まないものであります。

斯く私達が本文によつて提唱せんとしてゐる醸造業者と販賣業者との協調促進の問題は、該會の如き有力にして有利なる立場にある機關が率先して先陣の役目を果さるべきものであると信ずるのであります。

且つ同時に心ある全國酒造界の人々は東京の酒類販賣業界に於ける間屋乃至造家直営店の中心勢力の凝集ともいふべき中央酒類間屋聯盟會の存在と發達を認識し之に據つて醸造販賣両業者の協調團結を促進するといふことは、一種の重大なる危機に當面して之れを如何に打開すべきかに就て行き詰りの状態にある業界焦眉の急務として、擧起せられんことを併せて期待するものであります。

九、東京酒類

商同業組合

(一)

東京酒類販賣界の團體的方面を記述するに際して、前項の中央酒類問屋聯盟會と共に、開却することの出来ないのは東京酒類商同業組合であります。

此の組合の記述に就ては前項の販賣關係の條りに於て僅に觸れた筈であります。實に該組合は東京の業界に於て唯一の重要物産同業組合法に據る權威あるものでありまして、組合員の職階は最近定款を改正して、酒類の卸賣業者及小賣業者並に洋酒の小賣業者を以て組織するものであり、故に形式的には販賣業者を悉く組織するものであります。實質的には未だ

其の域に至らず、一部の卸賣業者——問屋及雜貨店——を除く大部分の同業者を加せしめ、其の數八千名に垂とする程の大なる大組合を形造るものであります。該組合は大正六年十月東京に於ける仲買小賣業者中の有志によつて提唱せられ、市内十五區隣接五郡の同業者を糾合して重要物産同業組合法に據る組織をなし、同年十一月七日を以て其の筋より認可指令を得て創立せられたるものであります。

該組合創立以前迄は全東京を一團とする仲買小賣業者の團體は存在せず、僅に仲買商組合と稱する主なる仲買人の團結機關がありましたが、時勢の進展は急激に同業者の結合を必要とするの機運に達しましたので、同業組合創立を提唱する有志の輩出となり遂に先出度く實現を見るに至つたのであり

ますが、該組合創立當時に於ける仲買小賣業者の思想は今日と著しく趣きを異にする者があり、爲めに創立發起人と被加入者との間に紛擾を生ずる等の波瀾があり、幾多の障害が續出したといふことでありましたが、凡そ一つの事業を達成せんとするには必ずや何等かの形に於て問題を生ずるものでありますから該組合創立當時に於ける困難も思ひ半ばに過ぎるものがあります。然しさうした問題は創立後の組合の進展に何等の意義を有するものではありませんから、別に喋々する必要はあるまいと思ひます。

組合創立以後一兩年にして歐洲戰爭に依る好景氣時代の現出となり、東京の酒類販賣界にも一種の黄金時代が招來されたやうであ

ります。従つて一般組合員も經濟的に充實し營業上の弊害の醸成等も少かつたので、該組合も其の機能を發揮するの必要なく、平凡なる歲月を闊したやうであります。然るに歐洲戰亂終結後の不景氣時代に入るや、急激に業界にも影響する所があり、該組合員間にも營業上の弊害其他各種の問題を惹起し、曠に組合事業の多端を生ずるものあるに至つたやうであります。就中從來組合に於て設定履行しつゝあつた酒類の鑑定値段は、當時當局の物價政策と撞着するものなりとして、撤廢を命ぜられたる際、の如き、組合員の死活問題なりとして、組合を擧げて狂狷し努力する所がありました。遂に容れられず、爾來組合員間に酒類の鑑定値段を履行せざるものを出し、就中ビールの販賣は遂年多きを加へて、該組合の一大禍根となつた

やうであります。而も該組合は之が矯正策に努力して、よく組合員の結束協調を保ちつゝ大正十二年に至りました。

同年九月一日の大震災は該組合にとつて深刻なる打撃であり組合員の罹災するもの多數に及び組合事務所も亦喪失して、復興に多大の困難を生ずるに至りました。而して組合幹部はよく局間に策勵して翌年事務所を新築し、組合員の復興に就ても相當の助成を與ふる所があつたものやうであります。したが此の時組合内の某區に於て脱退問題を惹起し、永く纏んで解けず、益々紛擾を惹起し爲めに組合事業の進展に支障を來せる點も少なくなつたやうであります。然し之れが解決後は組合の陣容に更たまり、過去一兩年間に於ける該組合の進展飛躍は最も刮目すべき業績を得るに至つたのであり

ます。

(三)

該組合は創立當時の沿革によつて東京酒類仲買小賣商同業組合と稱してゐましたが、一昨年定款を改正して第五條の組合員資格中に卸賣業者を包含すると共に名稱も亦現在の東京酒類商同業組合と改正するに至つたのであります。

以下該組合の定款に據つて該組合の目的とする所を見るに、第七條に「本組合は組合員協同一致し營業上の弊害を矯正し、其の利益を増進するを以て目的とす」と規定して居ます。

而して之れが目的を達成する爲めに行ふ業務に就て第八條に左の如く掲記して居るのであります。一、不良の商品を純良なるものゝ如く裝ひ、購買取りを爲し、若くは粗悪の商品を研賣し或ひは

不正行為を爲し、同業者の信用を失墜するものを取締り之を矯正する事。

一、商標の侵害に類する行為ある者に對し取締方法を講ずる事、一、賈換代金不拂者及不徳の行為ある需要者並に不正雇人ありたるときは之を組合に警告する事、一、商取引の改善を圖る事、一、販路の擴張を圖る事、一、博覽會又は共進會開設に出品を勧誘し、或ひは斯業に最も經驗深き名士を招聘し、講話會を開き斯業の進歩發達を計る事、一、同業者の爭議に關し之が仲裁を爲す事、

一、商品の検査、一、組合員の使傭人に對し職務貯蓄を奨励し、且忠實勤勉他の模範となるべき者には表彰を行ふ事、

一、前各項の外組合の目的を達する爲め必要なる事業を行ふ事

(四)

右の組合事業を完全に執行する爲め左記の役員及代議員を置き、任期は滿二年として組合員の公選により選任されて居ます。

- 一 組長 一名
 - 一 副組長 二名
 - 一 會計監事 三名
 - 一 部長 二十名
 - 一 副部長 二十名
 - 一 評議員 三十名
 - 一 代議員 組合員三十名
- 毎に一名の割合現在三百十餘名

右の役員の際限は組長は組合を代表し事務を處理し、副組長は組長を補佐して組長事故あるとき之を代理し、會計監事は評議員中より選任されて會計事務を監督し部長は部内の事務を掌理し部を代表し、副部長は部長を補佐して部長

事故ある時之れを代理し、評議員は評議員會を組織して組合業務執行の状況を監査し、代議員は組合會を組織するものであります。

組合の會議を分つて左の三種として居ます。

- 一、組合會(代議員を以て組織)
- 一、評議員會(評議員を以て組織)
- 一、役員會(正副組長各部長を以て組織)

右三種の會議は定款の規定により決議事項の範圍を限定されてゐますが、要するに役員會は立案と執行に依り、評議員會は役員會の諮問に應じ、組合會は重大事項に關して最終の決議を行ふものであります。

而して組合は其の地區を分割して部を設置し、部の下に課を置き、課の部長課部長が之を統率して地方自治制度に類似した方法を以て

て、組合事業の執行を助成して居るのであります。

【五】

右の記述によつて該組合の大體の組織と體制を説明し得た譯でありますから、之れから現在該組合に於て執行しつゝある事業の實際に就て聊か検討してみたいと思ひます。

茲に列挙したやうに該組合定款第八條に規定してある組合事業に就ては、最近正副組長以下役員の奮闘努力により着々實行に手を延ばすと同時に、意義ある實績を擧げるに至つたのは實に喜ぶべきであります。

元來同業組合の目的とする所は組合員の直接的な福利を増進すると共に一面弊害を矯正して、間接的に利益を擁護するにあるのであります。今日の如く財界が不況

に遭遇した場合は、組合員中に不正販賣を行ふ者が擧出し、組合員共同の福利を阻害するものが多くなる傾向がありますから、組合としては此の方面の矯正事業に没頭せねばならなくなり、他の積極的の事業に進出することの困難を生ずるのは當然であります。

現に該組合に於ても此の傾向が顕著でありまして、本文の初めに述べたやうに、麥酒の濫賣者の如きは過去六七年以來繼續して毎年需要期に至ると蜂の巣を突いたやうに暴出し、其他味噌酒、醬油等油等の濫賣も之れに亞いで行はれ業界の秩序を混亂して一般組合員に損失を興へることが少くないのであります。故に組合ではかうした濫賣矯正上の施設と實行に就て、一兩年以來最も關心努力を傾倒してゐるのであります。主として正副組長乃至一部役員の方力

實に深くましいばかりのものがあつたことを認めるのであります。

【六】

先づビール方面の濫賣矯正事業に就て申しますと、組合幹部はビール生産會社と、洋酒問屋に折衝して、一定の公正値段を樹立し之れを組合員全般に通達して執行せしめ、若し組合員に於て濫賣を行ふものある時は、直に戒告を加へ、尙應じない時は、洋酒問屋に通告して荷止めの制裁を加へることを原則とするものであります。

此の矯正策は數年前に樹立實行する所がありました。當時東京には東京府市公設市場に於てビールの小賣値段を組合の公正賣價より安値にて販賣しつゝありましたので、之れが爲めに組合員は組合所定の公正値段を實行することは勢ひ不可能に陥り、爲めに濫賣者

續出して容易に所期の目的を貫徹するに至りませんでした。

而も昨年のビール需要期に入つては、各ビール會社が景品附特賣を實行した爲めに、景品を價格に換算して卸値段より控除し小賣値段を組合所定の公正賣價より著しく引き下げて濫賣する者續出するに至りましたので、組合幹部は大いに憂慮し、ビール會社並に洋酒問屋に對してビール景品撤廢並に値下要求の運動を起したのであります。然るに此の運動に對しては組合員中に理解の不足する者があつて、自ら内部より反對の烽火を擧げるに至り組合幹部は内外の敵害に對して所信の貫徹を期せねばならぬ窮境に陥りましたが、よく一致團結して秘志を顯さず勇往邁進しました結果、遂にビール會社は景品を撤廢し、卸値段を引き下げるに至り、茲に組合幹部

の措置は満足に成功を告げる結果を得たのであります。

而して組合幹部は之れと同時に多年の懸案として組合のビール公正値段執行上に一大障礙となつてゐた東京府市公設市場のビール小賣値段を組合の公正賣價と同一に販賣せしむる問題の解決を期することとなり、當局者並に市場商人と折衝して大いに理解と同意を求むる所がありました。之れ亦遂に組合幹部の要求を是認するに至り、公設市場も亦組合公正賣價と同一賣價にて販賣することとなつたのであります。

爲めに組合に於ては麥酒公正値段執行濫賣矯正事業の遂行に於て外部的に何等の支障なきに至りましたので、昨年以來本年に至るまで、此の大策を擧げて組合員に臨み、一方洋酒問屋廠乃至生産會社の助勢を得て、大いに良好の成績

を擧げつゝあるのであります。

斯くの如きは單に組合員相互の利益を擁護するに止まらず、實に麥酒の販賣系統を合理化し、生産より消費に至る中間機關の機能を増強し、麥酒の供給に利する所多く、要するに生産者、問屋、小賣業者に共同の福利を増進する途であると言はねばなりません。故に此の問題の如き嚴なる麥酒を中心にして發起せられたものであります。が、影響する所は深長なるものがあるでありまして、清酒、醬油、清涼飲料其他酒類の生産業者たる者、乃至問屋造家直營店は自己の生産販賣する生産品の合理的な販賣系統を樹立實行する上に幾多有益なる暗示と刺激を興へらるゝものであらうと信するのであります。

【七】

組合に於ては麥酒販賣方法を合理化すると共に、更に關東最上醬油の樽詰樽詰の濫賣をも矯正すべく、麥酒と同一の對策を擧立し、醬油問屋乃至生産者と折衝して中

止めの執行を期し、一而公設市場乃至百貨店とも折衝して値段の協定を行ひ之れ亦非常な好成績を収めつゝあるのであります。

更に組合に於ては樽詰清酒の濫賣矯正をも行はんとするものゝ如くであります。清酒は麥酒乃至最上醬油と異り、商標の數が多く釀造業者並に問屋業者等の關係が複雑多岐に亘つて居ますので、一定の規制的對策を以て認むことの出来ない事情があり、暫らく考究中に屬してゐるやうであります。然し斯くては組合員大多數の利益を擁護するに缺くる所がありますから、他の方法を以て徹底的に解

決を期すべく、此の計畫たるや後述の東京の酒類販賣系統を合理的に團結化する目的を以て問屋造家直營店、仲買小賣業者を悉く網羅する同業組合の設立を俟つて、實現するの意向であるといふことでもあります。寔に現在の如き販賣系統に立脚する以上清濁混同の濫賣矯正の如き不可能と稱するを當然といふべきでありますから私達は速かに醸造業者乃至問屋造家直營店仲買小賣業者の共同的な理解の下に、販賣系統の合理的な團結の實現を期待するものであります。

【八】

該組合は組合員の營業を合理化し、弊害を矯正し、組合員共同の利益を擁護する爲めに、定款に於て不正販賣とも目すべき最品附特賣其他之れに類する不正販賣を嚴

禁して居ます。然し近來景氣不振を加へると共に、益々組合員間の不正競争を激成する傾向がありま

從ひ酒類の検査部をも設置し、専任技師を備へて、嚴密なる酒類の化學的検査を行はしめてみます

【九】

即ち近來組合の年中行事として開催するに至り、既に回を重ねること前後六回に及ぶ酒類醬油品評會の如きは最も刮目すべきもの一つであります。

とつて、外は社會的に需要者に對して、有意義の効果を齎すものであります。

尙組合に於ては此の目的を一層合理化し普遍化する目的を以て酒類の審査會を常設するの計畫あり

凡そ酒類の如きは規格の認定と統一に於て困難なる商品でありま

善を加へ、審査會制度の充實を計るは最も機宜に適合するものと云はなければなりません。

【一〇】

其他該組合に於ては組合員の共同的宣傳に就ても深く意を注ぐ所

又時勢の急激なる進運に伴ひ、組合員乃至其の子弟の人格乃至知識的向上を期する目的を以て巡回講演會の開催をも行ふ所があり相

であります。

以上の記述を以て大體東京酒類同業組合の組織、目的、事業の狀態等を経つたのであります

而も該組合幹部は現在の狀態を以て満足せず、一層東京に於ける酒類の販賣系統を合理化して、百年の安定を策するの大道として、

一〇、其他の小團體に就て

【一】

前二項に就つて中央酒類問屋聯合會並に東京酒類同業組合の現狀に就て記述する所がありました

の連綿あるものではなく、唯中央
 職協會中の一部に——申東會
 乃至更新會中、個人的に東京
 酒類商同業組合に加入して組合員
 の資格を有するといふのみであつ
 て、團體と團體との交渉としては
 問題の起つた場合に接觸して事を
 共にするに止まるのであります。
 然し元來兩團體は最も緊密なる關
 係にある販賣業者の結合であつて
 唯卸賣業者と小賣業者であるとい
 ふに過ぎませんから形式的な問題
 は別個として、兩團體の内部的な
 關係に極めて密接なるものあるべ
 く、近來特に融和と協調の促進せ
 られつゝある状態を見るのは、東
 京酒類販賣業界の爲めに祝賀せざ
 るを得ないのであります。

本項に於ては右の二大團體以外
 に、現在東京酒類販賣業界を通過
 して、業界の現在並に將來に何等
 かの有意義なる示唆を興へんとす
 るものを探究し、之れが内容に就
 て記述することは決して無意義な
 ことではあるまいと思ひます。
 問屋乃至酒家直営店の團體とし
 ては現在中央職協會の身分とも目
 すべき東京酒問屋組合、東京酒類
 問屋組合、甲東會、更新會以外に
 殆んど注目すべき團體の存在を認
 めないやうであります。尤も東京
 酒問屋組合東京酒類問屋組合は古
 き歴史を有する團體であつて、各
 商店に賣人、賣人職等の由緒ある
 職員があり、これらによつて會合
 が古から創立されて今日に至つて
 あるといふことであります。右
 は要するに東京酒問屋乃至東京酒
 類問屋の内部に於ける組織の一部
 とも見るべきものでありますから
 茲に記述すべきものではあるまい
 と思ふのであります。

(一)

從來東京の問屋乃至酒家直営店
 方面では傳統的勢力が旺盛であつ
 て、新勢力の擡頭する餘地が乏し
 かつたといふ趨勢に歸聯して、
 團體的方面にも新興新進の方面に
 結成の見るべきものがなく、甲東
 會乃至更新會の如きも漸く數年前
 に組織されたもので、殊に更新會
 の如きは中央職協會の組織に醸成
 された結果他動的に結成されたと
 見るべき點もあるものであります。
 私達は卸賣業者の方面に團結的意
 識の活躍しないのを遺憾とするも
 のであります。

近來地方酒の東京進出が著るし
 く増加すると共に、新興新進の問
 屋乃至酒家直営店も激増しつゝあ
 るやうであります。此の方面の
 人々が協調團結して共同の利益擁
 護と福利増進に邁進する機會を把
 握せられんことを切望するもので
 あります。過般四國方面の醸造
 家直営店を以て四國會なるものが
 組織せられんとする形勢があつたや
 うであります。未だ實現の域に
 至らないもの、如く、凡て斯くの
 如く此の方面の團體意識は未だ十
 分に醸成するの機會に至らないや
 うであります。
 本は今日の斯界が過渡時代にあ
 かつて統一あり脈絡ある團結協調
 の域に至らないことを示すもので
 あります。然し眞に混亂時代
 に處して共同の福利を増進せんと
 するならば先づ同業者の結束協調
 を先にすべきであります。私
 達は將來東京の斯界により廣汎に
 して鞏固なる問屋乃至酒家直営店
 を打つて一團とする團體の出現を
 も期待するものであります。

(二)

問屋酒家直営店方面に於いて仲
 買小賣方面には東京市内各部を通

して各區各町村乃至其他の範圍に
 於て各種の協調機關の多數に存在
 することは、寧ろ枚擧に遑のない
 ほどであります。

東京酒類商同業組合の組織と體
 制に就て記した際に、組合には、
 地區を分割して部を設くといふこ
 とを述べましたが、現在該組合は
 東京市内外十五區五郡を其の行政
 區劃に従つて區劃し、現在二十部
 會を設置してあります。之れも觀察
 によつては各區各部の一小團體と
 見るべきでありまして、各區各部
 によつて其の内容と活能とは相違
 があります。大體に部内所屬の
 組合員を總括して主なる有力者が
 役員となり、牛耳を握ると共に、
 組合員の親睦と福利を圖つてゐる
 のであります。

從來東京の各區各町村には江戸
 時代からの傳統的な親睦機關とし
 て、睦會なるものゝ存在があり、

文字通りに同業者の懇親を目的と
 して年一二回の集會を行ふを主と
 し、事業的に進出したものは、酒
 類の吟酒會等を備して、幾分の効
 果を擧げつゝあつたやうでありま
 すが、右の組合に於ける部會制度
 が創設されてから、東角此の睦會
 と撞着を生ずるに至り、中には一
 種の紛擾をさへ勃發するものがあ
 つたのであります。

尤も舊睦會と新部會とはよく調
 和して一方を親睦機關とし、一方
 を事業團體として役員も和衷協調
 して、刮目すべき業績を擧げてゐ
 るものもありませんが、何としても
 睦會と部會との存在は二重撞着を
 免れず、近年戰一的に統一せられ
 んとする状況であります。而して
 部會制度を充實し、大いに組合員
 共同の福利増進と弊害の矯正に努
 力し、組合本部に於て企及し難い
 方面の事業を組合員の個々に巨つ

(三)

て實行し、營業經營の改善、店員
 の修養慰安會、品評會吟酒會の開
 催、營業所得兩稅の共同申告、酒
 類の共同宜販賣等見るべき業績
 を擧げつゝあるものもありません。

更に近來業界不振の結果として
 各同業者の經濟的飛躍は、要する
 に同業者の共同團結によつて解決
 せねばならないといふ點に思ひを
 致し、一區一町村等の區域よりも
 更に小區域に於て一町内又は數町
 内を一區劃とする同業者の團體が
 激増しつゝあるやうであります。

此の團體の目的とする所は單に
 形式的な弊害矯正といふやうな問
 題よりも、より切實に經濟的に團
 結せんとするものゝ如くでありま
 して有利なる經濟的改善と飛躍の
 方法に就て攻撃し、共同宣傳、共
 同購入、共同販賣等の域に向つて

進まんとするものゝ如くでありま
 す。此の點に就ては既に親睦機關
 の條項に於て愚見を開陳しました
 から敢て贅しませんが、本質的に
 は甚だ喜ぶべき傾向でありまして
 近來百貨店其他の資本主義的な營
 業組織が跋扈し、小資本の小賣業
 者を壓倒せんとするの傾向にある
 時、之れに對抗せんとするにはど
 うしても個々の力では不可能であ
 りまして、一町内一區内の同業者
 の團結によつて事をなすべきであ
 ります。

多此の方面に於ける試練を経るこ
とが必要であらうと思ひます。然
し私達は斯界の展開を辦する最も
賢明なる途として、此の方面の研
究と努力は最も必要であると信じ
ますから、問屋造家直営店乃至
造業者も、かうした眞摯なる態度
の經濟的飛躍に對しては理解ある
指導と助勢を興ふべきであらうと
思ふのであります。

【五】

而して從來からした各區各町村
等を一區域とする小團體に於て現
に實行しつゝある事業と目すべき
ものに、酒類の品評會乃至酒會
がありすが、之れは近來先賢者
により内容的に改善進歩を招來せ
る點が少くありませんけれども未
だ一種の餘興的職階を出でず、眞
に營業並に經濟上の飛躍の一端と
して眞誠に實行せられるものゝ少

【六】

いのを遺憾とします。眞に營業上
の研究と、其の結果を經濟的方面
に實現せんとする品評會であり酒
會であるならば、問屋造家直營
店乃至造業者も、今少しく積極
的に援助助力を吝まないものであ
りませうから、將來各小團體で實
行される品評會酒會の組織方法
等は主筆者たるものに於て大いに
考究の餘地があり、之れを有意義
に活用して、眞に卸賣業者乃至生
産業者との營業上の接觸機として
て、十分の効果を發揚するやうに
したいものであると思ひます。宜
しく斯界の識者乃至先賢者は此の
方面に就て研究と指導を興へる必
要があり、同時に問屋造家直營店
又は造業者も自ら其の合理的な販
路の擴張手段として眞面目に助力
すべきではないでせうか。

右の外東京酒類販賣業界に於て
は一部の小賣業者中に儼然として
新時代の趨勢を洞察し、之れに先
驅して人間として且つ商人として
の完成を期し、眞に意義ある業績
を把握しやうといふ眞摯なる運動
に邁進しつゝあるものがあります
が、之れが代表的のものとしては
既に東京は勿論全國的にも喧傳せ
られるに至つた日本酒類酒商茶
話會でありまして、該會は營業上
の研究に止まらず、新時代の商人
として人間としての教養を高むる
の意味を以て講演に見學に出版事
業に、異常なる業績を發揮して更
に著々新境地の開拓に努力してゐ
ますが此の異常なる該會の輝かに
よつて不知不識の間に同業者をし
て眞摯なる同種の機關を創設せし
めんとするの機運にあるのは實に
喜ぶべきであると云はねばなりま
せん。

殊に東京の酒類販賣業界には未
だ同業者の店員子弟に對する研究
修養機關として見るべきものがな
く、爲めに未來の同業者として立
つべき青年子弟の前途を杞憂する
の念に堪えないものがありますか
ら、今日の急務として同業者が率
先して自らの青年子弟の爲めに眞
面目な修養機關を振興すべく、青
年子弟は之れに據つて、眞摯眞實
に研究と修養を行ひ、未來の業界
人として十分の人格と識見を涵養
すべきであります。

一、販賣業者の大同團

【一】

以上十項に亘つて述べて來た所
を振り返つてみますと、東京酒類
販賣界の現状と將來に關する檢討
は、稍もすれば中心を離れて實狀
の紹介と批判よりも、より未來へ
の理想と示唆の記述に傾き、私達
が本文を通じて全國造家諸賢に
對し、又東京酒類販賣業者諸賢に
對して、結局何を物語り、何を欣
求しつゝあるかを表現し得たやう
に思ひます。

要するに本項以下最後に至るま
での問題は、此の不知不識の間に
洩らした抽象的な結論を、今少し
く明瞭に幾分具體的な形をもつて

約説するに過ぎないのであります
前各項を通じて賢明なる識者諸
賢は、東京の酒類販賣業界の現状
と將來に對して、唯る私達の豫想
しない程度に其の眞相眞實を把握
されたであらうと思ひます。然ら
ば、斯界に於て今や最も急務を要
し、最も緊密を要するものは何で
ありませうか、約萬に近い同業者
の個人的な營業の改善と飛躍を
一々考究實行するといふことは神
ならぬ私達にとつて到底不可能な
問題であります。然らば萬に近い
同業者を包含する業界として、共
同的に未來への改善と飛躍を敢行
せんとするには如何なる方策を以
てなすべきでありますか、私達
は此の問題に就て、少しく具體的
な論評を續けてみたいと思ふので
あります。

【二】

過去一兩年來東京酒類同業組
合現幹部によつて振興せられ運動
せられつゝある事業に『大同團結
問題』といふものがあります。
之れは要するに東京酒類販賣業
界の各業者が——問屋も造家直營
店も仲買小賣業者も——悉く打
つて一團となり、所謂大同團結し
て一大同業組合を組織せねばなら
ぬといふ主張に基く運動でありま
して、東京酒類同業組合に於け
る現在幹部が最も熱心に唱出して
既に第一着手として中央酒類問屋
聯合會に對して勸説する所數回に
及びましたが、該會に於ては協議
の結果時期尚早として回答せられ
たもので、爾來該問題は一頓挫の
形となつて今日に至つたものであ
ります。

私達は一言以て之れを覆へば東
京に於ける酒類販賣業者の大同團
結を促進するは、今日の急務であ
ると信ずるものであります。其の
理由とする所は、要するに東京酒

競販賣業界を一團としての自営業に外ならないのでありまして、同一の環境、同一の目的を以て精神的にも経済的にも直接間接を問はず有機的な關係のある人々が、各個に個人的行動を執るといふことは、徒らに競争を激成して遂には恐るべき弊害を生じ、内は同種同業者の疲弊困憊を招き、同時に對外的にも危機に陥るものであると信ずるのであります。

従來の業界といふものは對外的な方面に重きを置く必要はなかつたかも知れませんが、今日の如き時勢となつては、社會的に經濟的に常に面對な問題を惹起し、業界といふ一つの團體としてこれらの對外的な關係に對抗せねばならぬ場合となつてゐるのであります。大同團結の意義といふものは寧ろ對内的に同業者間の弊害を矯正して、共同の福利を増進するといふ

よりも、先づ對外的に業界共同の弊害に結束して對抗するといふ目的を主としなければならぬと思ふのであります。

而してかゝる對外的な弊害に向つては問屋であらうと造家直営店であらうと仲買小賣業者であらうと、毫末の差別なく酒類の販賣業者といふ名に於て、當然結成すべきでありまして、若し單に問屋造家直営店だけに關する問題としても、之れを仲買小賣業者が閉却するといふことは出来ない譯であり、仲買小賣業者だけの問題としても、問屋造家直営店は放任して置くことは出来ない筈であります。何故なれば、相互の間には精神的に經濟的に有機的關係があり、要するに利害が共通してゐるからであります。

【四】

而して對内的な方面に於て何故大同團結を必要とするか——大同團結によつて如何なる意義を招來するかといふことになりませんが、之れを約言すれば、同業者の共存共榮に關する緊密なる方策を講ずるに最も有利なる立場に於かれるといふことでありまして。

今日業界に於て營業上の不正競争や、販賣取引上の弊害が多くて同業者は擧げて疲弊と困憊に陥りつゝあるのは、要するに同業者の數と質の問題に歸着するであらうと思ひます。斯く數の上では同業者を制限し、質の上では不正業者を排斥し、正業者の立場を擁護するにあるのであります。然るに現在の業界の状態では同業者は無制限に増加し、又不正業者が輩出して之れを排除して業界を淨化するの方法は全く存在しないのであります。

故に以上の目的を貫徹する爲めに、販賣系統に屬する一部の業者を網羅した緊密鞏固なる組合を組織し、組合に加入せざるものは絶対に商取引を行ふことを得ない制度とするのであります。而して新加入せんとする者には一定の資格要件を附して、同業者の増加を制限し、不正業者に對しては一定の制裁を加へ甚だしき時は組合より除名して一切の取引を停止するのであります。

之れを要する大同團結とは、一種の私設營業免許制度乃至私設專賣制度とも目すべきものであります。根本的には生産者より販賣業者に至る一切の系統を網羅しなければ、不正業者に對する徹底的な制裁を斷行することが出来ぬであります。先づ當面の範圍として業界の販賣系統だけを網羅した大同團結機關を形造り、

右の制度組織を實現することは今日の急務であらうと信ずるのであります。

【五】

現に全國重要都市の酒類販賣業界を見るに多くは一切の販賣系統を網羅する外に醸造業者をも加入せしめてゐるのであります。酒類業界以外の各種の實業同業組合中には概觀とすべきもの頗る多く、就中全國書籍商組合の如きは全國を一團として緊密なる販賣網を敷き出版業者より小賣業者に至るまで組合に加入しなければ絶対に書籍の販賣は行はず不正業者に對する違約處分其他一切の制度充實して宛然私設免許制度を實現せるかの點があり、斯くして眞に永遠性に富む確實なる業界の發展を策しつゝあるのであります。

敢て出版界に眼を求むる必要も

なく、大阪其他の酒類販賣業界を見ても、問屋、造家直営店、仲買小賣業者共に悉く組合に加入して共同の福利増進に邁進しつゝあるのであります。今日單に東京の酒類販賣業界に於て、大同團結の實現せられざるは寧ろ弊害の念に堪えずと稱しても差支へあるまいと思ふのであります。

今や東京の酒類販賣業界は前各項に述べたやうに、一種の混濁時代に當面しつゝあるのであります。多年の不況に因る業界の疲弊は射停的販賣政策の施行となり滔々として停止する所を知らず、中央酒類問屋聯盟會の如き率先して之れが矯正に努めんとする所あるも、容易に實績を擧ぐる能はぬ所以は、要するに業界を統一する強固にして緊密なる大同團結機關が實現せず、業界に一大弊害の存在する結果であると稱しても過言で

はあるまいと思ひます。

【六】

されば今や東京の業界に於ける大同團結は、既に時期の問題を過ぎて實行の問題に入れるものといふべく急速に之れが具體化に就て特に問屋造家直営店方面の有志の反省と自覺を促さんとするものであります。

最近東京酒類問屋同業組合に於て開催せる定時組合會に於ても、代議員有志より『大同團結促進』の動議を提出し、満場一致可決して之れが實行委員として役員代議員中より數名を選び、先づ具體案の研究と作製に着手したといふことであります。今後東京酒類問屋同業組合方面よりは、より一層熱烈に之れが促進と實現の運動を起すに至るべきは明かでありまして、されば中央酒類問屋聯盟會を如

め、其他の問屋造家直営店に於ても、該組合の意の存在する所を酌むると同時に現下の販賣業界に於ける實狀を總く省察し、業界の共存共榮と百年の大計の爲めに速かに之れが具體化に參畫助成せられんことを切望に堪えないものであります。

尙ほ東京酒類販賣業界に於ける大同團結の促進に就ては、苟くも東京市場と取引關係ある全國酒造業者諸賢にも十分の理解と援助を得るの必要があるのであります。東京に造家直営店を設置せられると又は問屋と取引を行はるゝとを問はず、諸賢も亦大同團結は實現の爲に於て組合の一員として業界共同の責任の分擔を請はねばならないと信ずるのであります。

一、業界重大問題の検討

【一】

東京酒造販賣業界の現在と將來に關する觀察と検討とは、大體前十一項に亘る記述を以て不完全ながら終了したやうに思ひます。本項に於ては我國の醸造販賣業界に共通する重大問題の検討を行ひ附せて之れが解決に對する愚見を陳述して見たいと思ひます。

尤も前十一項に亘つて説述した問題は主として東京酒造販賣業界を中心として其の現在並びに將來に亘る問題でありましたが、然し要するに之に關聯して醸造販賣兩業界に共通する重大問題にも及ぶ所があり、附せて醸造販賣兩業者

の協議團結によつて、之を解決せねばならぬと云ふ點にも觸れたやうに思ひます。

然し本項に於ては更に具體的に販賣業界の重大問題となつてゐる二三の案件に就て、私達の抱いてゐる見解を發表したいと思ふのであります。

時恰も東京に於ては第十五回全國酒造組合聯合會臨時總會の開催せられんとするあり、全國酒造業界の代表的人物が一堂に會して所見を交換せられんとするに先んじて全國業界に共通する重大問題に對して愚見を述べるといふのは聊か忸怩たるの感なきにしも非ずといふものであります。然し之れも亦全國業界の爲めに何等か裨益する所あると共に、該定時總會來會者諸賢に對しても幾分の參考資料となるかも知れないと思ひ、非禮を敢てするに至つた次第であります。

【二】

先づ私達の検討せんとする問題は我國に於ける禁酒論者の跋扈跳梁に對する問題であります。近くは二十五歳以下の禁酒法案を議會に提出して私酒業界人に多大の不安を感ぜしめたるばかりでなく、協會ある毎に禁酒宣傳を行ひ、其の状全く傍若無人の感あるは、寧ろ識者の眉を蹙めしむるものがあるやうであります。

然し斯くの如く飽ことなき物なる禁酒論者の態度は、要するに一時的の感情によりて運動を行ふものではなく、深い根柢を以て、不屈不撓最後のものを得るに至るまでは止むことなきものであらうと信ずるのであります。

故に現在禁酒論者の運動方法が輕燥にして識者の嘲笑を買ふものがあるとしても、亦他方面には幾

多の賛成者があり、現に議會に於ける禁酒法案の分野の如き全く形勢の逆轉すべからざるものあるを見ては實に該運動の根柢の強固なると言傳の普及せることを雄辯に物語るものでなければならぬと思ひます。

されば我が業界に於ても今日では絶対に禁酒論者を傍觀すべき秋ではなく、業界を擧げて之れが反對的施設計畫に邁進すべきであらうと信ずるのであります。

之れが具體的方策としては曩に和歌山縣南方常備氏の提議に係る大日本酒造協會の設立の如き恰好のものと思ひます。然し之れが具體的内容に就ては未だ聞くことを得ませんから、茲に深く検討することを得ませんが、私達の考へる所では大日本酒造協會を全國酒造組合聯合會の附屬とし、財團法人組織となし、十分の

基本金を募集して禁酒反對の具體的の事業を行ふべしとなすものであります。

大日本酒造協會は既に全國酒造業者に限らず、酒造販賣業者を網羅し、更に酒造に關聯ある一切の營業者をも参加せしめ、尙社會一般に禁酒主義に反對する人々をも入會せしめて、之れが團結の力により、尙まで狂瀾に走らず飲酒の科學的社會的意義を徹明すると共に、一方之れを擧げて眞摯なる態度を以て禁酒の反對運動を行はねばなりません。

此の意味に於て來るべき全國酒造大會に於ては大日本酒造協會の具體的組織に着手せられんことを切望して止まないものであります

【三】

酒類輸出税の實現に就ては曩の全國酒造大會に於て可決となり、

既に實行委員に附設せられたる問題であると仄聞してゐますが、苟くも全國酒造大會に於て可決したる以上之れを急速に實現するは、全國大多數の酒造業者の望む所であり、同時に現下の如き生産過剰によつて、販賣業界に至るまで多大の疲弊と困憊に陥つてあるの秋でありますから、酒造業者も亦之れが實現の促進を望むや切なるものがあらうと信ずるのであります。

故に醸造販賣兩業者は何等かの形式を以て團結し、相提携して之れが實現に邁進すべきであると思ふのであります。

尙輸出税の創設と同時に一面全國酒造高の制限に關する具體案の創定を必要とするのであります。法律を以て一定に制限せよとの提議をなす人もありますが、私達は各酒造組合の組織を緊密せしめ、

【四】

以て自主的に生産を制限することにして不可能ではあるまいと信ずるのであります。先づ之れに關聯して酒類供給消費の完全なる統計を調査するの機關を設置し、生産家より輸出後の酒類の消費に至る過程を把握するといふことは、酒造方針の決定と生産制限の實行其他に最も必要であると信ずるのであります。兎に角全國酒造組合聯合會に於て生産制限に必要な一切の施設計畫を行ひ、酒造業者とも緊密に提携して、目的の貫徹を期せられんことを切望するものであります。

現下の極端なる酒造界の不振に際して増税後の酒造税は高きに失し、間接税の意義を没却して生産者に荷重の負擔を致さしむるといふ立場から増税前の税額に引戻

すべしと主張する人々があるやうであります。此の問題は實に現不可能であるとしても、現下の社會政策的立場から見れば消費税を減ずるは當然であり、現在の酒造税は高率に失するといふべきでせう。而も現内閣に於ては近く地租を求めねばならぬ必要から、更に酒造税増徴等の擧に出づるなきやを保し難いものがありますから、須らく來るべき酒造大會に於ては酒造税減額の問題に對して十分検討するの必要あるは言を要しない所であらうと思ひます。

尙營業收益税所得税等の課税に對して酒造業者乃至酒造販賣業者に苛酷なるものあるやに仄聞してゐますが、斯くの如きは不合理も甚だしいものでありますから、出來得れば酒造業者と販賣業者との代表者が醸造販賣兩業界に共通す

る深刻なる不況の状況を開陳して當局との諒解を得て、斯かる不合理なることのないやうにしたものであると思ひます。

近來醸造販賣業者に亘つて金蔵の梗概甚だしきものがあるとの事であり、曩に酒造界の某氏によつて提唱せられた醸造銀行設立問題の如き、最近の金蔵界の事情では到底實現不可能と信ずるのでありますから、何等か他の適當の方法によつて醸造販賣兩業界の金蔵を打撃するの方策を講究するは今日の急務と信ずるのであります。私達は之れに對する具體案を所有する者ではありませんけれども、近來酒造界に於ける釀造の生産者や販賣業者の關係を見るに及んで、業界の金蔵問題に關する識者の攻訐を切望して止まないものであります。

【五】

右の意味に於ける金蔵上の問題とは少しく趣きを異にするのであります。但し大正十二年關東大震災に於ける關東地方の酒造業者の被害、更に次いで奥州後地方に於ける大震災に於て同地方の酒造業者の蒙つた被害は相當に深刻なるものであつたでありませうが、其の當時全國酒造組合聯合會理事が右の被害に鑑み共濟事業に對する必要を力説せられたることを記憶するものであります。

凡そ災害は不慮のものでありまして、何時之れに襲來せらるるか分りませんから、平時に於て之れが對策を講究するを必要とすべく此の意味に於て全國酒造組合聯合會理事の提唱せる共濟事業の意義は甚だ遠なりといふべきであります。殊に全國酒造組合聯合會の

【六】

基礎が、創立以來十數年を閱するも未だ鞏固なるもの少く、號令一下全國酒造界を動かすを得ないといふのは、要するにさうした經濟的方面に於て全國酒造組合聯合會と全國酒造業者との間に緊密なる連鎖のないことに原因するものであらうと思はれますから、將來全國酒造界の健全なる發達と不慮の災害に備へる目的を以て共濟事業の實現の如きは甚だ意義あるものではないかと信ずるのであります。

釀造の全國酒造大會に於て會中より酒造官營の提唱をなすべきことを提唱した人があつたやうに記憶しますが、官營事業を民營より優れりとなすの思想は事業熱に缺乏し、經濟的手腕に乏しきことを曝露したものであつて我國民共通の缺點であるといふことでありま

然し國家の政策として近き將來に酒造を官營たらしめんとする意志あらば別個の問題でありますから、私達は先づ酒造官營を講究するに先んじて、來るべき酒造官營に際して酒造業者としての對策を講らざらんが爲め、今日より相當の調査研究を行ふべしとなすものであります。此の意味に於て全國酒造組合聯合會は、酒造官營に關する調査會を設置して、十分考究を察することは決して將來の爲めに徒爾ではあるまいと信ずるのであります。

以上は斯下の切實なる時期に於ける全國業界に共通する大問題の一部であると信じますから、願はくば來るべき全國酒造大會に於て右の問題に對しても相當審議檢討せらるゝ所があれば、單に私達の滿腹する所であるばかりでなく、全國酒造界並に販賣業界の爲めに

欣喜する次第であります。

一三、釀造販賣兩團體の協調

私達は前各項を通じて主として東京酒類販賣業者の現在と將來を述べ、併せて醸造業者と販賣業者との協調に對する意見をも開陳して來ました。

然しそれはより多く醸造業者と販賣業者との個人的な接觸協調の問題でありまして、醸造業者の團體と、販賣業者の團體とを通じて兩者の間に聯絡協調を執り、之れによつて業者に共通する重大問題の解決に邁進せねばならぬといふ今日の業界として、且つ時勢として、より急速を要し、緊切を

要する問題には多く歸れる所がなかつたやうに思ひます。

唯前項に於て業界に共通する重大問題の檢討と批判を行ひ、之れが解決に關する具體的方法に就ても幾分觸れる所がありました。未だ十分に盡さざるの憾みがありますから、本項に於ては右の重大問題を初めとして、業界に屬する幾多の問題を解決するの先驅として團體的方面に於ける醸造販賣兩業者の協調促進に就て聊か意見を述べてみたいと思ひます。

東京に於ける酒類販賣業界の團體的方面に就ては、寧ろ詳細に失するほど前各項に述べたのであります。凡そ全國に於て酒類の販賣に従事する業者は東京外五大都市を主として全国各地に亘つて其の數凡そ幾萬を數へるか殆んど統計の徴すべきものがあると思ひます。けれども實に驚くべき數に上ること

であらうと思ひます。

【一】

然し酒類販賣業者は全國樞要都市を除く以外は數も少く且つ職業者が少いやうに思はれると共に、綿然たる酒類販賣業者として一區域に於て聯絡の可能性が乏しいと考へられますから、六大都市を中心として其他樞要都市の酒類販賣業者を聯絡するならば、先づ之れを以て全國的の酒類販賣業者の大結成と稱するも異論はあるまいと思ひます。

そこで曩に大阪酒類販賣組合、長吉川伊作氏が主體となり東京以下六大都市同業組合を結合して全國酒類同業組合聯合會なる團體を形造られ創立會を東京に第二回總會を神戸に、第三回總會を來る五月名古屋に開催せられるとの事でありまして、此の全國酒

類商同業組合聯合會の如きは、未だ創立以來日尙淺く内容的に充實せるもの乏しく、殊に最近主張者たる大阪酒類同業組合組長吉川伊作氏は満期退任せられたる等の事故により、目下該會の前途は堪だ暗雲の低迷するものがあるとのことであります。

然し該會は我國酒類販賣業界を打つて一團とする唯一の機關でありまして、該會を除いて六大都市酒類同業組合の協調機關は存在しないのでありますから、私達は之れを目して全國酒類販賣業界を代表する唯一の團體とするものであります。

【III】

言ふまでもなく全國酒造組合聯合會は名實共に全國酒造界を代表する唯一の團體でありまして、凡そ全國酒造界に共通する重大問題

の解決に就ては該會の指示運動に俟つべきものであることは言を要しないのであります。就ては私達の提出する全國醸造業者と全國酒類販賣業者との團體的な協調の促進は、結局右に述べた全國酒類同業組合聯合會との協調にあり、更に約説すれば右兩團體の幹部と幹部との協調提議にあることに歸着するやうと考へるのであります。

然し茲に私達の最も遺憾とする所は東京酒類販賣業界に於ては、曩に詳説した通り全販賣業界を一統したる大同團結機關の存在しない爲めに、全國酒類同業組合聯合會に参加した東京酒類同業組合は、他の五大都市同業組合に比して同屋乃至酒家直營者の中心人物を包含しないといふ點で薄弱なるを免れず、之が爲めに全國酒類同業組合聯合會としてもそ

の活動に際して支障を來すことの少ない状態であるとのことあります。そこで之れを遺憾とした大阪組合の吉川組長は曩に東京酒類同業組合と中央酒類同業組合との中間に立ち、大同團結の促進を極力懇懇せらるゝ所がありました。だが、前述の如く未だ解決を告ぐるに至りませんので従つて今日に於ても該聯合會の運用に難支る所少からざるものがあるものであります。

されば全國酒造組合聯合會と該聯合會との接觸協調も、右の意旨に於て兩者が純然たる全國醸造販賣業界の代表者として事を運ぶ上に於て、幾分阻礙あるものを生ずるに至るといふ事を考慮しなければなりません。

【IV】

故に私達は先づ何よりも最大急務として曩に詳説したやうに東京酒類同業組合と中央酒類同業組合其他の大同團結による純然たる東京酒類販賣業界の團結機關の出現を俟つものであります。而して之が實現の上改めて六大都市の同業組合の結成によりて、從來の齟齬を補ひ、眞に全國酒類販賣業界の代表機關として全國酒造組合聯合會との協調を實現するの日を期待して止まぬものであります。

來る五月十日より東京市に開催せられる全國酒造組合聯合會第十回定時總會は、寔に千載一遇ともいふべき好機會でありまして、此の好機會に於て東京の酒類販賣業界を代表する人々のみならず記の全國酒類同業組合聯合會に屬する六大都市同業組合の代表者が、該總會に臨み、全國酒造界の代表的人物と會して、大いに折衝協調する所あるべきを提唱して止

まぬものであります。

されば私達は東京酒類販賣業界の大同團結に先立つて、來るべき全國酒造大會には東京酒類販賣業界に於ける同屋酒家直營店方面を代表して中央酒類同業聯合會幹部と、仲買小賣方面を代表する東京酒類同業組合幹部が協調して、他の五大都市同業組合代表者と共に、酒造大會に出席し、全國酒類販賣業界を代表する者として大いに全國酒造界代表者と意見の交換を行ひ、以て私達の所謂醸造販賣兩者の協調を促進せられんことを望むものであります。

【V】

殊に中央酒類同業聯合會の如きは來るべき全國酒造大會の開催に先んじて、之れが協賛會を組織せられ、多大の努力と費用を投じて全國酒造界の代表的人物を擁する

に遺憾ならんとすると共に、併せて醸造販賣兩者の親睦と協調を促進せんとするものゝ如くであつて、其の擧措たるや誠に機宜に適せるものとして私達の提唱は能はざる所であります。

されば中央酒類同業聯合會は敢て私達の提唱に俟つまでもなく、全國酒造大會と最も密接な關係に立ち、其の代表者と協調接觸せられるは必然であります。然し其の關係たるや中央酒類同業聯合會個人としての擧措であつて、少くとも東京酒類販賣業界を代表し、又は全國酒類販賣業界を代表するものでない筈でありますから、私達は其の點を甚だ物足らなく思ふものであります。

故に該會は單なる中央酒類同業聯合會としてではなく、東京酒類販賣業界を代表し、更に進んでは全國酒類販賣業界を代表するの意

味に於て東京酒類同業組合幹部乃至五大都市同業組合幹部と行動を共にして、以て全國酒造大會の代表者と折衝し、協調提議を促進せられんことを希望するものであります。

而して右の意味に於ける全國酒類販賣業界の代表者と、全國酒造界の代表者とは、單に定時總會に於て意見を交換するに止まらずして引き續き更に兩者の會合を開催して眞剣に業界に共通する大問題の解決に就て検討せらるゝ所あるべきであらうと思ひます。

【VI】

而して之れが協賛事項に就ては前項に於て私達が提示した業界共通の重大問題を初めとして、刻下緊急の問題は枚擧に遑があるまいとさへ思はれるのであります。以上の如く私達の提唱する醸造

販賣業界の代表的人物が一堂に會して業界の重大問題を議せらるゝことが實現したならば、之れを業界に於けるエポックメイキングな一大機會として、更に茲に全國醸造販賣聯合會の實現をも期待したいと思ふのであります。臆を得て對を望むは人情であります。未だ臆を得ざるに對を望むや嘸ふべしと云ふべきでありませうが、然し若し私達の提唱が實現し得たとして、若し私達に於ける劃期的な機會でありませうから、此の際一舉に全國醸造販賣聯合會に推し進め前項に述べた業界の重大問題を、此の一大聯盟の運動によつて解決したいと思ふのであります。要するに私達の提唱する全國醸造販賣業者の協調團結は、結局全國醸造販賣聯合會の實現によつて解決せられるものでありませうが、然し問題は單に名稱や形式に在り

るのでなく其の内容と活動如何に在るのでありますから、如何なる形式を執らるゝも、全國酒造界の代表者と、全國酒造廠業界の代表者が眞に緊密に協同團結して陛下に危急に與せんとしつゝある全國酒造界の現状を打開し、併せて百年の大計を樹立實行することを得るならば、私達の十分満足する所であります。

一四、結論

(一) 私達は前十三項に就いて東京酒造廠業界の現在と將來に對する觀察を記述し得たと共に、醸造業者と販賣業者との協同促進の急務にも論及し得たことを幾分の満足とするものであります。尤も本文を草するに要した時間は極めて短少であつた爲めに、周到なる用意

を要し以て十分の觀察と検討をなし得なかつたことを遺憾とするものであります。之れが不満足なき將來に於て個々の機會に於て十分に果たし得ることを信ずるものであります。

要するに私達が本文を通じて全國酒造廠業界の代表者と、全國酒造廠業界の代表者に呼びかけやうとした問題は、現在よりもより將來に展開されるべき業界の不安と危機であります。凡そ心ある同業者諸賢はかうした點に就いて深遠な慮りを有せられるであらうと思ひますが、萬一業界が此の現状の儘に推移して、急速に局面の打開を招來し得ないとしたならば其の將來の不安と危機は一層擴大され深刻化されて、遂には最後の破滅に陥没するは火を觀るよりも明かであらうと信ずるのであります。故に私達は速かに現在に於てか

うした業界の不安と危機より脱却して一路坦々たる大道を馳驅して業界百年の安定を獲得し得べき具體的大策を攻死し樹立しやうとするものであることは既に十分説明し得たであらうと思ひます。

(二)

由來我が業界人は、其の多頭しつゝある生活環境からして、自然餘りに現実に流れ、思ひを將來に走せて、深く其の歸趨を洞察するといふ態度に不足するものがあるやうでありまして、其の結果眼前の小利に拘泥し、未來の大利を逸するの憾みなしとなし場合が有りますから、現實に即すると共に一面高遠なる理想の下に自己の生活歸趨を律するの自覚は、最も緊要であると思ひます。私達をして忌憚なく從來の業界人を批判せしむれば、寧ろ其の生

活環境は餘りに刺戟と反應を興へたものであつて、時勢の急激なる進展に對して無關心であり過ぎたと信ずるのであります。

而も最近に至つて業界は殊々に行き詰りの状態を現出するや、勃然として、忘我の境から醒めたる如く、聲を大にして業界の局面打開を叫ぶといふことは、焉んぞ其の醒めることの晩くして、叫ぶことの速かならざりしやと云はざるを得ないのであります。私達は本文に於て主として東京酒造廠業界の現状を記述したものであります。私達をして更に忌憚なく云はしむれば、以上の痛烈なる意味は、より多く東京の酒造廠業界の現状に對するものであります。私達が全國酒造界に對して東京酒造廠業界の現状を紹介しやうとした大部分の意圖は、先づ今日の最大急務として醸造界

方面の積極的な刺戟により、東京酒造廠業界の革新を實現したいといふ點にあるのであります。

(三)

最近獨逸に於て實現せられたるある産業の合理化運動は、世界的に異常なる刺戟を與へつゝあるやうであります。我國に於ても類下最大の急務は特に産業の合理化運動にあるであらうと思ひます。産業の合理化とは要するに個々の業者の個人的行動を團體的に統制し、精神的經濟的の鞏固なる結束によつて、産業の科學的合理的改善を實現するにあると思ひます。であります。かうした産業の合理化運動は、先づ先づして我が醸造廠業界に於て實行せらるべきであらうと思ひます。私達は既に今日の行き詰れる業界の現状に於て、之れを打開して

斯業の振興を策するの大策に就ては、業界人各自の個人的行動では到底實現不可能であると思ふものであります。須らく團體的に一貫した鞏固なる統制の下に共同の財力、精神力を以て科學的合理的改善を敢行するの外には途がないと信ずるものであります。

斯業の振興に於て醸造廠業界を一貫して、斯業の合理化運動を實現するを今日の急務と信ずるのであります。先づ之れが具體的計畫上の成案を得るが爲めに業界先賢者の勸起を俟つや切なるものがあるのであります。

(四)

此の秋に際し我が東京市に於て全國酒造組合聯合會第十五回定期總會の開催せられるといふことは、業界の前途に於て好機といふべきでありまして、此の好機會に於て

全國酒造界の代表者と、全國酒造廠業界の代表者との接觸協同により、斯業の局面打開を策すべき重大問題を攻死討論し、更に全國酒造廠業界の實現を促進すべしといふ問題に就ては既に、前項に於て詳論したのであります。要するに該醸造廠業界の目的も斯業の合理化運動を實現するにあるのであります。單なる抽象的な議論や検討よりも具體的運動に進出して、實際經濟的方面の局面打開に邁進するに於ては、喋々するまでもあるまいと思ひます。

以上本文の全體を通じて私達の提唱せんとする歸趨の目的は、右の如く業界の合理化運動の實現に盡されてゐるのであります。今後私達は之れが具體的計畫と施設に就て眞剣なる攻死の結果速かに成案を得、之れに據つて全業界を擧げて合理化運動に邁進する

にあるのであります。本文全十四項を通じて全國酒造界乃至東京酒造廠業界に對し、個別的には殆んど遺棄する所なく歴史的に、現實的に、幾多の困難を加へましたことは私達として内心慚たるものを感じ得ない次第であります。且つ團體的方面に對しても之れが検討に際しては筆力の赴く所をせずして幾多困難に失するの言辭を弄しましたことは偏に斯業乃至斯業の前途を憂する熱誠の餘りに出でたものであります。すから、かうした過失は切に御諒恕あらんことを祈るものであります。且つ本文に對する大方業界諸賢の御斧正を請はんとするは私達の懇く懇望する所でありまして、願はくば忌憚なき御高教を賜ひ、將來私室操縦者としての歸趨に過誤なからんことを期したいと思ふ次第であります。(一九)

位一第質品

金扇味淋

元寶發造釀
 社會式株造酒津攝
 所張出京東
 番二七〇四・八一〇一花鴻話電

●東京酒問屋組合

- (店名) (所在) (電話)
- 伊坂市右衛門 京橋區南新堀 京橋一三三〇
 - 堀越孝次郎 京橋區北新川 京橋二四四二、〇四六三、三三六六
 - 金星鈴木商店 京橋區南新川 京橋〇八五一、五六二二
 - 鹿島本店 京橋區北新川 京橋四六七四、二二〇九、二六三五
 - 加島屋 京橋區北新川 京橋三六一四、一八八三
 - 中井酒店 京橋區北新川 京橋〇四六〇、〇四六五
 - 山星鈴木商店 京橋區北新川 京橋〇六六七、五七八七
 - 山田五郎助 京橋區南新川 京橋四三一九
 - 丸星鈴木商店 京橋區南新川 京橋〇九六〇、一八二四
 - 株式丸玉商店南店 京橋區南新堀 京橋〇九八八
 - 升本幸太郎 日本橋區南茅場町 茅場町〇九二七
 - 富士本商店 日本橋區南茅場町 茅場町二八七〇、〇六五七、二九七六
 - 株式富士西商店 日本橋區南茅場町 茅場町一三四七、一三四八、一三四九

●東京酒類問屋組合

- 三橋本店 京橋區南新川 京橋三五八八、三五八九
- 說田彦助 京橋區南新堀 京橋三八〇七、三九〇七
- (伊勢傳) 大山正之亮 四谷區南伊賀町 四谷五九二三
- 和田善平 日本橋區穀町一丁目 茅場町二七四八
- 高崎德之助 日本橋區穀町一丁目 茅場町二五八七
- 高原吉藏 京橋區西岸島町 京橋一〇九五
- 內藤才兵衛 京橋區南新堀一丁目 京橋一〇七四五〇一五
- 中澤彦七 京橋區松川町 京橋二、五、九四、九五
- 株式丸玉商店本店 京橋區南新堀一丁目 京橋〇三三二、〇三三三
- 牧原仁兵衛 京橋區南新堀一丁目 〇〇三九、〇三三五、二八九二
- 升本喜衛門 日本橋區蠟燭町一ノ四 茅場町〇六五五
- 小西孝兵衛 京橋區南新堀一丁目 京橋二〇〇番〇六四一
- 平野太郎兵衛 京橋區東津町一丁目 京橋二五五二、三六一七

鈴木由兵衛

芝 櫻田備前町 銀座二六〇八、二六〇九

鈴木新兵衛

神田區旅籠町一丁目 下谷二八六二、二九六二、五〇三七

●甲 東 會

石崎合名會社

東京出張所 日本橋區元大阪町 浪花七九八、〇七九九、四〇三二

花木東京支店

東京支店 神田區連雀町 神田〇四九六、長二七八〇

本丸商店

東京支店 京橋區西新屋町一八 京橋〇九八二、四六一四

嘉納東京支店

東京支店 京橋區越前堀一丁目 京橋一五八七

宅東京出張所

神田區三河町二丁目 神田〇〇七九、二〇三二

山邑酒造株式會社

東京支店 日本橋區吳服町十八日日本橋〇一五七、〇一五八、〇一五九

安福又四郎

東京支店 京橋區北新川 京橋一二四九、二三一五

合名肥塚東京支店

京橋區本材木町三丁目河岸 京橋一三四〇

●更 新 會

六甲商店

京橋區北新川 京橋三二八七

岡村商店

京橋區南新川 京橋一四〇七、一四三六

川島傳之助

京橋區南新川 京橋一六二八

田原權平

京橋區北新川 京橋一九九八

竹野兵之助

京橋區南新川 京橋六九五六、二〇三二

中塾酢店

東京支店 京橋區南新堀一丁目 京橋一五六四、六八七八

野田酒造株式會社

東京支店 日本橋區本材木町 日本橋一七四四

荒井佐五兵衛

日本橋區箱崎町一丁目 茅場町〇三五、一八一四、一九一四

三宅東京支店

東京支店 京橋區本八丁堀三丁目 京橋二〇四二

久星酒造株式會社

芝區露月町一 芝三一九五

●東京醬油問屋組合

中井半三郎

京橋區富島町三 京橋〇五四八

遠山商店

日本橋區南新堀町三 茅場町四二九、一三八四

高梨仁三郎

日本橋區小網町三丁目 茅場町一七二、一七二三

高崎德之助

日本橋區繩敷町一ノ四 茅場町二五八七

升本喜三郎

日本橋區繩敷町二ノ一 茅場町二二七

合名會社 村上商店

日本橋區小網町三丁目 茅場町一三九一、一三九二

中野長兵衛

日本橋區小網町三丁目 茅場町〇五七七、〇五七八、一五五六

蜂須賀與平

日本橋區小網町三丁目 茅場町〇二〇一、〇二〇二、〇二〇三

丸玉商店

京橋區南新堀一丁目 京橋一三七〇、三二七〇

牧原仁兵衛

京橋區南新堀一丁目 京橋〇三三三

株式 森六商店

京橋區南新堀一丁目 京橋一三三三、三六七、七二四、一四四七、一四四八、三六六二

- 株式 加島屋商店 京橋區四日市町二 京橋一八八三、三六一四
- 金星鈴木商店 京橋區銀町二丁目 京橋〇八五一、五六二二
- 鈴木新助 京橋區富島町一ノ橋際 京橋二八八、一五〇八三
- 合名 國分商店 日本橋區通一丁目 日本橋二一七、一〇三七九(2)
- 株式 中條商店 日本橋區繩敷町一ノ四 茅場町二五六、四三七
- 和 田善平 日本橋區繩敷町一ノ四 茅場町二七四八



開祖の 清酒 ハクツル

王冠コルク付栓瓶詰

專賣特許

京橋區歌舞伎座前 段賣元 嘉納合名社東京支店

電話銀座一五八六番

東京市內及
隣接郡部
主要酒類問屋仲買業

●麴町區之部

飯田屋 飯田初三郎 麴町區永田町 電話銀座三二八六番
 木屋 西山德之助 麴町區飯田町 電話九段二二二五番
 三利本店 中條利吉 麴町區三番町 電話九段〇八七五番
 久壽美屋 小谷美太郎 麴町區有樂町 電話銀座三二〇七番
 萬六 渡邊六兵衛 麴町區飯田町 電話九段〇〇八六番
 三浦本店 勝俣彌平 麴町區土手三番町 電話九段〇七四三番
 大和屋 吉田彦四郎 麴町區平河町 電話九段〇六〇四番
 萬藤 高塚藤次郎 麴町區三番町 電話九段一二二七番
 升本 久保寺新吉 麴町區三番町 電話九段一三九七番
 升吉 久保寺吉兵衛 麴町區三番町 電話九段三一四八番

●神田區之部

玉川 伊澤彦太郎 神田區旅籠町 電話下谷四七八〇番
 山城屋 石井金五郎 神田區佐久間町三ノ三七 電話下谷五六九六番
 濱田 喜兵衛 神田區松住町 電話下谷一九五三番
 花木東京支店 神田區連雀町 電話神田〇四九六番
 新久本店 新井久藏 神田區四町九 電話神田〇八四六番
 西宮本店 神田區西今川町七 電話神田〇〇二六番
 淵屋本店 法木安太郎 神田區俣鳥町 電話淺草七二二一
 芳賀東京出張所 神田區松住町 電話下谷三八三〇番
 東陽酒造株式會社 神田區多町一 電話神田〇四六九番
 川口屋 戶澤爲榮 神田區三崎町 電話九段二七四九番

八榮本店 八木彌一郎 神田區豐島町 電話浪花六五一四番
 加 鶴東京支店 神田區錦町三 電話神田四〇三三番
 山口屋 加藤平藏 神田區錦町三 電話神田二〇八一番
 市島屋 角谷音吉 神田區三崎町 電話九段二二三〇番
 立川本店 立川彌重郎 神田區末廣町 電話下谷二二二九番
 旭屋 谷岡義雄 神田區千代田町一四 電話神田一六八六番
 丸越 竹内武平 神田區三河町 電話神田一六六一番
 福屋 園部松次郎 神田區通和石町一 電話神田二七二五番
 鼓屋 南波長次 神田區雄子町 電話神田一七五二番
 小西 栗山藤藏 神田區紺屋町 電話浪花四三九四番
 尾張屋 古橋兼光 神田區路町 電話神田一二五〇番
 小田原本店 小栗義 神田區連雀町 電話神田〇四八九番
 伊勢政 小高政吉 神田區東松下町三二 電話浪花一九七五番
 伊勢 寺田伊右衛門 神田區豐島町 電話浪花七一六九番

關本店 赤尾良治 神田區三河町 電話神田二二三四番
 竹福屋 兩宮梅三 神田區平水町 電話浪花六二六四番
 伊勢權 榊原權四郎 神田區大和町 電話浪花二四八六番
 三浦屋 樋口松造 神田區平河町 電話下谷六一六一番
 山口屋 志村泰 神田區雄子町 電話神田二八九一
 升本 柴田竹三郎 神田區三崎町 電話神田二五五二番
 森本 森本芳之助 神田區佐久間町二ノ一八 電話下谷三三四四番
 榊本屋 森田修三 神田區錦町三 電話神田四〇三三番
 新川屋 笹川清光 神田區豐島町 電話浪花六三三三番
 總本店 銚子屋本店 菅澤爲吉 神田區岩本町 電話浪花四八二〇番
 尾河原 鈴木孫七 神田區田代町 電話下谷〇六九八番
 榊原 鈴木紋次郎 神田區松住町 電話下谷〇六四〇番

●日本橋區之部

伊勢藤 伊藤々吉 日本橋區濱町 電話浪花七〇九五番

磯川喜三郎 日本橋區濱町 電話浪花三八八八番
 飯田元四郎 日本橋區箱崎 電話茅場町二二三三番
 いさか 新堀忠藏 日本橋區箱崎 電話茅場町〇五六番
 西浦屋 西浦林兵衛 日本橋區本石 電話日本橋三五一一〇番
 御屋 保坂亭之丞 日本橋區北島 電話茅場町一四二五番
 伊勢兼 別府正治 日本橋區濱町 電話浪花〇七四四番
 大彦 大井彦藏 日本橋區濱町 電話浪花五五二二番
 入幡屋 渡邊勝次郎 日本橋區馬喰 電話浪花〇三九七番
 服部 河西善三 日本橋區大傳馬町二ノ四 電話浪花〇五〇七番
 吉良屋 吉田隆德 日本橋區藥研堀町二ノ二 電話浪花四一六五番
 立入金三郎 日本橋區鏡砲町二ノ四 電話浪花六九七五番
 辰口平作 日本橋區龜殼町一ノ四 電話茅場町二六〇九番
 辰巳屋會社 日本橋區小網町三ノ二 電話茅場町五五四番
 水村屋 築地愛助 日本橋區小網町四ノ三 電話茅場町〇五〇四番

三河屋 中井兼吉 日本橋區上槇町四 電話日本橋三〇五二番
 千兩野木東京支店 日本橋區小網町三ノ二八 電話茅場町九一一番
 近江屋 栗田定吉 日本橋區本銀町二ノ〇 電話日本橋二八一五番
 鈴木屋 山岸嘉七 日本橋區米澤町一ノ九 電話浪花〇〇五七番
 合資社 增木酒店 日本橋區箱崎町四ノ一 電話京橋六三八五番
 町田廣吉 日本橋區瀨戶物町一七 電話日本橋二六五四番
 松野松三郎 日本橋區南茅場町五九 電話茅場町〇八九七番
 小山仁助 日本橋區龜殼町二ノ一 電話茅場町二六五七番
 小西 淺輪茂兵衛 日本橋區浪花町二 電話浪花四〇三六番
 松坂屋 宮下市藏 日本橋區濱町一ノ一八 電話浪花七七四七番
 島村德次郎 日本橋區新和泉町六 電話浪花〇四八四番
 二宮要也 日本橋區箱崎町二ノ七 電話茅場町一六五〇番
 森本芳兵衛 日本橋區新設町七 電話浪花〇八六〇番
 伊勢兼 杉山福太郎 日本橋區龜殼町二ノ一匹 電話茅場町三三〇九番

末賣元 新城猪之吉 日本橋區木村 電話浪花三三二八番

●京橋區之部

今田東京支店 今田金三 京橋區長崎町一ノ六 電話京橋七六七二番
 大星 星野義四郎 京橋區新佃西町二ノ一二 電話京橋 八六二番
 越前屋 德居清吉 京橋區銀町一ノ二 電話京橋二三九八番
 併大久保久右衛門 京橋區南傳馬町二ノ九 電話京橋一六一四番
 合資社 川島商店 京橋區長澤町六 電話京橋五三一五番
 合資社 梶谷商店 京橋區南八丁堀三ノ五 電話京橋二六九二番
 靜岡屋 陰山金五郎 京橋區東海町一ノ二〇 電話京橋六四七八番
 酒類問屋 磯川信一商店 京橋區豐岸島町一 電話京橋一七七八番
 酒類問屋 影山治右衛門 京橋區南新堀二 電話京橋一二八四番
 酒類問屋 程田松藏商店 京橋區南新堀一 電話京橋三四一四番
 河東商店 京橋區川口町 電話京橋二二九六番
 酒類問屋 金子虎之助 京橋區北新川 電話京橋二二九六番

醬油問屋 小泉安五郎 京橋區北新川 電話京橋一四四九番

吉良屋 吉田甚五郎 京橋區木地町九ノ七 電話銀座〇三五五番
 吉良甚 吉田喜三郎 京橋區南銀治町二 電話京橋二三二五番
 酒類問屋 竹野兵之助支店 京橋區入舟町五ノ二 電話京橋 九三六番
 酒屋 武智勇助 京橋區水谷町三 電話京橋一九五四番
 中島屋 中島和助 京橋區松屋町二ノ一 電話京橋二六三一番
 村山乙松 京橋區新湊町三ノ一 電話京橋 四三五番
 布屋 上野久一郎 京橋區越前堀一ノ一〇 電話京橋二九五九番
 會出東京支店 倉田早太郎 京橋區本材木町三ノ目河岸二番地 電話京橋一〇四四番
 酒類問屋 倉石儀助商店 京橋區北新川 電話京橋一〇四四番
 合資社 藤木商店 京橋區銀座四ノ一七 電話京橋一〇九四番
 吾藤與之吉 京橋區銀町一ノ七 電話京橋六九五三番
 山陽一酒造株式會社 京橋區本湊町二七 電話京橋二二七

大和屋 坂田安太郎 京橋區岸島 電話京橋一六二二番
 松野屋 酒井廣吉 京橋區岡崎町 電話京橋三〇一四番
 池田屋 遠藤傳吉 京橋區八丁堀 電話京橋一七五四番
 永島町一三
 日屋鹽崎東京支店 京橋區本町 電話京橋二九三二番
 一ノ一四
 久家日名子長次郎 京橋區藤町一 電話京橋 七六九番
 一
 株式會社 柴田幸三郎 京橋區五郎兵衛町二〇 電話京橋一五六八番
 三〇三二番
 酒類須賀英一商店 京橋區南新堀 電話京橋 四〇四番
 二ノ五
 三河屋 鈴木吉太郎 京橋區本町二 電話京橋四七二九番
 二

●芝區之部

三河屋 井口豊次郎 芝區芝口三ノ 電話銀座二四三三番
 十一
 石川屋 田中弘造 芝區白金三光 電話高輪五四〇九番
 町二〇二
 萬豐 春川幹雄 芝區高輪 電話高輪三七五九番
 四六
 荻君城 芝區田村町三 電話芝 一四五六番
 上田屋 西山與藏 芝區白金志田 電話高輪五八五三番
 町五

山屋保木六右衛門 芝區彌松町一 電話芝 三二二五番
 一五
 大和屋 太田源四郎 芝區片門町 電話芝 一三四九番
 二ノ六
 中野小田切三五郎 芝區白金臺町 電話高輪一五七六番
 一ノ三〇
 加田村 岡野五兵衛 芝區高輪車町 電話高輪一三五三番
 四〇
 山屋 奧村庄三郎 芝區翠平町二 電話芝 一六七七番
 芝區金杉町一 電話高輪三六一五番
 一八
 三原 尾田源兵衛 芝區芝浦二ノ 電話高輪三四〇二番
 三
 大友本店 渡邊友次郎 芝區神田町八 電話芝 一八六八番
 三河屋 塚利右衛門 芝區神田町八 電話芝 一八六八番
 株式會社 加藤金之助 芝區田町九ノ 電話高輪〇〇八六番
 六
 尾張屋 河合庄太郎 芝區三田四國 電話高輪二四三九番
 町二ノ三
 耕屋 谷島太勝 芝區白金臺町 電話高輪二三九六番
 二ノ六〇
 山屋 村田八郎 芝區翠平町十 電話芝 一三三六番
 二
 合資會社 村山恒太郎 芝區三田同朋 電話高輪二二四二番
 町一七
 村山商店 村山恒太郎 芝區三田同朋 電話高輪二二四二番
 町一七
 松木屋 村田愛助 芝區彌松町二 電話芝 一四五四番
 九

●麻布區之部

吉良屋 内海重藏 芝區南佐久間 電話芝三一一九番
 町二ノ一〇
 内田屋 内田由松 芝區本芝一ノ 電話高輪四二一五番
 一〇
 升德屋 久保田義則 芝區烏森町四 電話銀座二七三〇番
 山屋 桑島德藏 芝區本芝二ノ 電話高輪二九八五番
 一五
 三河屋 八木澤春吉 芝區白金塔町 電話高輪三〇六三番
 七六
 間島酒店 間島信雄 芝區三田一ノ 電話高輪一一三三番
 七
 伊勢一 松原一郎次 芝區白金志田 電話高輪六四七四番
 町五
 升本 小島太一 芝區白金塔町 電話高輪七一三番
 二
 四方 東彦太郎 芝區芝口三ノ 電話銀座八二七番
 十四
 新川屋 網島春吉 芝區南佐久間 電話芝二〇八九番
 町二ノ六
 三河屋 酒井庄左衛門 芝區西久保八 電話芝一七六二番
 橋町一
 櫻井久次郎 芝區松本町四 電話高輪三六三九番
 四方 佐久間恒太郎 芝區通新町二 電話高輪三七一九番
 〇
 葛屋 木下佐市 芝區愛宕下町 電話芝二四三六番
 一ノ二

藤屋 眞田政義 芝區白金三光 電話高輪六六一七番
 町一九
 池邊下阿邊里吉 芝區源町一 電話芝一八七一番
 五
 東屋 今井龜太郎 麻布區錢市兵衛 電話青山五六五一番
 町二ノ三九
 阿波屋 西崎謙三 新網町二ノ二 電話青山二八一三番
 五五〇六番
 金丸 金丸九一 麻布區六本木 電話青山五三〇〇番
 町一七
 鹿島利佐平 麻布區今井町 電話青山一二五五番
 二
 相六 橫山清次郎 麻布區田島町 電話高輪七三三四番
 一七
 耕理 谷島蓮吉 麻布區南日ヶ 電話青山三一四七番
 町七
 鶴屋 永田猛 麻布區新網町 電話青山六七五〇番
 二ノ九
 萬六 古田島久藏 麻布區宮村町 電話青山三一七五番
 五
 三河屋 小林辨作 麻布區辨町一 電話青山五三四二番
 一〇
 相松商店 麻布區北日ヶ 電話青山三〇三四番
 窪町

●赤坂區之部

日野屋 猪瀬平助 赤坂區青山北 電話青山一五五六番
 町四ノ四一
 吉田屋 吉田亦次郎 赤坂區傳馬町 電話青山五二七五番
 二ノ一
 丹波屋 德田久次郎 赤坂區田町六 電話青山五六九三番
 本店
 本屋 米山孝一 赤坂區新阪町 電話青山五四〇三番
 七二
 越前屋 田中積次郎 赤坂區池町 電話青山五〇五六番
 四〇
 四方 山田千松 赤坂區田町四 電話青山五〇五六番
 二〇
 ●四谷區之部
 鈴傳 磯野寅吉 四谷區傳馬町 電話四谷五九二三番
 一ノ三三
 林久吉東京支店 四谷區鹽町一 電話四谷三七三五番
 一〇一
 玉川 西村太吉 四谷區鹽町二 電話四谷二七一六番
 一〇九
 株式加島屋出張所 四谷區傳馬町 電話四谷二六二二番
 一ノ七
 升吉 檜原要次郎 四谷區新宿三 電話四谷二二六八番
 一〇七
 池常 高橋常三郎 四谷區内藤町 電話四谷二六六一番
 八七

近江屋 竹村金次郎 四谷區新宿一 電話四谷二九六三番
一七三

小島九兵衛 四谷區新宿三 電話四谷一七一一番
一五一

丸玉商店新宿出張所 四谷區新宿道 電話四谷〇四八六番
分

●牛込區之部

伊勢宗 石森宗一 牛込區早稲田 電話牛込二九七七番
鶴卷町一一一
 萬長 馬場英之助 牛込區有町六 電話牛込〇六六九番
 三河屋 太田吉兵衛 牛込區津久戸 電話牛込二二三六番
 町二〇
 菱屋 大崎乙平 牛込區改代町 電話牛込〇一〇三番
 一六
 大川屋 大川鑛三郎 牛込區市ヶ谷 電話四谷三七四九番
 谷町八五
 升本屋 唐澤熊治郎 牛込區矢來町 電話牛込一三九一番
 一三
 中升商店 勝田喜三郎 牛込區揚場町 電話牛込一〇一二番
 六
 升本 川面猶平 牛込區市ヶ谷 電話四谷四九一七番
 余丁町六四
 角屋 吉岡圓市 牛込區原町一 電話牛込〇六四一番
 一〇二
 小倉屋 栗林靜助 牛込區馬場下 電話牛込一三七六番
 町三

記ノ町屋 栗田房吉 牛込區市ヶ谷 電話牛込二一五六番
佐内町三八

升喜 升本庄吉 牛込區神樂町 電話牛込〇六五四番
一ノ十四

甲州 隆矢虎馬之甫 牛込區船河原 電話牛込二四八二番
町一二

小松傳語 牛込區神樂町 電話牛込二一一〇番
一ノ一
中信正宗出張所

升 鑓 宮地鍵三郎 牛込區田町二 電話牛込四一七八番
二

水島賣場 水島貞次 牛込區田町三 電話牛込三二二三番
四

大津屋 宮坂忠亮 牛込區山吹町 電話牛込三八四五番
二六〇

三孝商店 森 峰吉 牛込區橋本町 電話牛込二一一八番
二三

小西 須田保三 牛込區早稲田 電話牛込二六六六番
鶴卷町一〇〇

●小石川區之部

升高 新倉高藏 小石川區金富 電話小石川二四三三番
町五三
 加賀屋 新山政右衛門 小石川區丸山 電話大塚二五五二番
町十一
 本店 岡部源吉 小石川區大塚 電話小石川二〇七九番
町
 本店 岡本弘 小石川區指ヶ 電話小石川六二二番
谷町一三〇

合名 大塚東京支店 小石川區大塚 電話小石川三六二二番
仲町四一

三河屋 中瀬 藤助 小石川區小日 電話小石川二六三三番
向水道町

三河屋 藤原 音吉 小石川區八千 電話小石川七三四番
代町

萬屋 澤田金三郎 小石川區表町 電話小石川一四五一番
十番

北川 作一 一郎 小石川區戸崎 電話小石川二五四番
町

三河屋 三ツ矢民治郎 小石川區香羽 電話牛込一九六三番
町九丁目

尾張屋 田島竹次郎 小石川區江戸 電話小石川 五一九番
川町一

●本郷區之部

一色屋 石川仁市 本郷區湯島大 電話下谷二九五七番
餅町二ノ三〇
 川上屋 萩野和四郎 本郷區西須賀 電話小石川七七一三番
町九
 大貫 大貫庸治 本郷區根津八 電話下谷一八五七番
罪垣町三七
 合資會社高崎 渡邊仲藏 本郷區駒込東 電話小石川八三三番
屋商店代表者 片町八
 三河屋 竹中友太 本郷區元町二 電話小石川 四八八番
本店 一六六
 關根 仲司 本郷區柴染町 電話下谷五二八八番
七

●下谷區之部

乃喜號 井上捨次郎 下谷區入谷町 電話下谷九〇三番
 合資會社坂石野專次郎 下谷區竹町十 電話下谷六九三番
 上東京支店 本間吉藏 下谷區谷中初 電話下谷一三八二番
 本店 越後屋 下谷區竹町一 電話下谷一五〇五番
 富山號 富山寅吉 下谷區竹町一 電話下谷一五〇五番
 大塚支店 岡準 下谷區御徒町 電話下谷一六六〇番
 荒井屋 友吉五三郎 下谷區入谷町 電話下谷三六五六番
 本店 三十一 下谷區入谷町 電話下谷三六五六番
 東京出張所 掛川巖 下谷區御徒町 電話下谷二四八番
 金子屋 金子九藏 下谷區龍泉寺 電話淺草一二六番
 川上支店 川上又三郎 下谷區龍泉寺 電話淺草四七八番
 兼古恒吉 下谷區竹町十 電話下谷一七八八番
 東京支店 御影酒造 下谷區萬年町 電話下谷六四五一番
 株式會社 吉澤利三郎 下谷區萬年町 電話下谷六四五一番
 大石屋 吉原淺治 下谷區御徒町 電話下谷四二二八番
 一ノ五三 下谷區竹町一 電話下谷一五五一番
 横堀德三郎 下谷區竹町一 電話下谷一五五一番

株式會社 高橋商店 下谷區練堀町 電話下谷五四六番
 足立屋 瀧澤芳樓 下谷區谷中眞 電話下谷六四二七番
 本屋 中村兵左衛門 下谷區池之端 電話下谷三三四番
 仲町二六 下谷區練堀町 電話下谷三三四番
 森乃翠 村井保 下谷區練堀町 電話下谷三三四番
 山崎寬一 下谷區坂本町 電話下谷二二二番
 四二三 下谷區竹町一 電話下谷四三三五番
 東京支店 福原敏雄 下谷區竹町一 電話下谷三三〇七番
 美濃屋 小林商店 下谷區金杉上 電話下谷三五〇七番
 本店 小泉齋市 下谷區上根岸 電話下谷五九六番
 町一三一 下谷區御徒町 電話下谷二三四番
 小西 淺輪利吉 下谷區御徒町 電話下谷二三四番
 三ノ一五 下谷區入谷町 電話下谷六〇一四番
 伊勢元 有馬元治郎 下谷區入谷町 電話下谷六〇一四番
 本店 坂井清七 下谷區金杉上 電話下谷四一三六番
 町七七 下谷區谷中上 電話下谷一七六八番
 伊勢五 篠田六松 三崎町三三 電話下谷二五五七番
 水上 水上德治 下谷區入谷町 電話下谷三七一八番
 二二九 下谷區數寄町 電話下谷四一三三番
 三河屋 守山翁助 下谷區數寄町 電話下谷四一三三番

鈴木康之亮 下谷區上野櫻 電話下谷七三五七番
木町三三

●淺草區之部

池田增之進 淺草區森下町 電話淺草三五五一番
 東京支店 伊藤茂兵衛 淺草區七軒町 電話淺草五〇七八番
 池田屋 稻垣市兵衛 淺草區新福富 電話淺草一一〇番一
 本店 石田勝之助 淺草區馬道町 電話淺草五二二七番
 中龜屋 喜一 淺草區向柳原 電話淺草四九一七番
 東京酒類 合資會社 大久保慶一 淺草區地方今 電話淺草五二二七番
 町一ノ一七 高崎屋 小金澤昇作 淺草區北三筋 電話淺草三六六一番
 本店 大久保久五郎 淺草區千束町 電話淺草三六六一番
 三ノ六 相模屋 恩田金次郎 淺草區北田原 電話淺草二七五三番
 町四 萬久 太田久七 淺草區馬道町 電話淺草三一七番
 四ノ二二 三河屋 奥村大吾 淺草區田原町 電話淺草二七七九番
 一ノ七 渡邊芳五郎 淺草區北三筋 電話淺草四〇九七番
 町六〇

山屋本店 渡邊寬五郎 淺草區茶屋町 電話淺草自三五三四
 二 鶴屋本店 渡邊新次郎 淺草區橋場町 電話淺草六三九番
 一〇二 榊屋 梶野政吉 淺草區千束町 電話淺草二五三六番
 二ノ三九四 加島本店 加島十兵衛 淺草區茅町二 電話淺草四〇五五番
 一ノ二九 玉川本店 高橋篤 淺草區北元町 電話淺草一四九七番
 八 御野 土師野菊五郎 淺草區松葉町 電話淺草三六五二番
 二 中村屋 中村儀助 淺草區千束町 電話淺草三四五三番
 二ノ三四 三河屋 諸橋彥八 淺草區元鳥越 電話淺草四一五〇番
 町三三 升屋 村越昇治 淺草區山谷町 電話淺草三六七二番
 一六 岐屋 野々村延太郎 淺草區聖天橋 電話淺草七八四番
 町七 倉酒店 倉島恒太郎 淺草區材木町 電話淺草二六四〇番
 四六 近江屋 矢野清三郎 淺草區西鳥越 電話淺草七〇一九番
 町三 山中 兵右衛門 淺草區三好町 電話淺草三三九六番
 八 伊勢屋 古平幸太郎 淺草區茅町二 電話淺草四八七〇番
 一ノ九

古居合資會社

- 淺草區馬道町 電話淺草七四一 番
- 三島屋 高橋辰次 淺草區馬道町 電話淺草七三一 番
- 有馬屋 福田儀三郎 淺草區田町一 電話淺草九八四 番
- 三由 福田太郎 右衛門 淺草區淺草町 電話淺草一六九 八番
- 味喰店 小林久平 淺草區向柳原 電話淺草 六 番
- 黒田屋 小池源次郎 淺草區馬道町 電話淺草七一 番
- 小川屋 小島惣次郎 淺草區千束町 電話淺草三一 六〇番
- 小川屋 小川景久 淺草區淺草町 電話淺草八六 五番
- 小林章二 淺草區新福 電話淺草三四 九三番
- 小金屋 油原佐兵衛 淺草區北洲島 電話下谷四 三八番
- 有馬屋 有馬信太郎 淺草區千束町 電話淺草一八 二八番
- 三河屋 本橋利兵衛 淺草區象潟町 電話淺草一六 一五番
- 伊豆 齋藤安右衛門 淺草區材木町 電話淺草〇一 三六番
- 安 齋藤連子 淺草區吉野町 電話淺草三四 一五番

石川屋 齋藤幸次郎

- 淺草區新吉原 電話淺草二〇〇 番
- 齋藤鐵治郎 淺草區山谷町 電話淺草五四 二三番
- 小松屋 木邊養平 淺草區今戸町 電話淺草二四 六二番
- 岩間造酒之介 淺草區田中町 電話淺草三八 五五番
- 宮川鶴次郎 淺草區芝崎町 電話淺草一九 三一番
- 大津屋 宮坂忠亮 淺草區十束町 電話淺草三三 一四番
- 宮崎商店 宮崎武治 淺草區北三筋 電話淺草六七 六五番
- 小島屋 澁谷文太郎 淺草區田原町 電話淺草一五 〇九番
- 芝本 芝本常吉 淺草區吉野町 電話淺草九六 四番
- 木屋 森田柁藏 淺草區馬道三 電話淺草六六 一六番
- 鈴木木彦助 淺草區永住町 電話淺草七六 〇番
- 鈴木屋 鈴木正治 淺草區千束町 電話淺草七六 〇番

●本所區之部

- 市木商店 市木芳次郎 本所區吉田町 電話田一〇〇 七番
- 萬屋 市原憲三 本所區相生町 電話本所三五 三七番
- 小西本店 石黒民五郎 本所區石原町 電話田四六四 〇番
- 西齋酒店 西村道三 本所區相生町 電話本所三四 一五番
- 東京出張 田渡茂樹 本所區外手町 電話田六〇二 番
- 遠藤支店 遠藤貞造 本所區外手町 電話田六〇二 番
- 豐尾屋 大谷米太郎 本所區小泉町 電話本所三四 五八番
- 野中屋 落合助治 本所區中ノ郷 電話田一一 八八番
- 豐田屋 加瀬勇次 本所區中ノ郷 電話田一一 八八番
- 木龜井七郎 右衛門 本所區北二葉 電話田三三二 二番
- 加瀨政本店 加瀨政吉 本所區橫川町 電話田〇七二 五番
- 吉田屋 吉田鉾次郎 本所區向島須 電話田一一 七五番
- 清水屋 塚田伊之吉 本所區太平町 電話田五一 四八番
- 美濃屋 長繩由次郎 本所區松代町 電話本所三八 九二番

- 知多屋 村田商店 本所區外手町 電話田〇二九 九番
- 天端屋 上野金太郎 本所區菊川町 電話本所三八 八番
- 大野屋 栗原伊勢治 本所區向島須 電話田二八〇 〇番
- 藤屋 山本藤太郎 本所區新小梅 電話田二二〇 二番
- 吉田屋 山田繁藏 本所區押上町 電話田〇五六 四番
- 小林商店 本所區相生町 電話本所二〇 六四番
- 中屋 小島勇一 本所區南二葉 電話田四三〇 一 番
- 丸一 安達徳一 本所區向島中 電話田一七二 九番
- 近江屋 澤村元吉 本所區外手町 電話田一三二 五番
- 酒井榮次 本所區綠町四 電話本所三三 二六番
- 金湖 阪上酒造支店 本所區網町 電話田一〇〇 四番
- 新川屋 佐々木美光 本所區林町二 電話本所一五 七九番
- 木村屋 木村藤吉 本所區中ノ郷 電話田〇六 九二番
- 圓城寺 清四郎 本所區太平町 電話田五二二 四番

伊勢彦 都築彦三郎 本所區柳島橋 電話田三七二五番
 本店 川町一四八
愛知屋 水野龜之助 本所區橋町二 電本所六〇五五番
 本所區橋町二
山城屋 宮崎達夫 本所區押上町 電話田一四三九番
 本所區押上町
下總屋 鈴木不二 本所區向島小 電話田一四六二番
 梅町一八四
吉田屋 平野隆助 本所區小泉町 電本所一四四七番
 三五
盛川東京出張所 本所區外手町 電本所一七九三番
 四六
大星餅店 鈴木金作 本所區總右衛門 電本所一七九三番
 門町二〇
大倉屋 杉浦倉次郎 本所區柳原町 電本所三一七三番
 二ノ五二
● 深川區之部
山城屋 新谷佐太郎 深川區木場町 電本所一八六七番
 二二
大石 太田謙治 深川區富川町 電本所一〇二二番
 二一
上總屋 金澤久藏 深川區木場町 電本所一四〇四番
 三〇
大野屋 津谷治助 深川區野町一 電本所一〇三六番
 八四 電本所〇五七四番

大野屋 津谷一治郎 深川區熊井町 電本所三四四四番
中井屋 中井堅助 深川區門前河 電本所四六一六番
 岸三號地
港屋 内山喜三郎 深川區蛤町二 電本所一六三九番
 三
柳屋 松崎吉三 深川區仲大工 電本所二六四四番
 町九 電本所二七二九番
越前屋 藤井七兵衛 深川區野岸町 電本所四四六八番
 三
加賀屋 越村辰三郎 深川區元加賀 電本所五四二五番
 町五
田口屋 青木常次郎 深川區東六間 電本所二二九四番
 堀町一
和泉屋 柳原正雄 深川區野岸町 電本所四四一二番
 一六九
山城屋 宮崎宇之助 深川區門前東 電本所六一六番
 仲町八 電本所〇五七一番
富士 宮下知一郎 深川區一色町 電本所三九七六番
 一
竹中 瀨川吉次郎 深川區熊井町 電本所四一六三番
 八
合資會社豊田 鈴木平兵衛 深川區西森下 電本所四七八〇番
 酒店代名者 町三五

● 荏原郡之部

角屋 石原一 蒲田町女塚三 電話蒲田二二二番
 六二
榊久 和泉久太郎 北品川宿七四 電話高輪八二番
森田屋 萩原又藏 大井町鐘ヶ淵 電話高輪三〇八二番
 三六四一 電話大森一〇五二番
岡野由次郎 北品川宿二〇 電話高輪一五四番
岡田祐輔 大井町鹿島谷 電話大森七一六番
 三〇五五
三國 尾田國三郎 南品川宿三五 電話高輪一七六一番
升由 和泉由兵衛 南品川宿一四 電話高輪一八五三番
須田屋 和田音吉 南品川一五一 電話高輪四五〇九番
 七
株式會社 加藤金之助 在原郡大崎町 電話高輪六〇三番
 下大崎二八六
田中屋 田中邨吉 大森入新井町 電話大森五四三番
 新井宿三九
猶場金次郎 在原郡大崎町 電話高輪五三八番
 榊ヶ谷二九五
津多屋 直井專之助 大井町倉田三 電話大森四〇九番
 三三三
港屋 村田東平 在原郡在原町 電話高輪二四九七番
 中延五八
須田屋 佐藤藤五郎 南品川宿七丁 電話高輪五七七〇番
 目
三晴 北田晴康 在原郡大崎町 電話高輪四二四一番
 上大崎六〇
荏原商事株式會社 南品川四ノ四 電話高輪六六六九番
 〇五

● 豐多摩郡之部
三河屋 伊藤木治郎 淀橋町角管六 電四谷一八六一番
 四一
水野屋 今宮善太郎 淀橋町角管八 電四谷四一〇二番
 七九
加丸屋 岩本阿三郎 淀橋町柏木一 電話四谷八四六番
 二二
本店 飯田朝明 大久保町西大 電四谷一九一〇番
 久保五一七
稻毛屋 本角市 澁谷町廣尾三 電話高輪七四八八番
 〇
橋 本角市 千駄ヶ谷藤田 電青山一六八八番
 一一二
春田大藏 淀橋町角管七 電話四谷三三三二番
 三四
上總屋 栃木富藏 淀橋町角管七 電話四谷三三三二番
 三四
株式會社 栃木富藏 東京出張所 電話四谷二二一五番
 近江屋酒造 三四
三河屋 太田松一 大久保町東大 電四谷二二八九番
 久保四三四

丹波屋 大場柄二 澁谷町中澁谷 電青山二〇一七番
 荒東 金森四郎 澁谷町宮益町 電話青山四〇九番
 合資 中屋商店 澁谷町中澁谷 電話青山四六九番
 萬屋 中山尙親 中野町二五七 電話中野五八番
 費島屋 宇田川濱吉 落合町下落合 電牛込二九四五番
 鶴屋 宇田川龜之丞 落合町下落合 電牛込四二五一番
 黒澤部 黒澤徳三郎 千駄ヶ谷町八 電話四谷五六七番
 東京支店 澁谷町下澁谷 電話四谷一六〇番
 麻岡與吉 澁谷町角管八 電四谷一六五八番
 小西 佐藤友四郎 澁谷町角管六 電話四谷一六〇番
 北澤 洪次 澁谷町角管六 電話四谷一六〇番
 宮地莊一郎 澁谷町角管六 電話四谷一六〇番
 鹽野長作 杉並町馬橋一 電話中野二二五番
 和田力藏 世田ヶ谷六子 電話世田谷二二一五番
 北豊島郡之部
 今成眞吉 集町宮下 電大塚二七五〇番
 八六五

三引 石井弘作 西巢鴨町池袋 電大塚二〇一三番
 石塚正次 東京府板橋町 電話板橋六十七番
 和泉屋 橋爪藤太郎 東京府雜司ヶ 電牛込四二八〇番
 藤屋 細野仁左衛門 王子町豊島一 七〇
 豊島屋酒店 東京市外落合 電牛込二九四五番
 清正 沖田徳兵衛 東京府下岩淵 電話赤羽一六番
 折原耕次郎 東京府豊島一 電大塚二二四九番
 足立 大井川長兵衛 王子町王子四 電話王子五七四番
 岡本店 岡本武治 西巢鴨町宮下 電話大塚七二二番
 田中屋 川又源一郎 府下西巢鴨町 電話大塚二二六番
 梶宮味噌店 東京市外落合 電話王子二五六番
 伊勢孫 横田米吉 東京府豊島三 電話大塚二五七番
 三孫 吉村孫次 市外西巢鴨町 電話大塚八三七番
 上田甚太郎 市外王子町 電話王子三一〇番
 梅澤兵藏 府下上板橋四 五三二
 栗林善次郎 府下日暮里驛 電下谷五九九番
 九善

足立屋 瀧澤石男 瀧野川町一九 電小石川長五三九
 本店 八二 六番板橋七十六番
 竹内酒造店 東京府赤塚村 電話白子八番
 成増四九 替東京一四八七番
 高田友太郎 西巢鴨町庚申 電大塚一三一八番
 塚本長藏 東京東郷町三 電大塚一四七二番
 内田屋 名護由松 瀧ノ川町瀧の 電話王子 四七番
 川西ヶ原九五三
 足立屋 矢部候坪 西巢鴨町池袋 電大塚二五六一番
 八五六
 日吉屋 越智璋 巢鴨町平松町 一四三三
 源屋 越部甲次郎 瀧ノ川町野町一 電話王子二五五番
 一三六
 安武清藏 東京巢鴨町一 電大塚一三六六番
 ノ八六
 足立屋本店 東京府王子町 電話王子三七四番
 増田佐久間 巢鴨町巢鴨一 電話大塚六八四番
 ノ一
 岸野忠次郎 西巢鴨町池袋 電大塚二五四四番
 九一〇
 伊勢才 森田才市 巢鴨町折戸九 電大塚一七四一番
 九〇
 森田善太郎 府外山手線板 電話大塚五二七番
 橋本
 森島商店 森島元次郎 日暮里町九九 電下谷二四二八番
 一
 伊勢屋 鈴木増次郎 王子町王十五 電話王子一五六番
 本店 〇五

花白酒 河合欣三郎 千住町北千住 電長淺草二六四番
 醸造元 〇 南千住町八四 電淺草一二四五番
 柴田酒舖 笠井定次郎 〇 南千住町通新 電淺草五二五七番
 町二二
 高橋末吉 南千住町千住 電話淺草二七八番
 南八八
 内田市松 南千住町中組三 電話千住一三七番
 五五
 増田宗太郎 南千住通新町 電話淺草四二五番
 四九
 大廣屋 小林房太郎 府下千住町二 電話千住一三三番
 ノ二
 白根商店 府下千住町中組八 電話千住二四六番
 三三
 鈴木重左衛門 千住町四丁目 電話千住四〇番
 四十一番地
 増田屋 近野常藏 千住町四丁目 電話千住四〇番
 南葛飾郡之部
 増田源藏 大島町三ノ八 電本所三五五八番
 七
 松岡直喜 府下小松川町 電話田三三九四番
 中平井
 山田屋 齋藤清太郎 府下鶴戸町一 電話田四三〇二番
 丁目四五
 倉島 高梨平吉 龜戸町三ノ九 電話墨田四七四番
 〇
 要屋 常樂要吉 龜戸町六ノ一 電話田四八八三番
 〇
 小川屋 小川長治郎 寺島町船通 電話田四二六九番
 二九三一

●南足立郡之部

帝都酒界の偉觀 「日本盛」富士本商店

社釀代表飛切の聲價

◆第一の酒造會社として且つ本邦屈指の大醸造業者として定評ある西宮酒造株式會社が代表飛切「日本盛」は帝都に於ける最高の聲價と加鞭を扶植し、新時代の衆衆的高級酒とも稱すべき新使命の開拓に最も華々しい活躍を遂げてゐる。由來醸は百來から江戸權と稱して東京出しを主とする酒造業が多かつたが、中西宮酒造株式會社は創立以來社是として東京向きの吟醸酒を醸出することに苦心努力せられた結果今や社釀代表飛切「日本盛」は東京を中心とする關東の嗜好を代表する優良酒として、其の地盤の廣汎にして聲價の偉大なる、殆んど他に比肩するものを見ないものである。



新装成る富士本商店の偉容

◆富士本商店は「日本盛」並に「鳳凰白雪」の聲價店として、今日「日本盛」が帝都酒界に偉大な

る聲價を扶植するに至つた原動力をなすものであり、兼ねて「鳳凰白雪」の今日あるも亦同店の活躍によるものである。同店は實に享保二年伊丹の宮家小西本家によつて創始せられ、爾來より酒問屋の重鎮として噴々の令名あり、明治に入つては東京酒問屋組合の中心勢力として、常に問屋の牛耳を握り其の共存共榮に努力せられたること實に二百數十年の長きに亘つてゐる。

◆富士本商店の代表者として經營の中樞人物を支應人八尾彬之助氏とする。

氏は帝都酒界の重鎮として人格識取手誠共に傑出し、同店の發展と「日本盛」「鳳凰白雪」の聲名を今日に至らしめた中心の人である。多年東京酒問組合の牛耳を握り現に專任取締役として令名噴々たるものがあり、兼ねて中央酒問屋聯盟會理事として、同業の福利増進に盡せられたる。

◆富士本商店の商是とし、八尾支應人のモットーとせられる所は營業第一義の精神であつて、徳に傳統と地盤に據つて虚名安逸を貪るを潔しとせず、新時代の科學的經營によりて新境地の開拓に努力し「日本盛」「鳳凰白雪」の偉大なる商標價値を益々顯揚すると共に一面之れに伴ふ品質の洗練向上に就ては醸造心と協調として極進の跡跡たるものがある。誠に富士本商店の如き新時代の問屋業者として、帝都酒界の偉觀とすべきであらう。

銘酒「東自慢」 株式會社富士西商店

新陣容充實大飛躍を期す

帝都に於ける昭和時代の三大銘酒とか、五大銘酒とかいふやうなもの一般大衆の公選によつて決定することになつたら、定めし面白結果が現はれるだらうと思ふ。明治時代には五大銘酒とか何とか云はれてゐたものも、時勢の推移ですつかり標準が變つてしまつたやうな氣がする。若し今の昭和時代に假りに五大銘酒を選んだとしても、それよりも更に厳密に三大銘酒を選んだとしても、必ず新しい時代の銘酒として選を洩れな

昔一世の酒仙詩聖頼山陽が「千秋歌酌美蓉霞」と謳つた銘酒「白雪」は、其の當時から現代に至るまで非常に古く、そして且つ永久に新しい大銘酒である。「東自慢」は特飛切品として、最高の品質と聲價を保ち、「東自慢」と並んで帝都に素晴らしい人氣を博してゐる。「東自慢」は酒の本辰酒造株式會社の吟醸であり、「萬歳白雪」は同じく小西本家の銘醸であるが本辰酒造と小西本家は不即不離の關係に立脚して誰にも聞えたる大醸造元であることは殆く人の知



株式會社富士西商店常務取締役 井上利一郎氏

る所であらう。◆「東自慢」「萬歳白雪」の聲價を株式會社富士西商店は、天保三年十一月の創業であつて、伊丹の宮家小西本家の經營に係り、爾來連綿九十七年の歳月を経て今日に至つたもので、往時から下り酒問屋

右の中常務取締役井上利一郎氏は、舊富士西商店の主腦として支應人兼賣人の重責にあること十餘年、帝都業界の重鎮として東京酒問屋組合を牛耳ること多年現に相談役として重きをなし、兼ねて中央酒類問屋聯盟會理事として、問屋の福利増進に盡せられ、其の功績顯著なるものがある。過般組織變更と共に常務取締役として同店の將來を双肩に荷ひ、一層「東自慢」「萬歳白雪」の發展に盡せられつゝあるが、同店の傳統と信用を根柢として、新時代の科學的經營に立脚する今後の大飛躍は業界に異常なるセンセーションを起すであらう。

◆常務取締役 井上利一郎氏
取締役 赤司八左衛門氏
同 前田多壽氏
常任監査役 山田明次郎氏
監査役 岩田種吉氏
相談役 山口豊助氏

醸造元 南辰馬本家

飛切最優等清酒



【宗正ヲツカ】

東京酒問屋
發賣元 升本幸太郎商店

東京市 本橋區南茅場町
電話茅場町九二七番

醸造元 辰馬悅藏

酒界最高權威



鷹た白く松ま金きん

東京市京橋 田新堀
發賣元 株式會社 丸玉商店南店

電話京橋 八八九番

東京酒問屋

伊坂商店の營業方針

◆「特飛切銘酒」「金松喜一」の發賣元として東京酒界に獨歩の地位を占める東京酒問屋伊坂市右衛門商店は、實に正徳二年の創業に係り、下り酒問屋の嚆矢として二百數十年の由緒ある歴史を有する老舗である。

◆江戸時代から明治にかけて酒問屋の興亡盛衰の跡を辿つてみるといふことは極めて興味あることであるが、伊坂商店の如きは東京酒問屋中に於て最古の歴史を有する老舗が、連綿二百數十年而も今日盛運に惠まれつゝあるといふことは東京酒界稀有の事實であつて同店の傳統と財力と地盤の鞏固がよく今日の盛運を致したものであるといふことは勿論であるが、吾人は同店の今日ある所以を其の独自の營業方針に求めたいと思ふものである。

◆「即ち同店は祖先以來當主伊坂市右衛門氏に至るまで一貫した營

業方針と使命の下に、極めて實實眞實なる歩みを續けられてゐることである。當主は殊に人格と徳望の人であつて、身を持すること嚴に絕對的に人格に根柢を置く經營なる取引を行はれてゐる。人格即ち營業——人格を根柢とする營業人格と人格とを基礎にして縛られた取引——それは當主のモットーであると共に祖先傳來の經營方針であらねばならぬ。

◆銘酒「金松喜一」は實にかうしたモットーに立つ老舗が、祖先以來全力を擧げて普及宣傳に努力せられつゝあるものであつて、醸造元との關係は全く一心全體として兩者の間柄は一切の理論を超越した合理的立場にある。之れ近來頻々として造家問屋間に問題の惹起する秋に當り控籠とすべきであらう、同店の賣人江川龍之助氏も亦人格徳望の人物當主と戮力協同して大いに飛躍せらつゝあり斯界の刮目する所となつてゐる。

醸造元 木谷市右衛門

酒界の精華



一喜松金

東京市京橋區南新堀
東京酒問屋
發賣元 伊坂市右衛門

電話京橋 一三三〇番

東京酒問屋

株式會社加島屋の業績

(一) 東京酒問屋東京醬油問屋株式會社加島屋は往時下り酒問屋の白眉として其名を誦はれ

豊富なる財力と信用と地盤に立脚して新川市場に覇を縦せられた。明治に入るや東京酒問屋組合の主腦として牛耳を握り兼ねて東京醬油問屋としても亦斯界の一方に雄飛するに至り、店主廣岡助五郎氏は帝都酒界の重鎮として東京酒問屋組合頭取の重責に歴任し、遂に中央酒問屋聯合會の組織に際しては、先發起人となり創立後は理事長の職に任じて斯界の牛耳をも握られ今

大日本最優等清酒



日に至つたものである。

(二)

廣岡助五郎氏は人格識見雄略共

に卓越して帝都酒界の公的方面に於て夙にリーダーとしての重責を盡されつゝあるが、而も一面營業に對しては新時代の歸趨に對して明敏なる洞察を有し、今日より數年前個人商店組織を改めて株式組

織となし、廣く資本と人材を糾合して新時代の科學的經營に立脚し大飛躍を期せらるゝ所があつた當時の酒問屋に於ては未だ舊時代の迷夢に彷徨しつゝあつた際、此の英雄は斯界に異常なる神戟を與へ爾來之れが追隨者を輩出するに至つた如き、實に新時代の實業家としての卓絶せる識見を證明するものではないか。

(三)

株式會社加島屋は新川屈指の老舗として多年宮内省御用達の恩命に浴し、現在銘酒「菊花」其他の一手發賣元として斯界に雄飛せられつゝあるが「菊花」は濠西宮酒造株式會社の醸造にして東京向きの特飛切吟醸であつて、多年株式會社加島屋の普及宣傳と相俟つて加速度に騰價を高め帝都一流銘酒として好評噴々たるものがある。

(四)

實に同店の營業方針は大問屋として新對信用第一義を旨として且つ前述の通り店主廣岡助五郎氏の卓越せる識見を具體化し、時勢に先驅する科學的經營によつて、積極的販賣政策を執り、よく局面に策勵して逐年新境地の開拓に努力せられつゝあれば其の前途は益々洋々たるものあらう。

東京酒問屋
東京醬油問屋
宮内省御用達

株式會社加島屋

東京市京橋區北新川
電話京橋 一八八三
三六一四
振替口座東京 一七二六六
加島屋出張所
四谷區傳馬町一ノ七
電話四谷 二六二二番

東京酒問屋

鹿島本店の偉容

東京北新川(電話京橋 二二〇九番 四六七四番)

(一) 東京最古の酒問屋として連綿四百年に亘る歴史を有する鹿島本店の業績に就きては幾多文獻の上に顯彰せられ光輝赫々たるものがあるから、敢て喋々するまでもあるまい。然し往時下り酒問屋として盛名があつたものも、榮枯は衰は免れ難い所で、昭和の今日に至つて尙且つ隆々たる盛運にあるは十指を屈するに過ぎぬが、而も鹿島本店の如き江戸最古の酒問屋として今日に至るも鬱然たる財力と鞏固たる地盤と信用に立脚して、益益名譽を擡はれつゝあるは最も刮目すべきである。

(二)

同店は實に江戸時代に於て新川

市場に覇を唱へ、巨富一世に冠たるものがあり、明治に入つてよりは東京酒問屋組合の先達として問屋團に重きをなし今日に至つたものである。同店の特色とする所は實重厚なる大問屋の風格を示して尙まで信用を第一義とせられる點にある。従つて同店の顧客は自ら同店の風格に馴致する一流紳商を網羅し信用に立脚する手堅き取引を行はれつゝあるのである。

菊花紋正宗

酒界の覇王



(三)

灘辰馬悦藏氏の吟醸銘酒「菊花紋正宗」は同店の一手發賣として、「黒松白鶴」と併稱せらるゝ帝都酒界の第一人者である。品質の優秀無比規格の統一洗練は「菊花紋正宗」の今日を致せる所以であるが一面發賣元鹿島本店の鬱然たる背景によつて、尙くまで堅實なる信用を保持し、苟くも其の騰價

に影響するが如き浮薄なる手段を執らるゝなく今日に至つた偉大な成果であると断せねばならぬ。今日「菊花紋正宗」が「黒松白鶴」と雁行して辰悦の二大吟醸と謳はるる所以を考察する時、吾人は鹿島本店の尙まで手堅き營業ぶりを古名傳の演技にも譬へて、禮讚せざるを得ないものである。

(四)

而も鹿島本店は一面新時代の世相を洞觀せらるゝ所があり、其の經營上に於ては、舊々改竄の實を擧げ鬱然たる同店の地盤と「菊花紋正宗」の騰價を、永遠に扶植發揚すべく精進されつゝあるを見て深く佩服せざるを得ぬ、同店の中心人物として賣人の重任にある野村六之助氏は新進氣鋭總達の手腕を以て聞える人であるから、今後同氏の活躍は益々鹿島本店の偉容を赫々たらしめるであらうと期待されてゐる。

東 京 山 星 鈴 木 酒 問 屋

山 星 鈴 木 商 店

東 京 北 新 川 電 話 六 七 八 七 五 振 郵 東 京 七 四 番

東京京橋區北新川の山星鈴木商店は金星丸星の二店と並んで近江の富樂鈴木忠右衛門家の創設に係り江戸時代から下り酒問屋中の錚々たるものとして名譽高く往時の市場を馳したが、明治に入ると一層堅實なる發展の道程を辿り東京酒問屋組合の中堅として財力信用地盤共に益々鞏固を加へ、特に營業方針が實行的であつて、信用を第一義として苟くも浮華輕佻に流れず、獨自の主張を持せらるゝ點に於て、東京市場に獨歩の地位を占め今日に至つたものである。

現在「キンシ正宗」「東正宗」「帝國一」「世婚一」「萬代盛」の發賣元として、盛名益々高きを加へつゝある所以のものは、全く同店が其の實價本位の一致した營業方針に立脚して、顧客本位に邁進せられ倦むことなく精進と努力を持続せられた爲めであつて、江戸時代より今日に至る數百年の間酒問屋の興廢常なきに拘はらず、單り卓然として傑出せるものあるは、全く業界の嚆矢とすべき所である。

同店の陣容を見るに前田支那人藤澤實人大澤實人脇以下店員諸氏悉く實價實業なる風格の所有者であつて、人格本位の營業に終始する人々である。同店の財力と地盤に加ふるに、此の陣容を以てするは、鬼に金棒の譬への如く、益々信用を扶殖する所以であつて、同店の爲めに祝願せざるを得ない。而も同店に於ては時代の趨勢に對して明敏なる洞察を有し、商標の宣傳商品の普及に就きては機に應じ敏に臨んで端睨すべからざるものがあり、決して所謂極限せられたる天地に躊躇するものではない。之れが保證としては「キンシ正宗」以下各銘柄が今日の盛價を得るに至つた過程に徴すれば思ひ半ばに過ぎるものあらう。吾人は切に東京酒問屋山星鈴木商店の偉大なる權威に對すると共に將來一層の飛躍を期して止まぬものである。



宗正シンキ

東 京 酒 問 屋

金 星 鈴 木 商 店 の 業 績

大江戸の昔から昭和の今日まで新川市場に於ける鈴木二店の地盤は儼然として根を張り枝を交へて、牢固として抜くべからざるものがあるが、就中南新川の「金星鈴木商店」は最も堅實なる地盤に立脚して、營業の積極的なるを以て開えてゐる。

實に金星鈴木商店は今日より凡そ百六七十年前、創設せられたもので、下り酒問屋の中堅となり、明治に入つては東京酒問屋組合に屬し、銘柄「鳳凰正宗」並に「キンシ正宗」の發賣元として、帝都市場に最も堅實なる地盤と偉大なる勢力を扶殖せられつゝあるものである。由來鈴木一家の經營方針は實を尊び虚飾を排するの風を以て著聞されてゐるが、一面金星鈴木商店は多分の積極味に富むを特

色とすべきであらう。即ち「鳳凰正宗」が帝都一流銘酒として偉大なる聲價を扶殖する至つたのは、釀造元無の木辰酒造株式會社が飽くまで品質本位に立脚し特に關東向きの嗜好に先驅しつゝあるにも由るであらうが、然しより發賣元の積極的宣傳販賣の成功に基くものであらねばならぬ。

「キンシ正宗」は京都伏見堀野久造氏の吟醸に係る新時代の醇良酒として地盤に於て加速度の發展を招來しつゝあるが、此の反面の努力は全く同店の努力にあることを銘記せねばならぬ。同店の支配人鈴木吉太郎氏は鈴木一族より選ばれて重任に就いた總指揮能の人であつて、同店の異色ある營業方針は實に同氏の人物の反映といふべきであらう。

特 飛 切 優 等 銘 酒



發 賣 元
東 京 市 京 橋 區 南 新 川
金 星 鈴 木 商 店
電 話 京 橋 五 六 一 番 八 一 番

釀 造 元 本 辰 酒 造 株 式 會 社

釀 造 元 堀 野 久 造 本 家

いろ盛の發賣元

合資會社三橋本店

◇東京新川に於ける大江戸の昔から傳統的に傳へられて来た生粋の酒造といふものは、時代の推移と共に窮乏衰微なく、今日に於ては東京酒造組合員に属する一團を以て其の代表的なものとせねばならぬ。合資會社三橋本店は最近時勢の激進に鑑みて組織を變更せられたが、夙に江戸の昔から三橋本店の名譽は帝都市場に名高く、當主三橋萬四郎氏は東京酒造組合員頭取に歴任して、之れ亦業界の重鎮と目されて来た。組織變更後は代表社員として、一層斯界に雄飛活躍されつゝある。

◇同店の代表商標「いろ盛」は西宮の西宮酒造株式會社の醸造に係はる特飛切銘酒であつて日本酒と併稱して、帝都に最も名譽あるマークの一つである。西宮酒造株式會社は由來東京向きの吟醸銘酒を生産するを主義とする醸造會社で醸造石數も亦天下に冠たるものであるが、之れが販賣の權を二分して、一は全く「いろ盛」に集中せられつゝあるもので、西宮酒造の今日あるは同時に「いろ盛」の商標價値の偉大なることを語り更に三橋本店の絶えざる奮闘努力を示すものでなければならぬ。

◇三橋本店は組織變更後、益々新時代の科學的經營に轉り、合理的基礎に立つて、全力を「いろ盛」に集中し、之れが宣傳と普及に一層の活躍を致されつゝあるのである。同店の如きは最も古くして同時に最も新しき同業と稱すべく、將來「いろ盛」の商標價値は更に向上するであらう。

獨津灘 西宮

醸造元 西宮酒造株式會社

天下第一品酒國血華



(リカザロイ)

東京市京橋區南新川

發賣元 合資會社三橋本店

電話京橋 三三五八八番 三五四九番

東京市京橋區北新川

東京酒問屋 中井酒店

電話京橋 56) 四六五〇番

◇酒の司大關の發賣元として東京各全國に著聞する東京北新川中井酒店に就ては今更喋々する必要もあるまい。同店は江戸時代から下り酒問屋の冕冠として當世中井本家の創設に係り明治に入りてより東京酒問屋組合の中樞として、「大關」の外に春秋、山海、牡丹



正宗、東京正宗、千秋、歸里袖、賞時等の發賣元として帝都酒界の重鎮として今日に至つたものである。

◇同店支配人野村慶二氏は練達

の手腕を以て聞え、清酒の鑑評家としても帝都一流の人である、現在東京酒問屋組合頭取中央酒類問屋聯盟理事として令名噴々たるものがある、實人地地輔氏は人格識見卓抜野村支配人と協力して中井酒店の主腦たる人であり、特に販賣方面に當面して手腕を顯はれつゝある。

◇酒の司「大關」が今日の廉價を博するに至つた所以のものは、醸造元長部本家の努力によるは勿論なるも、其の宣傳販賣方面に於ける中井酒店の異常な貢獻を認めねばならぬ。同店は今や時勢の激進に先驅して販賣上の弊害を矯正し最も實質本位に邁進せられつゝあれば、將來の發展は益々偉大なるものがあらう。

東京市京橋區北新川

東京酒問屋 堀越孝次郎商店

電話京橋 四六三番 三四四二番



◇東京酒問屋堀越孝次郎商店は「酒はマルコシ」のスローガンを以て、東京市内外に華々しく宣傳飛躍せられつゝある新川屈指の大問屋として令名噴々たるものである。創立は明治二十一年にして僅々四十年にして今日の大を致せるは、其の營業方針の非凡なるを裏書するものでなければならぬ。

◇同店の代表商標「マルコシ」は東京向きの嗜好を把握した難芳醇であつて、小賣業界は勿論、一流料理店方面に牢固として拔くべからざる地盤を扶植されてゐる。

同店では別に美味滋養純良葡萄酒「白玉ホワイトワイン」の發賣元として、近代的な宣傳ぶりと、相俟つて品質の絶對優秀を以て、發

賣以來日尚淺いに拘はらず、斯界に異常なる廉價を博するに至つたのは偉とすべきである。

◇店主堀越孝次郎氏は業界の鬼才として夙に令名あり、一代にしてよく今日の基礎を築いた立志中の人物である。氏の營業方針は飽まで實質本位を旨とせられるが一面時勢の激進に明敏なる洞察を有し、積極的販賣政策を以て局面に策應せらるゝ所多きも實に同氏の今日ある所以に於てはならぬ。

◇現在東京酒問屋組合中實力充實せる點に於て屈指とせられ、兼ねて中央酒類問屋聯盟會員として斯界の爲めに貢獻せられる所多大である。

酒界最高權威

鳳凰白雪



山は富士

酒は白雪

日本一

醸造元 小西本家灘酒造部
橋津灘西宮市

樽詰

壺詰

東京市日本橋區南茅場町

富士本商店

電話 三〇六六
三〇七五
三〇七〇
番番番

東京市日本橋區南茅場町

富士西商店

電話 三三三三
三三三三
三三三三
番番番

東京酒問屋

山田五郎助商店に就て

◆東京南新川の山田五郎助商店は江戸時代から下り酒問屋として堅實なる地盤と偉大なる信用に立脚し享保二年創業以來百八十六年の古き歴史を有してゐる。同店の本家は京都市にあり同地の富豪として酒造家として歴然たる基礎と勢力を扶殖され、當主を以て六代目となし、同地の名望家として聞えてゐる。

◆かうした背景に立脚する東京の山田五郎助商店は、榮鱈、玉鳳、日本武外八種の手印によりて、東京市場に雄飛せられ、東京酒問屋の中堅として最も堅實なる取引を以て聞えてゐる。實に同店の榮業方針は創業以來一貫せるモットーに據るものであつて、苟くも輕薄なる時流を追ひ、其の独自の堅實

なる榮業方針を認るが如きことなからうした大問屋の風格と機持は顧客との關係を最も緊密なるものとして、恒久性に富む取引を行はれる有力な原因となつてゐる。

◆支配人竹本金三郎氏は同店の主腦としてよく同店の一貫せるモットーを支持し、漸々堅實なる發展の一路に邁進せられ兼ねて東京酒問屋組合賣入會の中堅として同業の福利増進に努力せられる所も多大である。其の人格手腕瞻望は老練山田五郎助商店の中心人物として十分重きをなすに足るものである。◆而も同店に於ては時勢に濟目して商標宣傳には獨自の方針を以て進まれたりあり、榮鱈、玉鳳、日本武外各印の堅實は逐日高隆を加へつゝある所以である。

榮 世界一 鯛
玉 鳳 合 盆
和 龍 鐘 神 趙
劍 鐘 福 益
祝 氣 福 益
好 出 氣 益
目 千 出 氣 益
八 千 出 氣 益
日 本 武 代 鯛

東京酒問屋

東京市京橋區南新川

山田五郎助商店

電話京橋三四一九番

東京酒類問屋組合頭取

牧原仁兵衛氏の業績

銘酒「忠勇」の發賣元として帝都酒界に獨歩の地位を占める京橋區南新堀の牧原仁兵衛商店は、兼ねて醬油問屋として和洋酒類問屋として醇然たる綜合的組織をなし個人商店として業界屈指の大商店と目されてゐる。

同店は明治七年の創業であつて爾來約六十年間只管發展の一路を辿り來つて今日の大をなしたものであるが、區主牧原仁兵衛氏は帝都酒類業界の重鎮として人格識見總覽兼備の人物であつて、東京酒類問屋組合頭取の職に在ること多年毎改選期毎に推されて重任今日に至れるは其の徳望の偉大なるを證明するものでなくて何であらうか。

同氏は深く公共の觀念に富み、業に於て酒類問屋の福利増進を企畫して中央酒類問屋聯合會の創立に盡力し、現に理事として該會に重きをなしつつある。而も同氏は更に東京醬油問屋組合員として、東京和洋酒食料品問屋組合員として、其の生涯は殆んど業界の公的方面に於て實績なき有様である。

銘酒「忠勇」は同店の一手發賣に係る藤若林合名會社の代表的銘酒であつて品質の優秀卓著を以て聞え、特に關東向きの嗜好に適する點に於て傑出せるものあるを見る。曩に大正博覽會に於ては名譽大賞牌を授與せられ、酒界第一人者たるの譽を贏ち得たものであるが、今は若林合名會社の背號に立脚すると共に、全く宣傳販賣方

面に於て牧原商店の偉大なる業績に基くものであつて、「忠勇」の堅價は同時に牧原商店の信用と地盤を書きするものであると證し

て過言ではあるまい。切に同店の益々偉大なる發展を望むと共に店主牧原仁兵衛氏の盡力を一層望んで止まないものである。



仁義愛
金松 鶴正宗
鳳凰 泉源
金櫻 明治長

東京市京橋區南新堀一
東京酒類問屋
東京醬油問屋
東京和洋酒問屋
牧原仁兵衛商店

電話京橋(56) 〇〇〇三九番
二〇三三五番
二八九二番

中央酒類問屋聯盟會理事 東京酒類問屋組合役員

内藤信氏の人物と業績



内藤信氏

東京酒類問屋内藤商店は銘酒「天泉」「甲子正宗」「味淋」「天泉」の發賣元として、且つ銘酒「天泉」の大賣捌元として、東京新川市場に於ける一流問屋である。江戸時代から醇然たる業態に立脚し、繁榮の實を以て鳴り、東京酒類問屋組合として、帝都酒界に重きをなしつつ今日に至つたものである。

内藤信氏は内藤商店の中心人物として内藤家の實際に當面し外は帝都酒界の先賢者として、其の人格識見手腕共に稀に見る人である。多年東京酒類問屋組合役員として同組合の牛耳を執り、曩に東京酒類問屋組合並に甲東會更新會

を一團として中央酒類問屋聯合會の創立に際しては發起人として畫策せられ、後推されて理事の重責に就き、該會の中心人物として問屋の福利増進に努力する傍ら、帝都酒界の爲めに多大の盡力を致されつつある。

而して今回東京に第十五回全國酒造大會の開催せらるゝや中央酒類問屋聯合會をして協賛會を組織せしめ、全國酒造界と東京酒類

販賣業界との協調促進に資する所ありしは、氏の畫策奮闘與つて大なる力ありしものであると仄聞する次第であつて、其の功績は顯著なりと云はねばならぬ。

氏は人も知る酒類の鑑定家として、帝都第一人者の定評があり全国的に著聞して、東京業界の品評會は勿論全國酒類品評會以下各稅務監督局主催品評會の審査員として囑託され斯業に於て全國酒造界に貢献せらるゝ所も亦大であると云はねばならぬ。

氏は斯くの如く業界に於て公人として偉大なる足跡を印せらるゝと共に入りては内藤商店の經營に任じ、新時代の趨勢に先驅して着々意義ある業績を挙げられ殊に氏が優れたる酒類の鑑定家であるだけに、地方酒の將來に着目し之れが帝都市場への紹介に努力され、同店により一躍聲價を得たる地方酒は枚擧に遑がない。

橋津雄 長部文治郎
優等清酒



發賣元
東京酒類問屋
東京市京橋區南新堀一
内藤才兵衛商店
電話京橋 〇一七〇番
四五〇番

純良 味林
元祖味林之司
調味之霸王
天泉
ンセンチ
好評 々

埼玉縣入間川町

釀造元 久星酒造株式會社

社長 小林善吉

鳳凰金紋附國冠

酒銘大範模の高最灘



黒初風
琵琶湖
鳩の海
不二譽

- 入間川町 第一工場
- 同 第一工場
- 同 第二工場
- 同 第三工場
- 坂戸町 第四工場
- 同 第五工場
- 同 第六工場

發賣元 久星酒造株式會社

東京營業所

電話京橋 二二七〇番
坂登東京 五九七八番

兵庫縣瀧野町 國冠釀造元 久星本家
電話御影四七〇番



大黒正宗の聲價と

安福又四郎商店東京支店に就て

東京北新川の安福又四郎商店東京支店は、銘酒「大黒正宗」の醸造發賣元として、東京市場に独自の地盤を扶植し、營業取組の堅實と信用の絶大なるを以て聞えてゐる。同店は實に醸造家の安福又四郎氏の直營店であつて、「大黒正宗」並に「國の春」は其の代表商標として全國酒界に盛名を擧はれつゝあるものである。

安福本家の創業は實に寶曆元年

にして今日より百五十餘年の昔に

られ、爾來着々意義ある發展を遂げて今日に至つたものである。支店長吉田泰久氏は、支店創設と共に入りて主眼となつた人で、多年東京酒界に飛躍し、人格の豪邁と手腕の練達を以て聞えつゝあつたが、特に安福本家の懇望によりて支店長の重責に就くや、一層精勵努力して「大黒正宗」の普及宣傳に邁進せられ、着々聲價と信用を高めて、今や醸造家直營店中有数の佳良なる營業成績を示して愈々其の非凡なる手腕を露はれつつあるのである。

現在醸造家支店を以て組織する甲東會社の中堅として、且つ中央酒類問屋聯盟會社として同業の福利増進に努力せらるゝ所も亦少ならざるものがある。同店の營業方針は飽まで剛健實であつて、苟くも浮華輕佻に流るゝが如きことはないが、而も機



醸造發賣元

東京市京橋區北新川 安福又四郎商店

東京支店 電話京橋 二二四九番 三三二五番

キリンビール

キリンレモン

キリンシトロン

キリンサイダー



丸ノ内 麒麟麥酒株式會社 宮内省御用達

一木商店の業績と

近代的な營業方針に就て

◆：御田區旅籠町の東京酒類問屋洋酒食料品問屋、宮内省御用達一木(いちぼく)商店は、實に安永元年の創業に係り爾來今日に至るまで約二百五十年の古き歴史を有する都下有数の老舗である。先祖は伊勢の國より出で當主鈴木新兵衛氏を以て連綿九代に及び、當主の曾祖父は茅場町の大問屋河土本商店より入りて春嗣子となれる由緒正しき家柄である。江戸時代に於ては新川の下り酒問屋に對抗して儼然たる勢力を伸長し巨富並ぶものなきに至つた。明治に入りて東京酒類問屋組合の組織せらるゝや入りて之れが中堅となりよく時勢の推移に先驅して拮据經營精進を怠らず發展の一路を辿りて今日に至れるものである。



倉庫を置き、店内には別に鈴木家所有の土地家屋を監理する事務所を附設せられ、儼然たる勢力は牢固として抜くべからざる礎を示してゐる。

◆：一木捌の代表的清酒を『來福』『金鐘』『金鐘萬歳』『兩關』『金鐘君』とす。『來福』並に『金鐘君』は灘酒中の逸品として噴々

の定評があり、『兩關』は秋田縣伊藤仁右衛門氏の吟醸として全國酒類品評會に於て最高譽賞を受領し其他各種品評會に於て品質の優秀を推賞せられつゝある絶對品質本位の醇良酒である。

◆：同店の營業方針は祖先以來萬事御得意本位で奉仕を以て根本精神とせられてゐるが、特に近來時勢の進運に着目して舊酒問屋の因習弊風を排除し、近代的な科學的經營に立脚して、明快敏活な營業ぶりを以て特色とせられるに至つた、特に商標の普及宣傳に就ては同店獨特の長所があり、うまい酒『兩關廣語』が、今日帝都の各階級を通じて異常な聲譽を博するに至つたのは勿論品質に立脚するであらうけれども一面同店の時勢に遺した近代的な宣傳に由るものであらう。

◆：當主鈴木新兵衛氏は享年三十二年の青年業界人であつて、現代の教養を積み、而も父祖の眞實を享けて人格識見の高邁なるよく譽然たる一木商店を統率せらるゝに足る前途最も多望の人である。(寫眞は店主鈴木新兵衛氏)

東京酒類問屋 洋酒食料品問屋 宮内省御用達 東京市神田旅籠町

一木商店

電話(83) 下谷 二五〇〇 二五〇九 二五〇八 二五〇七 二五〇六 二五〇五 二五〇四 二五〇三 二五〇二 二五〇一 二五〇〇

振替東京六六二二五番

東京 一木商店 發

東京酒類問屋にて

平野太郎兵衛商店に就て

◆ 京橋區東湊町の東京酒類問屋平野太郎兵衛商店は、實に元祿十一年の創業に係り約二百五十年以來、誠實として老舗の風格と信用と地盤を保持し、今日に至つたのは、斯界の驚異といふべきである。

◆ 同店は江戸時代より酒問屋の重鎮として歴代人材を輩出して、然る勢力を斯界に扶植し、明治に入りては東京酒類問屋組合の中堅として、下り酒地廻り酒の兩種に及び、夙に忠勇正宗、惣長、天下泰平、日本自慢、統一、富久壽、起鳳等の發賣元として知られ特に近來「大統領」印によりて一層斯界に飛躍せられつゝ、益々老舗の名を高からしむるものあるは欣喜に堪えない次第である。

◆ 現店主平野太郎兵衛氏は享年三十九歳、祖先の氣稟を受けて重厚の風格と練達なる手腕は同店の主腦として十分の定評ある所である。現在東京酒類問屋組合員として且つ中央酒類問屋聯盟會員として、問屋團の中堅となり、同業の共存共榮に努力せられる所も亦少ならずるものである。

◆ 同店は創業以來の歴史として、實業は實資本位を尚び、輕佻なる時流を追ひて、浮薄なる販賣方針に終始するを絶対に警め、前まで顧客本位に經營するを使命とされてゐる。従つて過去二百五十年の歴史を通過して、同店と顧客との關係は最も厚い信頼と情誼によつて結ばれ來り、幾多の美しい挿話を残してゐると傳へられる。願はくば將來同店は益々此の風格を發揚して斯界に雄飛せられんことを祈る。

醸造元

京都府伏見町

山本源兵衛

最優等 醇良銘酒



ウヨリートイダ

發賣元

東京市京橋區東港町一ノ一九

平野太郎兵衛商店

電話京橋三五六一七番

最高位模範銘酒

灘酒の權威 品質本位



宗正菊盃金



横綱



金盃



本鷹

釀造發賣元

東京市京橋區南新川

本店高田商

電話東京一八五七六〇番

達用御省内宮

品一下天

最上醬油



ソマー コッキ

元造釀

町田野縣葉千

社會式株油醬田野

年産額五十萬石
資本金三千萬圓

萬歲燒酎味淋白酒

井上酒造東京出張所の活躍

本邦に於ける燒酎味淋界の天下を二分して、其の一を保つと稱せられる大阪府下の井上酒造株式會社は、萬歲印燒酎味淋白酒其他洋酒の醸造元として全国的に販賣網を敷き、巧妙なる宣傳販賣に立脚して飛躍せられたると共に、一面實際に伴ふ品質の改良向上を怠らず、大衆生産業者の陥り勝ちな粗製濫造の弊の絶對に存在しない點に於て、益々異常なる壓價を扶植しつつあるのである。

(一)

これが關東方面に於ける宣傳販賣に注目して積極的に進出せられるに至つたのは關東大震災前に當り東京北新川に出張所を設けられたるに始まる。其の以前に於ても東京市場に於て萬歲印各品の壓

價は既に認められつゝあつたが同印が逐年加速度の勢力を以て東京を中心として關東方面に普及せられるに至つたのは、全く東京出張所の創設とこれが活躍に由ることを知らねばならぬ。

(二)

由來東京を中心とする關東地方の味淋燒酎界は、先づによりて甚だしく疎離せられつゝあるの觀あり新しく此の天地に飛躍せんとするものは全く困難なる新境地の開拓を事とせざるべからざる立場にあつたのであるが、井上酒造東京出張所は創設以來終一貫顧客本位の堅實なる方針に加ふるに、巧妙なる大衆宣傳を行ひ、着々斯界未踏の曠野を開拓し、牢固たる萬歲印の壓價と勢力を扶植するに至

つたのは、全く斯界の驚異とせられてゐる所である。

(三)

井上酒造東京出張所主任山田徳藏氏は新進氣鋭の人であつて人格謙見高邁、特に重厚の風格はよく顧客の信譽を篤うし、益々取り上の緊密を増するものがある。又同出張所に於ては別に高級燒酎味淋「松竹梅」の東京發賣元として活躍されてゐるが今日「松竹梅」が東京の上中流階級に異常な人氣を博したのは、其の品質の卓越と高級燒酎味淋の先驅者たる點に由るは勿論であるが、一面同出張所の活躍宜しきを得つゝあることを考へねばならぬ。今や同出張所は從來扶植せる堅實なる地盤を基礎として更に新境地に飛躍せらるべく開拓を期するや切なるものがある。



燒酎 味淋 白酒

醸造元
大阪府傳法町
井上酒造株式會社

ウ井スキー其他

發賣元
東京市京區北新川
井上酒造株式會社
東京出張所
電話京橋一四五九番

酒類醬油問屋

程田松藏氏の業績

京橋區南新堀の新進酒類醬油問屋程田松藏商店は、常に積極的な營業方針を以て着々異常なる勢力と地盤を扶植せられ創業以來十餘年にして今日の盛運を致せるは異數であるとされてゐる。

店主程田松藏氏は異色ある人物であつて、人格才能共に傑出し同氏の今日あるは決して偶然に非ざることを感じさせる人である。氏は幼時より業界に入り銚子の岩崎重次郎東京支店に勤務して醬油界に活躍すること約二十年、十二分の總數を蓄積して同店の繁榮と共に現在の地に獨立創業今日に至つたもの



である。

問屋は醬油「分銅松風」印の一歩發賣元として兼ねて酒類問屋業を營み、特に地方酒の宣傳普及に就ては独自の見解と手腕を所有する人である。「分銅松風」印は品質本位の優良醬油であつて程田氏の巧妙なる宣傳販賣によりて逐年

を所有し、逐年加速度の發展を招來されつゝあるのである。

程田松藏商店に於ては、夙に店と顧客との關係を合理化し共存共榮を策するの目的を以て「松風會」を組織されてゐる。一年一回以上集合して親睦を温め、且つ取引上に就ての具體的問題に關し協議し極めて合理的に緊密なる關係を結ばれつゝあるのである。

故に同店の營業は「松風會」を通じて最も合理的に行はれる譯で「分銅松風」印の宣傳販賣は勿論各種酒の普及に就きても「松風會」並に「松風會員」の努力は深甚なるものである。かうした基礎に立脚する程田松藏氏の現在並に將來は新進酒類醬油問屋中の白眉として一層刮目すべきであらう。

營業は
實質本位
顧客主義



醬油味噌
酒類問屋
程田松藏商店
京橋區南新堀二丁目
電話京橋三四一四番

い古の史歴番一
い良の品番一

宮内省御用達



油醬タゲヒ

千葉縣銚子町
醸造元 銚子醬油株式會社

東京市日本橋區小網町三

銚子醬油株式會社

東京出張所

威權最高界酒

豫州灘酒



ミガカーオ

東京市日本橋區木挽町一ノ四
醸造發售元 日吉屋總本店

鹽崎東京支店

電話京橋(56)二九三二番

東京酒類問屋

小西孝兵衛商店の現在

其の新時代的な経営に就て

東京京橋區南新堀の小西孝兵衛商店は銘酒「孝泉」の發賣元として、江戸時代より連綿たる老舗の名高く、東京酒類問屋組合員に屬し、其の傳統と財力と信用とに於て、新川新堀指の定評がある。方今業界の趨勢を見るに財力と傳統とに優れたものは往々其の營業に弛緩を生ずるやうであるが、小西商店は却て之れを偉大なる立場として、最近頗る異常なる活躍を敢行され業界に幾多の刺激を與へつゝある。

同店の經營は科學的合理的組織を攝取採用することに努め、問屋制度の弊害を除去して、造家對問屋、問屋對小賣業者の關係を漸進的に時代の趨勢に適合せしめんとする方針である。従つて同店の商標は統一標を採用し、専ら代表商

標「孝泉」の普及宣傳に集中し、販に清酒ばかりではなく味淋酎等も亦「孝泉」のマークによつて統一され、將來時勢の進展に策應して、同店と小賣業者との間に一種の連鎖店組織の實現を企圖せられつゝあるものであるとも見ることが出来る。

故に同店のマーク宣傳方法の如きは他と著しく排を異にし、同店直接に「孝泉タイムス」と稱する宣傳用の機關を發行し之れに小賣店名を附して、小賣店直接に一般需要者に配付し、以て大衆宣傳の目的を達せられてゐる此の宣傳方法はアメリカのハウス・オーガニに則れるもので、東京の酒類問屋中に於ては絶對唯一同店を以て嚆矢とし、他に追従を許さぬものであり、之れ

が成績は極めて良好であるといふことである。

同店に於ては問屋と小賣業者の販賣上に於ける協同關係として「孝親會」なる團體が組織されてゐるが、此の團體は單なる問屋と小賣業者の親睦機關ではなく「孝泉」の販賣を合理化する爲めに、問屋と小賣業者が同一の權利義務の下に研究協同を行ふもので、従つて該會の組織は合議制であり、理事者は會員の互選によつて決定されてゐる。されば該會は「孝泉」の販賣を目的とする一種の連鎖店會議とも稱すべきものであつて、同店の取引先は該會を中心として最も緊密に協同し、「孝泉」の宣傳販賣にベストを盡しつゝあるのである。實にさうした問屋と小賣業者との關係は更に美しい情誼によつて強く結ばれたもので、全く協同的であると云はねばならぬ。

更に同店では最近發會式を舉行して創立を見るに至つた「文人畫と酒の會」なる機關がある。之れは當主孝兵衛氏の主唱に係り、自ら會主となつて、文人畫と酒に興味を有する業界人を會員として組織されたもので、「孝親會」が營業者としての販賣協同の機關であるとなせば「文人畫と酒の會」は個人としての相互の精神的な交渉を深からしめる趣味の會合であつて、別個の深き意義を有するものである。同店はこの二大機關によつて問屋と小賣業者乃至造家の内外的關係を合理化されてゐる。

而して當主小西孝兵衛氏並に支那人渡邊次郎氏以下店員諸氏は、悉く新進氣鋭の人々であつて、新時代の洗禮を受け時代の盛衰に敏感なる人々であるから、斯くは今日の如きシステムに立脚して意義ある業績を挙げ得た譯であつて更に將來は一層の刮目すべきものがあらう。

實確は品商實堅は務業

酒銘大二高最切飛特



泉孝水菊



泉孝鳳凰

元賣發

屋問類酒京東

目丁一堀新南・橋京・京東

店商衛兵孝西小

番一四六・番〇〇二橋京話電

特飛切銘酒「榮冠」

株式會社丸玉商店本店

酒造の神様と云はれる大倉恒吉氏の吟醸酒は、吟醸酒としては「月桂冠」に次ぐ酒として「榮冠」の銘で、東京市場に噴々の盛名を轟はれてゐることは殆く業界人の知る所であらう。

大倉恒吉氏は吟醸酒界の先賢者のやうに云はれてゐるが、吟醸酒にも雄詰同様卓抜な努力の跡が現はれてゐる、それは雄詰「榮冠」によつて代表的に表現されてゐる。「榮冠」は東京市場に於て特飛切銘酒として最高の地位を保つてゐるが、それは既に醸造元が大倉氏であり發賣元が丸玉商店本店であるといふ爲めではない。それは實に「榮冠」の品質が他に一頭地を抜いて勝れてゐるからである。

「榮冠」は市販酒として最高の價値を持つてゐる。つまり買つて

よく買つてよい酒なのである。東京酒類商同業組合の市販酒品評會では一般に灘伏見方面の酒の成績が悪いが、「榮冠」だけはいつも最高位で昨年は遂に名譽賞牌を買つた。又各區の商人筋の酒會でも「榮冠」は常に評判がよい。

然し酒は単に品質ばかりで市場にのして行けるものではなく、殊に東京市場では其傾向が多い。「榮冠」が大倉氏の吟醸であると同時に發賣元が丸玉商店本店であるといふことは、どれだけ「榮冠」の實質を正當に評價することに役立つてゐるか分らない。丸玉商店本店は新川新堀の間屋中でも一二を争ふ有力間屋である。「榮冠」と丸玉商店本店——鬼に金棒とでも云ふか、其の將來は益々期待すべきものであらう。

攝津西灘
醸造元 大倉恒吉

飛切最優等清酒



(ニカイエ)

京橋區南新堀
發賣元 株式會社丸玉商店本店

電話京橋 (56) 二二三二番

東京市京橋區南新川

酒類問屋 竹野兵之助商店

電話京橋 二〇三二番
振替口座東京 三〇一三三番

東京市京橋區南新川に於ける新進酒類問屋として斯界の刮目する所となつてゐる竹野兵之助商店の沿革と現在を紹介することは、東京市場に將來雄飛せんとする人々にとつて多大の参考となるであらう。同店は現在私買本家の吟醸酒「花錦」並に三重縣東關酒造株式會社の吟醸

東關

優等三大銘酒



花錦

「東關」等の發賣元として、營業方針の積極的であると共に、顧客まで顧客に對して親切眞摯であるといふ點で聞えてゐる。

竹野兵之助氏は明治二十七年まで三重縣梅村に於て自家



醸造業を営まれつゝあつたが、之れを實地販賣上に生かすべく、

治三十年東京に店を置き、酒類仲買小賣等を營み、明治四十年頃より酒類問屋として灘方面の銘酒の委託販賣を受け今日に至つたものである。而して自家醸造業は時勢の推移を洞察して一族の同業を併せ更に同店の取組關係の主要なる者をも参加せしめて、大正十年東關酒造株式會社を創立し自ら専務取締役として持株經營に任じつ今日に至つてゐる。

故に同店は問屋業者であると共に一面造家直營店であつて、東關酒造株式會社並に同店を廻つて造家問屋小賣業者の三者は緊密に融合してゐる。而して之れが結束を具體化する爲めに「錦會」なる團體が組織されてゐるが、「錦會」は造家問屋小賣の三者の販賣上の協調機關であると共に他方面にも飛躍し、毎年春秋二季に開催する組合主催の酒類品評會の如きは、大正九年以來回を重ねること十三回に及び、單に會員の指導啓蒙に資する所があるばかりでなく、東京業界に多大の刺戟を興へつゝあるも

のである。

同店に於ける支那人の地位にあるは、養嗣子竹野竹藏氏であるが同氏は信濃の人であると共に科學的經營に長じ、當社に代つて營業の第一線に立つて活躍されてゐる。前年秋に富み將來東京界に重きをなすべき人であらう同店の家庭的方面は當社並に養嗣子夫婦外に子女五名、店員女中等を養つて三十餘人の大家族であるが、而も極めて圓融春風籠罩たるものがある。尙當社並に竹藏氏は其の私生活に於て佛の教へを信仰する人であるといふから、其の營業並に家庭が自ら他と違を異にし、而も今日を成すに至つたのは全く故なきに非ずと云ふべきである。而して同店も亦現在中央酒類問屋聯盟會員として、且つ更新役員として、新川新堀に於ける一流問屋として推されてゐる。

銘酒『金龜』の醸造發賣元

岡村岑三郎氏の業績

銘酒『金龜』の醸造發賣元として、帝都市場に華々しく飛躍されつゝある京橋南新川の五星岡村商店主岡村岑三郎氏の人物と事業を紹介するといふことは、後述の爲めに幾多の暗示と

稗益を興へるものがあると思ふ。氏は近江日枝の酒造家故岡村多内氏の三男に生れ高等教育を終へたる後、一年志願兵として軍隊生活をなし砲兵中尉に任ぜられた。歸來具に家庭其他の事情を考へ、實業を以て身を立つるの決意をなし、自家の醸造業を根柢として之れが販賣方面を分擔して今日の所謂『醸造販賣』のモットーを實現せんことを企畫し明治四十一年三月單身上京約一ヶ年間帝都の事情を詳査し、翌四十二年十

月現在の地に酒類問屋敷を

設計せられたるものである。當時新川市場は傳統と因習に立脚し、外來者を異端視するの傾向があつたが、氏はよく前面に策勵し一而郷里の兄弟數氏と協力して醸造方面の改良發展を計り大正



元年遷西宮に醸造場を創設し、茲に銘酒『金龜』の品質と堅價を一層洗練向上するの機會に到達した之れより五星岡村商店は一路順調の發展を遂げ、大正十二年の關東大震災にも速やく復興の實を擧げて今日の盛運を招來するに至つたのであるが、之れ全く當主岡村岑三郎氏の卓越せる近代的经营の手腕と不屈不撓の精神によるもので

灘一番の酒



メカンキ

醸造發賣元
東京市京橋區南新川
五星岡村商店
電話京橋二四〇七番
電話京橋二四三六番

ある。氏は一而公人としてよく社會公共の爲めに、或ひは業界の爲めに盡し、現に京橋區の在郷軍人會長、青年團長、所得調査委員等に兼任し、
同業界に於ては新灘酒類問屋を以て更新會を組織し自らは理事に推され、更に中央酒類問屋聯盟會に於ても理事として、氏の一言一行は業界に重きをなすに至つた。氏は享年四十二歳前途春秋に富み更に其の飛躍は一層將來に期待すべきであらう。

宮内省御用達



日本醸造協會
近畿支部第五回品評會
最高名譽賞受領

菊正宗

醸造發賣元

株式會社

本嘉納商店

東京支店

電話京橋(四)六八一四二

東京市京橋區西紺屋町

酒類問屋

六甲商店と溝端久敏氏

東京市京橋區北新川(一の橋通)の酒類問屋六甲商店は、溝端久太郎氏並に若主人溝端久敏氏の經營に係り、銘酒「金殿」の發賣元として著名である。溝端久太郎氏は夙に醸造技師として酒造方面に令名があり若主人溝端久敏氏は嚴父の醸造方面に於ける收穫を更に販賣方面に生かさんとして、當時最高學府に經濟學を修めつゝあつたのを斥いて世界に投じ、大正元年現在の酒類問屋六甲商店を創立し今日に至つてゐる。

溝端久敏氏は業務の科學的經營を提唱し且つ實行せられつゝある人で、其の營業方針は極めて合理的基礎に立脚し、苟くも時流に追従して其の隨處を誤るが如きことなく、現に帝都酒界に流行する某品特賣の如きは嚴に之を戒め、實質的に問屋と小賣業者の緊密なる

關係に於て取引を結ばれてゐる。

而して又同氏は清酒の精詰主義を提唱し、之れが科學的な研究をさへ行はれてゐるが、氏の營業も亦精詰清酒の優秀なるものを經濟的に供給すべく努力され、現に灘酒「金殿」を主として東北地方の優良酒を採扱して供給されてゐる。

同店は今や益々業務確定して聲價額に高きに拘はらず、氏は小成に安んぜず、偉大なる抱負の實現の爲めに、自ら身を持すること最も堅く、永久に若々しき學生時代の意氣を以て營業の第一線に活躍されてゐる。同店は中央酒類問屋監事會員であり、別に帝都新進問屋團更新會の創立者として、公的方面に於ても新人溝端氏の鳴が

灘西宮

釀造元 南方酒造株式會社

樽詰本位の營業方針



キデンス

東京市京橋區北新川

發賣元 六甲商店

電話京橋三二八七番



銘酒白鶴

嘉納合名會社

東京支店

京橋區米女町(歌舞伎座前)
電話銀座八九番、五八六番
同 同 三丁目
同 同 南區大和町
同 同 神戶市元町七丁目
東京支店 東京市京橋區安女町

銘酒「白鶴」は兵庫縣灘御影に本店を置く嘉納合名會社の吟醸に係り、寛保三年十月創業二百五十餘年を閲し、代を重ねること六代明治三十年合名會社を組織し、爾來業況一層進展して現在資本金五百萬圓全額拂込醸造場拾七蔵、手釀額三萬餘石に及び、外に味淋焼酎清涼飲料をも製造して、情然たる大勢力をなすものである。會社の陣客一班を記せば左の如くである。

社長 嘉納治兵衛氏
副社長 同 紀氏
社員 同 愛氏
同 正治氏
本店兵庫縣灘御影町
大阪支店 大阪市東區横堀一丁目

であつて樽詰の鼻祖として、最近灘に於ける樽詰工場如き近代科學の粹を凝め模範的工場として刮目されてゐる。由來灘酒は往昔より江戸積と稱して各醸造家は其の製品の大部分を江戸に輸送し問屋の委託販賣に據る事としたが「白鶴」は夙に之れが弊害に覺めて五十餘年前江戸積を廢し、卒先して濱家直營店を大阪に設け次第で全國の樞要の地に同様の販賣組織を以て販賣網を敷き今日に至つたものである。

故に東京市京橋區安女町に設置せられた嘉納合名會社東京支店は「白鶴」獨自の販賣方針によつて、會社直營の下に東京市場に「白鶴」の地盤を開拓すべく活躍しつゝあるもので、其創設は比較的近年に屬するも、其の販賣方針は飽くまで實質的合理的であつて、東京市場に浸潤しつゝある販賣上の悪弊に消従することなく、漸實業に邁進せられつゝある爲めに近來「白鶴」の聲價は愈々揚り、其將來を最も刮目されてゐる。支店長山田定助氏は人格識見力量共に「白鶴」のモットーと聲價を東京市場に具現するに、最も適當な人であつて業界に令名噴々たるものがある。(寫眞は山田定助氏)



として一部の販賣的嗜好に阿ることなく大衆的高級酒とも稱すべき品質を以て聞え、販賣方面に於ても常に新機軸を出し、樽詰清酒を社會に供給したる先驅者は「白鶴」

エビスビ
 サッポロ
 アサヒ
 ルービ

清涼飲料

シトロン

リボン印ラズベリー

タンサン

ナポリン

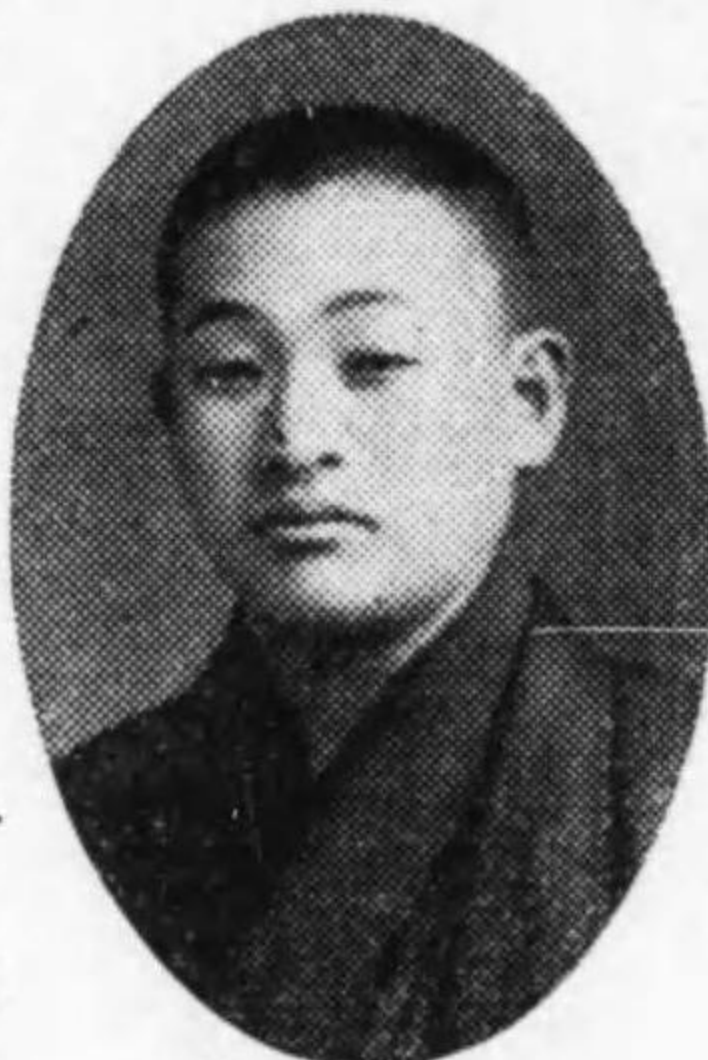
東京酒類問屋

奴利彦總本店の業績

東京市京橋區松川町の東京酒類問屋奴利彦總本店は飛切銘酒「太平正宗」を始め、其他各印の醸造元として、現在東京市場に最も華しく活躍されてゐる。同店は以下述ぶるが如く傳統的に古き歴史を有すると共に、而も此の傳統を継承して業礎の確固磐石の安きにある點に於て特筆大書せねばならぬ。

同店は享保年間創業であつて江戸屈指の老舗として知られ、爾來二百數十年の古き歴史を有し、當主中澤彦七氏を以て七代連続として由緒正しい家柄である。初代彦七氏は享保の初年松川町に居を構へ、酒商を営み二代彦七氏の時兩替店をも兼營され三越の前身たる越後屋等と共に江戸八天評の一と誦はれる豪商としての基

礎を築かれた努力家であつた。創業以來銘酒星の井を發賣され諸大名御用商として信譽厚く、累代當主は穎才にして父祖の業礎を辱めず、遂に昭和の今日に至つては



中澤彦七氏 主店

販賣を行ひ報謝供養の誠を披瀝されてゐる。以て同店の經營方針が如何に質實眞摯であるかを知るべきである。當主中澤彦七氏は先代彦七翁の後を承けて先年家督を相續され年齒漸く不惑人格圓熟識見高邁業界稀有の人物である。而も氏は身を特すること最も少く自ら店頭に立つて、多數店員諸君を指導され、奮勵努力營業に邁進されつゝある状態は同店の如き老舗として稀に見る所で、斯の如きは恐らく同店の連続たる家意によると共に、當主彦七氏の營業第一義の徹底せる精神の發揚であらう。氏は公共の念隨る篤く社會公共の爲めに盡瘁され、區内の屈指の名譽家として名噴々たるものがある。

東京酒類問屋組合の重鎮として取引の堅實と信用の充實せるを以て聞え、現に宮内省御用達の恩命を蒙つてゐる。而も同店は祖先の業績を偲び崇拜するの意を以て小賣販賣も行はれ天保年間より毎月一日十三日二十二日の先祖の命日には奉仕

特飛切銘酒

太平正宗



享保年間創業
 宮内省御用達

東京市京橋區松川町
 東京酒類問屋

奴利彦總本店

中澤彦七

電話京橋 二九四番
 九五番

帝都市場に躍進の

山中商店に就て

最近帝都市場に最も華々しい進出ぶりを見せてゐる浅草區橋際

東京に於ける山中商店は醸造販賣主義の經營方針を講ずる目的を以て全國酒類の最大消費地たる帝都に進出せられたるもので、兼ねて酒類問屋として京都伏見の

同店は「英鷲」並に「長鶴」の二大銘酒の發賣元として、最近異常の名譽を博するに至つたが同店は酒家の直營店として本店を滋賀縣に置き醸造場を神奈川縣小田原、静岡縣御殿場、伊豆長岡等に置き、之れが醸造酒の商標は「英鷲」「雲上正宗」「旗風」等の銘によつて同地方に多大の名譽を博しつゝある。

同店の經營方針は堅實なる一面に機を見るに敏なる積極的意氣の充實せるを認むべく、傳統的銘酒の間に擡頭して、「英鷲」「長鶴」其他同店の發賣銘酒が嶄然として頭角を現はすに至つたのは、全く同店の經營方針が異色あるが爲めであると稱されてゐる。

三 大 銘 酒



長 鶴

三 越

ニクイニ

東京市浅草區橋際

發賣元 山中兵右衛門店支

電話浅草三三九六番

銘酒「日本人」發賣元

瀧澤石男氏の業績

東京府下瀧野川町に酒類問屋を經營される瀧澤石男氏は、最近まで銘酒「日本人」の發賣元としてよりも、寧ろ東京酒類業界の公的方向に活動され、公人として噴々の名があつた人であるといつても差支あるまい。過般家庭の事情により一時公職一切を斷つて營業と家庭に没頭されるやうになつたが同氏が公人としての活躍と業績は東京業界に永久に光彩を放つてゐる。

氏の産を成し併せて名譽を博するに至つたのであつて、其の傑出せる手腕と人格は氏に親炙せる人々の異口同音に首肯する所であり、其の今日あるは決して故なきを知る所である。



瀧澤石男氏

（一）

瀧澤石男氏は立志傳中の業界人として過般博文館發行の『酒類雜誌』にさへ謳れた所であるが、氏は明治三十九年三月二十五日の創業であつて僅々二十餘年にして今

（二）

明治の先賢瀧澤氏は士魂商才を唱導されたが、瀧澤石男氏の如き或ひは士魂商才の人と稱すべきで氏は明治三十八年創業に先んじて日露戦役に従軍し偉勳を現はして

歩兵曹長に任じ職七等に叙せられたが實に氏の營業方針は軍人精神を總として、之れに独自の商才を緯とする所謂士魂商才を發揮せるものであつて、氏が營業の人として大をなすと共に、一面同業者の爲めに犠牲的勢力を傾倒し公人として名を成すに至つたのは、余りからした精神の所

（三）

つたが、突如夫人の逝去により家庭の都合上所得調査委員を除く一職の公職を辭せられるに至つたのは惜みても餘りある次第である。

かうした精神の所有者であつたからであらう。

（四）

氏は最近まで東京酒類醸造同業組合第十八部長に歴任し、兼ねて北豊島郡酒類醸造同業組合として同業者の爲めに奮闘努力し、舊營業稅調査委員現所得調査委員に歴任して、別個の方面より同業者を裨補する所が多かつた。其他瀧野川町に於ては、同郷軍人會長等の公職に任じて最近に至

今や氏は家庭にあつて營業の發展と子女の教養に没頭し、殆んど他を顧みるの餘裕なきものゝ如くである。銘酒「日本人」は同氏の代表商標であつて、醸造元は新瀧澤野町安達瀧右衛門氏であり、品質優秀各種品評會に於て最高賞に推されざることなき逸品であるが、之れが東京市場に於て今日の如き盛名を博するに至つたのは全く氏の宣傳普及しきを得た結果でなければならぬ。氏は今や知命に達し人物益々圓熟、殊に其の高き識見は稅制其他各方面に就つて畢竟一業界の器として終始せられ

るには餘りに惜むべく更に角現在單なる營業の人としても充分信頼と尊敬に値する業者として推すべきであらう。

館林の「龜甲正」 正田醬油株式會社の業績

上州館林は關東に於ける醬油の名産地として夙に聞えた土地である。而も一方關東には野田銚子の二大銘醬地があり、地理的關係よりして館林は右の二大銘醬地に一躰を輪する所があつて、東京市場に於ける競價は徒らに二大銘醬地に「恣にされんとするの趨勢がある。然るにかりした館林醬油中に於て、右二大銘醬地の代表品に對抗して、大いに氣を吐くものを正田醬油株式會社とし、其の代表商標を「龜甲正」とするのである。

正田醬油株式會社は明治六年の創立に係り社長を正田文右衛門氏とし、館林醬油中の魁冠として、組織内容の堅實を稱せられ、時勢の進運に先驅して着々品質の改良向上と大量生産主義に着目し、今年年産五萬石の多量を算し、主として販路を東京に求め、野田銚子の二大銘品と對抗して、市場に雄飛しつゝあるは其の意氣や壯と稱すべきである。

元々東京は醬油に於て最も商標心醉の弊甚だしく、最上醬油の名に於て傳統的に有利なるものあるは我が「龜甲正」の如く品質本位を以て堅實に邁進しつゝあるものために遺憾とすべきであるが、「龜甲正」が五十年に亘る努力は始終一貫して、今や東京に於て品質第一義の「龜甲正」の眞價値を十分に認識するに至り、需要は逐年増加の趨勢にあり、社運は益々隆昌を呈しつゝある。醬油界不振の今日「龜甲正」の如きは其の未來を背負つて立つべき最も有力なるものであらう。

品質本位



ウヨシーコツキ

群馬縣館林町
醸造元 正田醬油株式會社

電話館林二十五番
振替東京一五八〇五番

銘酒「サワカメ」の

東京市場に於ける聲價

銘酒「澤龜」は人も知る宅合名會社の醸造に係る代表商標であつて、夙に其の名聲は東京市場より、關西朝鮮北海道等地方に洽く、東京市場に進出して其の聲價を擧げるに至つたのは、寧ろ近來に屬すると稱しても差支あるまい。吾人は「澤龜」の東京市場に於ける聲價を檢討するに先立つて、少しく宅合名會社の沿革と業績を回顧することとせらう。

を以て海内は勿論朝鮮方面に雄飛し今日の先驅をなした。明治二十九年宅龜平氏統卒の下に一族を以て宅合名會社を起し爾來着々發展資本金を増加し明治三十九年資本



醸造發賣元
東京市神田區三河町
二丁目二十五番地
宅合名會社
東京出張所
電話神田二十五番

全額拂込五十萬圓に達し今日に至つてある。明治三十一年藤住吉に醸造場を設け「澤龜」の品質益々芳醇優秀味を加へ來つた。明治四十年に東京出張所を開設し販路の擴張に努め、之れより關東地方に「澤龜」の名聲高きを加へた。大正九年宅龜平氏に代つて宅萬次郎氏

社長に就任せられ同十一年臺灣總督府專賣局指定酒を命ぜられ、内地及び殖民地に益々「澤龜」の販路と聲價を扶殖するに至つた。

以上の如く宅合名會社は常に積極的飛躍を持続し醸造に専らに改善と刷新を怠らず品質益々優美販

た。而して此の間銘酒「澤龜」が内外各地の博覽會共進會品評會に出品して受賞した數は實に五十餘件に達し、一々枚牌に選なき次第である。

路愈々擴張し内地は勿論新領土殖民地より遠く海外諸方面に銘酒「澤龜」の名を喧嘩せられつゝある現任年産三萬餘石本場屈指の大醸造業者として先代社長宅龜平氏は長くも新發聲譽を囂はるに至つ

宅合名會社東京出張所は以て詳述するが如き背景に立脚して明治四十年以來將に二十年東京市場に着實なる地盤を扶殖し來つたもので、「一番よい酒サワカメ」のスコーガンは小賣店料理店等を通じて帝利全市民に洽く宣傳されつゝある。現出張所主任宅昌一氏は前任の後を承けて最近就任せられた新進氣鋭の人であるが、今や東京市場は其の中間販賣機關に一大動搖を惹起せんとしつゝあるの秋此の間に善處して「澤龜」の活躍は新任の手腕によつて如何に展開されるべきか、多大の期待を以て迎へられる所であらう。

酒類問屋

矢野清三郎氏に就て

東京市浅草區西鳥越町三番地に酒類問屋を經營する矢野清三郎氏は實質本位を標榜する紳商人の異色ある人物であつて、營業の堅實味あるは勿論であるが、より以上に其人物に信頼すべき點が多い。同氏は明治四十四年の創業に係り現在銘酒「清鷹」「國光」等の代表商標を以て東京市場に確立されてゐるが、氏は酒類の販賣界に身を投ずる以前は、醸造界に在つて親しく醸造の實際を研鑽された人である。

氏は新潟縣の酒造家に生れ兄弟五人、悉く酒造を以て業とせられた、令兄西井金次郎氏が群馬縣高崎に醸造場を經營するや、氏も入りて之れを助成され、具に醸造上の實際を究め十分の識見を得る。

然も氏は業界共在共榮の念に厚く西鳥越小島三筋各町附近の同業者五十餘名を糾合し淺草酒類商會第二部會を組織し、自ら之れが牛耳を執り營業上の不正競争を戒め、堅實なる發達に努力されてゐる。

や之れを販賣上に活用すべく、上京して矢野家に入り、酒類問屋として令兄の産酒は勿論其他主として地方酒の普及宣傳に努力し今日に至つたのである。

氏は一面小賣業をも兼營されてゐるが、之れによつて無業者の傾向を探究し、品質優秀にして經濟的なる酒類を供給する所謂實質本位の營業方針を具體化すると共に他問屋業者として醸造家としての舉措に活用されつゝあるのである。

營業は實質本位



カクヨキ

東京市浅草區西鳥越町三番地
發賣元 矢野清三郎商店
電話三〇一九番

東京府下日暮里驛前

丸 栗林善次郎商店

電話下谷五九五九番

◇：府下日暮里驛前に酒類仲買商を經營する栗林善次郎氏は、銘酒「東一力」小豆醬油「上天」の發賣元として業界に重きをなし、堅實なる地盤を扶植されつゝあると共に、同氏は北豊島郡同業者中屈指の人物として定評があり、同氏の營業は其の人格を出発點として行はれてゐる。

◇：同氏は埼玉縣下の酒造家に生れ、幼時より醸造上の經驗を所有されてゐるが、明治三十二年入營して軍隊生活をなし明治三十七八年戦役に従軍し其の勳功により砲兵曹長に任じ勳七等功七級を賜はつた。

◇：大正二年生家を出で、販賣上に飛躍すべく現在の地に創業せられたが、其の人格の圓滿高潔なると手腕力量の傑出せるとは忽ち認められ、業界に重きをなし、曩には東京酒類商同業組合評議員副部長に歴任し、現在藤澤石男氏の後繼者として第十八部長の重職にあ

り、兼ねて北豊島郡聯盟會長として、郡内同業者の爲めにも亦積極的に努力されてゐる。氏の如きは

最高銘酒



商人として且つ人格者としての全き調和を得た業界に得難き人であつて其の健在を祈るや切なるものがある。

東京府下西巢鴨町宮仲
二千七百三十八番地

田中屋本店

川又源一郎
電話大塚二二六・一五〇九番

◇：府下西巢鴨町の田中屋本店は其の醸造の大なる點に於て、郡部屈指の酒類醸造問屋と目されてゐる。現本店の外に賣場支店を五軒有し、雇人二十二名を擁し着々著るしき發展を招來しつゝある。

◇：同店は明治四十三年の創立であつて、創業以來約二十年にして今日の大を成せるは異數とされてゐる現在銘酒「三瑞」「敬盛」「勢」等「改勇」「醬油」「山椒」「一源」等の一手發賣元として特に地方銘酒の普及宣傳に努力しつゝある點を齎せねばならぬ。

◇：店主川又源一郎氏は斯業の鬼擘として同店が僅々二十年にして

今日の大をなすに至つた異常の手腕家である。享年四十歳に過ぎず其の前途は實に洋々たるものがある。氏は而も今日の大成に満足せず、着々仔々として其業に精進する一方、業界の共在共榮を念として、最近公的方面にも努力せらるるに至つた。

◇：則ち過般北豊島郡同業者より推されて東京酒類商同業組合第十八部副部長となり、同時に北豊島郡聯盟會長として同業者の爲めに盡心奮闘せられることとなつたことである。同氏の如き力量ある人が同業者の爲めに職せられたことは業界發展の爲めに喜ぶべく其の手腕に期待するものが多い。

深川の老舗

藤井七兵衛商店

東京深川は大江戸の昔辰已情調を以て謳はれたが、然し帝都の中心を離れて商業地帯として目すべきではなく、従つて代々連綿たる老舗の如きは昭和の今日に至つて殆んど之れを指摘し得ない所である。殊に業界に於ては一蒸帯水の新川を控えて間屋敷の老舗は此處に集中し、深川に於ては僅に享保十六年十一月三日の創業に係り、爾來連綿として今日に至つた同區豊岸町の越前屋藤井七兵衛商店を有するのみである。

の優秀を以て聞えてゐる。

同店の奥床しき営業方針を物語るにふさはしきものとして、同店では毎年十一月三日を下して先祖祭を執行され、主なる顧客を招待して報恩反始の誠を披瀝されつゝあることである。今日の如く世道人心頹廢し、商業道徳の泥土に墮せる秋に於て、同店の如き眞摯なる経営方針は誠に異數して推さなければならぬ。

同店は創業以來二百有餘年當主七兵衛氏に至るまで現在の地に於て酒類醬油卸帳を經營され、眞實眞摯なる經營方針は最も定評ある所である、清酒の代表商標「倭」ころ正宗」醬油の「フジヨシ」印共に名も奥床しく同店の商標と傳説を表徴するかの觀があり、品質

當主七兵衛氏は温厚篤實の人格者で業界の公共方面には率先して奮發され東京酒類同業組合役員としても幾多の貢獻を致され、且つ現在深川區酒類同業會々長として、區内同業者の爲めにも努力し、祖先の業と名を益々發揚されつゝあるのである。

醬油 清酢



フジヨシ印

優等清酒



東京市深川區靈岸町三

越前屋

發賣元 藤井七兵衛

電話本所四四六八番

東京市小石川區指ヶ谷町

伊勢定號

岡本弘商店

電話小石川六二二番

大正四年の創業なるも發展著しく現在支店數軒當主兄弟共に斯業に従ひ經驗最も深し。區内酒類醬油仲買小賣業者として著名日本盛大關等の銘酒普及に努力し地方酒にも熱心なり。現當主は組合代議員部會々計主任等を歴任し令名あり。

東京市小石川區江戸川町一

尾張屋

田島竹次郎商店

電話小石川二五一九番

明治二十三年の創業にして當主は新進氣鋭區内の有力者として東京酒類商組合の代議員を歴任し、區内第十部會々計主任の重責にあり、營業方面に於ても酒類醬油仲買小賣營業として積極的に活動しつゝあり。

東京市本所區外手町七七

遠藤東京支店

電話墨田四六〇二番



廣島縣吳市に本店あり帝都に飛躍すべく大正元年設置、銘酒「福正」銘玉「滿の聲」等の發賣元として江東を主として全帝都に盛名噴々たるものあり。

東京市本所區中ノ郷竹町四三

加瀬勇次商店

電話一一八八番

江東に於ける屈指の紳商として定評あり、當主は享年五十四歳、東京業界の古老として舊仲買商組合時代の役員となり現組合では曩に評議員として令名ありき、營業に飽くまで堅實顧客本位を以て開ゆ。

東京市本所區外手町五番地
酒類問屋 清酢醸造 村田商店

電話本所二九九番

本所區外手町河津通りに堂々たる酒類問屋並に清酢醸造業を經營される村田貞一郎氏は、新進氣鋭の業界人として販賣政策の積極的なるを以て聞えてゐる。

天下一品



最上清酢

風味卓絶

村田商店は先代村田鐵吉氏の時に業成り、清酢「マルチ」印の醸造販賣をなすと共に、各種清酢の間屋業を行ひ、父子共力して業

界に活躍されたので、逐年加増度を以て發展し、今日に於ては貞一郎氏當主として一層新進の手腕を發揮されつゝあるので、一ヶ年の賣上高百萬を突破するの盛況に達したのである。

氏は人格圓滿實質而も内に強烈なる意志を所有する人であつて、清酢界に「マルチ」の存在を確固不拔たらしめ、幾多の追従者を輩出せしめたが、殆んど抗する能はずして「マルチ」のみ盛名を悉く、且つ清酢問屋としては特に地方の宣傳普及に盡精され其の功績は顯著なるものがある。氏や年廣く不惑其の發展は寧ろ將來に期待すべきであらう。

東京市深川區仲大工町(高橋際)
柳屋 松崎吉三本店

電話本所(一七九七番) 二七二九番

深川區内多數の酒類卸小賣商として、松崎吉三本店は明治二十三年の創業以來發展の一路を辿り今日に至つてゐる。

當主松崎吉三氏は東京酒類業界の耆宿とも稱すべき人物であつて人格識見に卓抜を以て稱せられる。而して一而公共の念極めて厚く、東京市買組組合より現東京酒類同業組合に至る約三十年間、組合の役員として努力せられ、曩には評議員會議長として令名があつた人である。

状態である。仄聞する所によれば氏は青年時代銚子方面に於て醸造に従事し出でて販賣界に入つた人で、醸造販賣兩面の識見と鑑評力を有し、精進努力の結果業界に重きをなすに至つたものであると稱されてゐる。

氏の事業は氏を中心として同族數氏協力して酒類醬油の卸方面並に小賣方面に飛躍されつゝあるもので、多年の努力による牢固たる地盤に立脚し、更に新境地の開拓に向つても極めて積極的であると傳へられる。

東京市場に進出した

盛川東京出張所に就て

◇我國の銘酒地盤酒類問屋秋田等に於て、東京市場に最も活躍しつゝあるは灘であることは言ふまでもないが、之れに亞ぐものとして、廣島酒は寧ろ秋田酒等に一籌を輸するものあるを遺憾とせねばならぬ。

◇廣島酒中の權威として盛名ある「白鷗」賀茂司の醸造元廣島縣賀茂郡内海町盛川本家は此の點を遺憾とする所があり、且つ震災直後の好機會に策應すべく、東京市場に進出を企て本所區外手町四十六番地に東京出張所を設置せられたるは廣島酒中に於て大いに氣を吐くものと云はねばならぬ。

◇盛川本家は當主を盛川謙造氏とし享年四十六歳同地の名望家として町會議員其他の各譽職に歴任され、傍ら自ら醸造に従事し、年産三千數百石を算し、品質の優秀を以て聞えてゐる。

◇而して盛川東京出張所主任盛川集一氏は、主人謙造氏の一族より出で、特に選拔せられて主任の重責に就いた人で、人格圓滿手腕練達、開店以來着々堅實なる地盤を扶殖され、銘酒「白鷗」賀茂司の名聲は漸く高きを加へるに至つた。

◇由來震災直後東京市場に群生した造家直營店は、各般の事情により漸次淘汰せられ、今日存在するものは最も内容の充實と發達を期せるものであつて、盛川東京出張所の如き全く、かうした意味に於て經營宜しきを得たものであり其の前途は益々期待すべきであらう。

◇銘酒「白鷗」印は同店の代表商標として、品評會其他に於て常に優秀の成績を擧げてゐるが、特に注目すべきは其の品質を東京市民の嗜好に適合せしむべく努力精進せることであつて、今や其の品質に於て難一流諸酒に伍して遜色なしとの評が高い。

廣島酒の權威



ハコウ印

醸造發賣元

東京市本所區外手町四六

盛川東京出張所

盛川集一

久家商店主

日名子長次郎氏に就て

東京京橋の電車交差點に近き同區龜町に酒類卸小賣業を經營される日名子長次郎氏は、商號を久家商店と稱し「久家」の名は四隣に高く堅實な信用ある店として斯界に重きをなしてゐる。

同氏の創業は明治三十年に屬し、享年四十三歳の今日まで約三十年間に亘つて斯業に奮闘され、最も深い經驗と手腕の所有者である。而し氏は商人に珍らしき高潔の人で其の人格によつて取引先との信用は益々増大され、逐年商號の大をなすに至つたものである。

數十年以來『鶴正宗』の一手發賣元として、且つ『菊正宗』の特約店として、斯界に活躍され其の販路は此の二大飲酒にふさはしい料理店方面に深く浸潤さ

れ、牢固として抜くべからざる地盤を扶植されるに至つた。外に飲酒「乃井」をも發賣され、大家方面に素晴らしい人氣を博してゐる。

氏は其の高潔なる人格に見るが如く、單なる商人として自利にのみ起るを謀しとせず、公共の爲めには犠牲的奉仕に吝ならざる人であつて、現に龜町々會議員に選任され、町内の親睦和に努力されてゐる、業界の組合方面に於ても將來氏の如き人物の活躍を期待するものが多いから、漸次此の方面に努力されるであらう。今や同店は區別整理成り、一層活躍の機運に當面されてゐる。實に氏の如きは情報に足る卸業者として推奨すべきであらう。

醇良大二銘酒



宗正鶴



宗正菊

京橋區龜町十一番地

鶴正宗一手捌 久家商店

電話京橋七六八番

東京市麻布區市兵衛町二丁目三十九番地

東屋今井龜太郎商店

電話青山五六一番

◆近來最上醬油「健國」印一手發賣元として、帝都市場に雄飛し其の活躍を注目されてゐる今井龜太郎氏は、他産酒類販賣の仲買商をも營み、青年業界人として敏腕の開え高き人である。

◆氏の店舗は明治二十七年竣工によつて創立されたもので、氏は二代目を繼承された者であるが、氏は幼時より斯業に對する深き經驗を積み、天賦の眞實と相俟つて蕭々新地盤を開拓せられ、遂に今日の盛名をなすに至つた。

◆「健國」印醬油が今や東京市場に於て著しく騰價を擧げつゝあるは同氏特獨の活躍によるものであつて、醬油界沈滞の今日一大脚戲を斯界に興へたものである。

最上醬油



的に實質本位を旨とせられてゐるので、顧客は氏の人物と營業の堅實味に吸引され、逐年加速度を以て發展されてゐる、氏の如き最も多幸なる將來に恵まれた人であつて、衷心未來の大成を祈つて止まぬものである。

東京市牛込區早稻田鶴卷町百番地

小西號 小西保三商店

電話牛込二六六番

◆東京酒類販賣業界沈滞の際を開くや、可成り久しいものであるが、之れが原因は空邊に存するであらうか、勿論一般氣の不振が最大の原因をなすであらうけれども、一面業界人の舉措弛緩し、宜しきを得ない爲めであると稱しても差支あるまい。

◆故に沈滞せる業界を展開せんと欲すれば先づ業界人自ら策を樹て、宜しく策應せねばならぬ。然るに多くの業界人は拱手漫然として只管業界の沈滞を嘔ちつゝあるは遺憾とすべきである。

◆早稲田の小西保三商店は、かゝりした業界に在つて最も華々しく活躍しつゝあるものである。其の營業方針が極めて積極的であるだ

けに、消極者には著るしき驚異となるは免れ難い所であらう。現在支店十數軒を有し本店之れを督して緊密なる販賣網を敷き、酒類醬油の仲買に小賣に、異常なる收穫を擧げつゝあるのである。

◆店主小西保三氏は當年五十三歳、營業に對しては獨自の信念と手腕を所有する人であつて、世上往々定見なき業者の輩出する今日氏の如きは異數であると稱して差支あるまい。創立は明治二十六年當主によつてなされ、今日に至つたもので、其の異色ある營業方針によつて、本店支店併せて小西號の名により發展を招來しつゝあるは驚異とするに足るであらう。

東京市麴町區三番町一番地

升吉本店

久保寺吉兵衛

電話九段三一四六番

久保寺商店は文久三年の創業で現在三代目麴町有数の老舗支店十軒を有し盛業中當主は青春の人なるも先代の氣魄を受け業務熱心誠實其の將來は最も期待すべきものあらむ。

東京市日本橋區馬喰町二丁目

醬油 問屋 岡 永 商店

飯田 永 吉

電話浪花六四〇八番

醬油問屋として明治十七年創業兼て酒類問屋業をも営み、營業堅實を以て聞ゆ、店主飯田永吉氏は新進氣鋭にして最も前途ある業者たり。

東京市麴町區飯田町六ノ二

木屋

西山徳之助商店

電話九段一二二五番

西山徳之助氏は區内の有力者にして東京酒類同業組合第一部長を歴任し前期退任人格圓滿篤實公共の念厚く營業は氏の人格に根柢を置き區内屈指の仲買小賣商として定評あり。

東京市日本橋區箱崎町二ノ七

醬油 問屋 飯田元四郎商店

電話茅場町二三六二番

同店は醬油酒清酢問屋として明治四十五年創業、最近其店舖を八丁堀より轉じて一層商圏の大を期す、店主享年四十五歳敏腕の聞え高し。

新進の業界人

今宮善太郎氏に就て

帝都は年々人口の増加によつて膨脹しつゝあるが、然し市内は既に其の餘地なく勢ひ郡部に向かつて増加を餘儀なくされてゐることは人の知る所である。従つて郡部方面は人口の増加に伴ふ諸般の發達著しく、營業上にも市内と著しく面目を異にし、寧ろ大の未來性に富むは郡部方面でなければならぬ。

府下淀橋町八百七十九番地に酒類醬油仲買業を經營される今宮善太郎氏は少年時代より業界に入りて指操經營奮闘を持續し獨立創業せられたるは大正元年に屬するが當時經營の地を府下淀橋に相せられたるは幾き慮かりある結果であつて、即ち前途の如く郡部の未來性に富む發展に着目して、此の



今宮善太郎氏

方面に雄飛活躍を期せんが爲めであつた。

同氏は商號を水野屋と稱し銘酒喜久娘、醬油水善一今等の發賣元

として親切第一の營業方針で、いたく郡部方面の顧客から信用を博してゐる、而も氏は漸く年齒三十五歳であつて新進氣鋭の業界人として前途春秋に富む人であるが、業界に於ける經驗は實に二十二年の長きに亘つてゐるので、氏が今日の成功は全く故なきに非ずと言

はれてゐる。

而して氏は業界に對して最も忠實であると共に、一面公共の念に厚く、常に公共的の奉仕を怠らぬと共に、業界人としては東京酒類同業組合第十七部豐多摩郡部會の代議員に推され、同業者の利害休戚を念として奮闘努力されてゐる。氏の如き新進の業界人は將來郡部方面の發達と相俟つて其の活躍は無限

なりと云ふべく、且つ業界の組合方面に於ても益々其の盛衰を期待するや切なるものがある。而も今日業界は一般に萎微沈滞の状態にあるの秋、此の方面に一層氏の手腕を囑望せねばならぬ。家庭頗る圓滿家族五名和氣飄々たるものもあるも亦特筆すべきであらう。

銘酒

喜久娘

醬油

一今

水善

親切第一

府下淀橋町八百七十九番地 (水野屋)

今宮善太郎

電話四谷四一〇二番

東京市神田區三崎町三丁目一番地 川口屋

戸澤爲榮商店

電話九段二七四九番

神田區三崎町に酒類仲買業を經營される川口屋戸澤爲榮氏は奮闘努力の人であり、業界稀れに見る練達堪能の士である。大正元年の創業に係り僅々十數年にして今日の大をなすに至つたのは全く同氏の業等人としての優れた手腕を物語るものでなく何んであらうか。

同氏は天下の銘醸たる『櫻正宗』の特約店として活躍する一方、酒類の仲買業者として独自の境地を開拓されつゝある。氏の營業方針は向まで概併存華を排し實買本位を主張とされてゐる。現下の東京酒類業界の一大缺點とも稱すべき營業に對する眞實眞摯なる觀念の浮遊を慨し、氏は紳商人として確固たる計算の基礎に立脚した堅

實な營業を以てモットーとする人である。

従つて氏は創業以來堅實なる發展の一路を辿り今日に至つてゐるが、其の抱負を聞くに極めて遠大であつて、將來時勢の進運に先驅して更に大なる飛躍を行はんとするものゝ如くである。近時一般に仲買業者の勢力の振はざる時に際し、氏の如き手腕と經驗の所有者が奮起勇躍されることに業界に一新生面を打開するものといふべきである。

更に氏は概統的銘醸品の外にも地方酒の未來性に着目して、之れを帝都市場に紹介すべく、十分の自信と手腕を有する人である。氏は將來此の方面に向つても着々進展せんとするものゝ如くである。

東京市芝區烏森一番地 升徳酒店

久保田義則

電話三座二七三〇番

芝區烏森に堂々たる店舗を構へ盛大に酒類仲買業を經營されつゝある久保田義則氏は大正三年の創業に係り十餘年の短日月に逐年加速度の發展を遂げ今日に至つたものである。

同氏は尋常商人に見るべからざる器局の大を有し、よく人を容れる人である。従つて氏の營業ぶりは氏の人格を如實に表現するものであつて、今日芝區内の仲買業中屈指の地位を占めらるゝに至つたのも故なきを思はしめるのである。

氏の店舗は帝都のショッピングタウン銀街に近く、且つ自ら花街の中心に位ひしてゐるので、氏の今日あるは其の人と地と時との共に調和を得た結果である。

とも稱せられる。従つて氏の顧客は其の位置にふさはしき方面に最も堅實なるものがあり、且つ將來の進展性に富む點に於ても稀有と稱すべきである。

氏は『黒松白鷹』の特約店として最も力を注ぎ其他銘醸品にも独自の手腕を以て大量の販賣を行はれたる。氏は享年四十五歳、男子として人物手腕の最も充實した時であるから、將來の發展は更に大なるものあらう。

更に氏は公心で富み町内の有志として幾多の奉仕を行ひ、且つ同業者の組合方面に於ても漸次進出して其の福利増進の爲めに犠牲的努力を致さんとする抱負の所有者である。

東京市牛込區神樂坂通肴町 酒類仲買商 万長酒店

電話牛込六六九

神樂坂の『万長』と云へば四隣に聞えた老舗として有名であつて牛込區内には比較的大業者に乏しいやうであるが、万長酒店の存在は牛込區の爲めに大いに氣を吐くものである。

同店の創業は文久元年で四代を経て今日に至り、現店主馬場英雄氏は而立に満たぬ青年業界人であるが、父祖の氣質を承けて氣象瀟灑且つ少年時代からの實地經驗に富み、十人の店員を督して大いに鉅方面並に小賣方面に活躍されてゐる。

先代馬場英雄之助氏は業界に聞えた人格力量共に卓越した人物であつて昨年まで牛込區酒類商會會長として全區同業者の牛耳を握つて居られたが、家督を令息に譲ると

共に隆會長をも辭し、自らは特に懸望せられて黒松白鷹の發賣元升本總本店の支那人として入店され獨自の手腕を振はれつゝある。

万長酒店の偉大なる今日あるは全く先代馬場英雄之助氏の努力によるものであつて、地盤の堅實と、信用の充實とは稀に見る所である此の立脚點を興へられた當主英雄氏は最も多幸なる人といふべきで更に氏は前述の通り新進氣鋭多分の未來に富む人であるから、氏によつて將來『万長』の名聲は一層擧げられることを信じて疑はない。而も先代英雄之助氏は益々健在にして問屋業者として業界に活躍されてゐるといふ點に於て、一層心強いものがある。

東京市牛込區揚場町六番地 中升號

勝田喜三郎商店

電話牛込一〇一四番

牛込神樂坂下の揚場町に酒類仲買の鉅小賣業を經營される勝田喜三郎氏は、區内同業者中有數の人物であつて人望最も厚く現在東京酒類商會同業組合牛込支部會の副部長並に牛込區酒類商會會長の要職にあつて、犠牲的に同業者の共存共榮に努力されてゐる。

氏は營業者に珍らしい人格の人であつて、公共の念に厚く單に業界のみならず區内の有志として努力され町會幹事としても奉仕的に盡瘁されつゝあり、其の高幹は噴噴たるものがある。享年四十七歳であつて、今や最も人物が圓熟し忠實分別の充實した時であるから近き將來に於ける同氏の業績は一

層見るべきものあるべく、牛込區の同業者を代表して東京の業界に或ひは組合に一層大なる足跡を印せられるであらうと思ふ。

而して氏は公的方面に盡瘁すると同時に營業方面に於ても着々手腕を發揮し支店數軒を有して鉅方面に小賣方面に、堅實なる地盤を扶植されつゝある。氏の營業は凡て氏の眞摯なる人格によつて裏付けられてゐるので、取引先との信用の深い點に於て特色がある。明治二年の創業で現在氏は二代目であるが、氏の今日あるは勿論氏の獨力奮闘による結果でなければならぬ。

東京府下巢鴨町一ノ八六

安武清藏商店

電話大塚一三六八番

◇：府下巢鴨町に酒類醬油問屋を經營される安武清藏氏は享年四十七歳、終にして業界に入り半込區揚場町の酒類問屋升本商店に於て二十二年の成きに成り斯業の破綻に努力を積み、過ぐる大正十三年現在の地に獨立經營せられるに至つたものである。

◇：氏は多年の業界生活に於て、將來大東京の發達と共に、地方酒の天下たるべきことを洞察し、特に現在の地を相すると共に取扱品も、之れを地方酒に求め、傳統的銘柄によつて毒せられつゝある業界を警醒せんとする意氣を以て斯業に従事されてゐる。

◇：此れは木下野澤造株式會社

の吟醸に係る「一徳」を主として外に品質優秀にして而も市場に現はれざる地方酒の紹介と普及には最も努力を致されつゝある所々、氏によつて市場に露價を高めつゝあるは「一徳」の外に相當之れを數へることが出来るのである。

◇：故に氏は創業以來日尙淺きに拘はらず、東京斯界に於て着々堅實なる地盤を扶植され、店運日を送つて隆昌の域に向ひつゝある。氏の如きは年餘漸く不惑に達したのみであつて、而も過去二十餘年に至る經驗の所有者であるから、之れが其の活躍は將來にありといふべきで、前途多幸に恵まれた新進業界人の一人であらう。

東京府下下落合五〇七

つる屋本店

宇田川龜之丞

電話下込四二五一番

明治十九年以來府下下落合に酒類醬油問屋を經營されるつる屋本店主宇田川龜之丞氏は、郡部同業者中に於て人格手腕力量共に傑出せる人として定評がある。

氏が現在の地に創業せられたる頃は郡部の發展運々たるものであつたが、年を送つて人口の増加を招來したので、時勢に明敏なる氏はよく此の間に策應して小賣方面への活躍と同時に、卸方面にも巨腕を振ひ遂に今日の大成をなすに至つたものである。

氏は自ら刻苦勵精今日に至つた人だけあつて店員の將來を慮ること深く、既に四店員の爲めに四軒の支店を設けせしめ、つる屋本店

店之れを總括して、益々斯界に雄飛しつゝあるのであつて、概税額一千五百圓を超へ、比較的小業者の多い郡部の方面に於ては重きをなし、附近同業者の牛耳を握ることを餘儀なくされてゐる。

氏は本年五十有一才漸く知命に達して人格手腕共に圓熟の境に入り、其の將來は未だ十分に期待すべきものがあるが、現に業界の組合方面では豊多摩郡同業者中の有力者として推され、東京酒類商同業組合代議員として歴任し、現に其の任にあり、組合の發展と同業者の福利増進に努力されつゝあるのである。

半天前掛印刷染と

廣告旗

進呈 格ロタカ 上參問濱京

下記銘醸品の本品常用が最も雄辯に其の全價值を裏書すること信じます。

本現日天名金大玉マ金日大
器本 譽龍黒リン正コ 本
盃湖人拜冠山酒宗鳳シ 龜盛關

徳京富東和華エ世千金キ月孝
翁人強慢盛香酒一福宗宗冠泉
美 自氣 癖の 正 正 宗 宗

壽岩淺千朝鹿國日忠東櫻大
間代 本 正
泉響嶽泉日冠冠武勇關宗鏡

宣傳用品

五平嵐商店

區橋本日市京東
前校學小崎箱
番三九四一町場茅話電
場工
四七ノ一町島龜區橋本日
二九町原石區所本
村 戶 奥 下 府 泉響嶽泉日冠冠武勇關宗鏡

榮養飲料『レキス』と
株式會社山屋の業績

◇我國の事業界の痛弊は、獨創よりも模倣に長じてゐるといふ點であつて、茲に偶々獨創的質値ある製品が出現すると、直ちに之れに追従して模倣者が續出することである。従つて獨創的價値ある商品の進歩發展に就ては多大の困難と障害の伴ふことを知らねばならぬ。

◇今日業界に於て乳酸菌飲料の製出は雨後の筍の如く、炭酸飲料時代は過ぎ去つて乳酸菌飲料時代來るとさへ叫ばしめてゐるが、『レキス』はかりした群小乳酸菌飲料に先驅して殆んど獨創的價値を有するものである。然るに我國の事業界の痛弊たる模倣品の出現によつて幾多の障害と困難を受けたことは我々の記憶に新なる所である。

◇而も『レキス』は不屈不撓益々其の独自の價値を發揮し、乳酸菌

飲料界の先驅者として盛名を轟かせるに至つた。之れが背後には實に涙ぐましき努力の存することを知らざるべきであつて、殊に發賣元として最大の責任を負擔した洋酒問屋山屋の奮闘は最も偉大なるものがあつたと云はなければならぬ。

◇帝都の洋酒界は實に牢固たる傳統に支配されてゐるので新しき製品の宣傳普及は此の傳統の理解に俟つべきものとされてゐるが、山屋は實際洋酒界の重鎮として斷然たる信用と地盤に立脚してゐるので、『レキス』の發賣に對してもよく此の局面に策應して斡處し遂に一切の障害を打開して、益々『レキス』の價値を發揚し得たのは全く山屋の實力の然らしめたものであつて、實に帝都洋酒界の天下を數分し其の一を確保する洋酒問屋であるとの評が高い。

榮養飲料 LEX スキレ



東京市保健局衛生課長 醫學博士 下條久馬一先生推薦
東京帝國大學名譽教授 醫學博士 稻垣乙丙先生創製

農學士 瀧口文二氏製造擔當
本社 東京・淺草雷門前

發賣元 株式會社 山屋

出張所 小石川區 駕籠町
電話(自三五三四番 淺草一至三五三七番 電話 大塚二三三六番

東京酒類商同業組合組長
津谷一治郎氏の人物

◇現東京酒類商同業組合組長として、七千有餘の組合大衆を背負つて活躍し、殆んど寧日なき津谷一治郎氏の人物は、既に餘りに業界周知の事であらうと思ふ。氏は單なる業界人としてよりも、寧ろ社會公共の人として令名噴々たる人であつて、現に深川區政の重鎮として深川區會議員、方面委員等の重責に在り、兼ねて東京府會議員として府政の中心に立ち、市部會議長の榮職に在ることは人の知る所である。

◇氏は資性穩健實、誠身之れ誠意の人であつて、公共の念頗る熾烈、一身一家を忘れて大衆の爲めに殉ずるを意としない人である。由來深川區は大江戸の昔から、辰巳情調を以て聞え人情と仁侠の巷として喧嘩せられたが、同區から氏の如き至誠の人物を輩出したといふことは偶然に非すと云はなければならぬ。故に氏の徳風は冷く



一般の人心を潤はし、塵然として其の傘下に集まるの概があるのである。

◇氏は明治二十七年業界に入り現在の地に創業酒類仲買商を經營して今日に至つたが、前述の如く氏の公人としての盛名の餘りに高きが爲めに業界人としての手腕を覆ふかの觀があつたけれども、斯界に於ても氏の營業的才幹は牢固たる地盤を扶植し、区内有数の仲買業者として今日に至つた。更に其の卓拔なる識見は区内同業者中の先覺として、曩に東京酒類同業組合深川部會の評議員として選出され、評議員會議長の要職にあ

ること多年、曩に宮崎前部長の後任として部長に推され一昨年改選重任せらるゝや遂に組合組長の重責に推さるゝに至つたのである。

◇氏は該組合組長に就任以來、其の進歩發展に努力し、事務事業の改善實行の結果該組合は舊來と殆んど面目を一新するに至つたのであつて、今や組合大衆を擧げて役員として名高く、益々其の活躍を期待してゐる。氏は公人として遠大の抱負を有し、過般の總選舉には、代議士候補として奮戦せられたることは人の知る所であるが、我々は社會的に氏の如き高潔の人物を將來の議政壇上に送るは與へられたる責任であると信ずるのである。而して一面我々は一層業界の爲めに氏の健康と飛躍を祈つて止まぬものである。

酒類 醬油
仲買商

東京市深川區 蕨井町一番地
大野屋本店
津谷一治郎
電話本所五四四四番

三百五十餘年の歴史を有し 品質本位の「上星」印醬油

醬油の如き製品は、これを觀察するに需要者側と販賣業者側の二つによつて、幾分見解の異なるものがあらう。即ち販賣業者は徒にマークに拘泥することなく品質本位の優良品を鑑別して、之れを經濟的に供給するを第一義とすべきであらう。然るに需要者は直接品質を比較検討する機會乏しき爲めにマークに信頼するは止むを得ぬ所であつて、販賣業者は之れが蒙る啓く爲めに十分の努力を致すべきである

品一本日



店商衛兵喜中田 町川市縣葉千

稱すべく、徳川時代には千代田柳營にまで盛名を誦はれたものである。當時千石以上の醸造家は野田銚子市川の外に一二軒に過ぎず「上星」は其の覇王にして江戸市民の歡迎を受け、明治時代に入つて漸次増石すると共に、近代科學を應用して品質の向上増進を期し近年に至つて醸

醬油業界にはマークの偉大なるもの、外に、傳統と品質に於て毫も之れに遜色なきものを相當に數へ得る。かうした醬油業者の製品を探究して、之れを市場並に需要者に紹介するは販賣業者の急務でなければならぬ。千葉縣市川町の田中喜兵衛氏醸造に係る「上星」印の如きは敢て隠れたる逸品とはい

「上星」印醬油は實に天正二年の創業で、三百五十餘年の古き歴史を有し、關東醬油の鼻祖とも

造石数は、二萬數千石を計上してゐるが逐年需要増加の爲めに増石を餘儀なくされる盛況にある。

更に最後に特筆大書すべきは「上星」印醸造場が帝都に近接する千葉縣市川町にあつて、將來大都市計畫の實現と共に益々東京に接近し、地理上其他最も帝都を需要地とする該醬油に有利なことである。今や醸造場は江戸川沿岸の勝地に六千餘坪を相し大規模に經營されてゐるが、將來右に鑑みて一層大量生産を實現すべく醸造に販賣に躍進を期せられつゝあるのである。

東京市下谷區上野櫻木町廿三 銘酒「矢留美人」關東一手發賣元 鈴木康之亮商店

秋田縣の代表的銘酒として噴々の評ある「矢留美人」の關東一手發賣元として、近來頗に東京市場に擡頭せられつゝある鈴木康之亮氏は、當年三十六歳の青年業界



人である。多年醸造機械業者として關東東北方面の醸造業者と接觸し具に醸造上の識見を蓄積しつゝあつたが震災後業界の前途に着目して局面を轉回し酒類販賣業者として獨立創業せられた人である。氏は振木職の出身にして關東人の豪邁なる性格の裡に周密なる

電話下谷七三五七番

思慮を藏し、業界人として稀に見る異色ある風格の持主である「矢留美人」醸造元秋田縣五城目町の渡邊徳太郎氏とは其の人格に於て深く共鳴し今や斷金の親友として共力して關東市場に「矢留美人」を普及せられつゝあるのである。従つて「矢留美人」の販賣政策は自ら他と違を異にし、獨目の境地を開拓して逐日騰價を高めつゝある所以である。

氏は業界に對して遠大の抱負を有し、特に地方酒の販賣に就ては其の識見の深遠にして實行の勇敢なる新時代の業界人にふさはしく、而も氏は信用を第一義として浮華輕佻に流れず着々前途に邁進せられつゝあれば其の將來は益々驚異すべきものがあらう。

東京市淺草區新福富町 銘酒葉の壽發賣元 池田屋本店 稻垣市兵衛

淺草區内有數の老舗池田屋本店は、二十餘年前創業せられ連綿として今日に至り、更に異常なる發展を遂げつゝあるは、恐らく帝都業界に於ても屈指とすべき歴史の意義を有するものであらうと信ずる。

電話淺草二一九四〇番 三三八二番

同店に於ては銘酒「葉の壽」を手印として外に銘酒「金盃菊正宗」味淋「九重櫻」の特約店として、各方面に飛躍せられ、二百餘年に亘る傳的地盤の上に新境地を開拓し、池田屋本店の盛名を愈々發揚しつゝある。

當主稻垣市兵衛氏は老舗の當主にふさはしき人格の圓滿篤實穩重に見る所にして、識見亦高邁區内の有力者として仄聞する所によれば公共事業に積極的奉仕をなし且つ教育事業にも熱心する所多なるものありしといふ。町内に於ては曩に町會議員として命名あり現方委員區劃整理委員として其の職に忠なる全町民の等しく敬仰する所である。

享年五十有七歳未だ意氣旺にして、公共的方面に對する抱負の遠大なるものと共に業界に對しても遠大なる機略の存するものがあるが如く、現在池田屋本店の隣然たる地盤に立脚して、更に一段の飛躍を行はるゝに於ては、恐らく斯界は注目するものがあらう、切に其の健在を祈るものである。

酒類醬油問屋

磯川喜二郎氏の人物

現在日本橋區濱町三丁目一番地に堂々たる酒類醬油問屋を經營し、本所區林町に出張所を設けて、飛躍されてゐる、磯川喜三郎氏は、如何なる人物であらうか、暫く之れを探究すること、しやう

酒清等優最

若宮酒造株式會社釀



ウヨリイエ

酒類醬油問屋

東京市日本橋區濱町三丁目一番地

磯川喜二郎商店

電話浪花三八八八番

東京市小石川區音羽町九ノ一七

銘酒「富民」二ツ矢本店

店主 三ツ矢民次郎

電話小石川一九六二番

小石川區音羽町に酒類醬油問屋を經營される三ツ矢本店は、安政元年の創業に係る區内有数の老舗として、地盤の堅實、商圏の大きさを以て開いてゐる、現在支店十九軒を有し之れを本店に於て統轄し卸小賣方面に飛躍されつゝある。

東京市小石川區水道町

酒類醬油二又本店

店主 中瀬藤助

電話小石川二六三三番

小石川區水道町の「二又」と云へば四方に開えた區内最古の老舗であつて、實に元祿元年の創業に係り、二百數十年を閲し、當主中瀬藤助氏を以て將に十一代目とする。如何に同店が連綿たる歴史を有し榮固なる地盤に立脚して今日の隆昌を持続しつゝあるか、分るのである。

東京市小石川區丸山町十一番地
加賀屋 新山政右衛門商店

電話大塚二五五二番

◇小石川區内同業者中の魁魁として、最近斯界の刮目する所となつてゐる同區丸山町新山政右衛門氏は其の經營せらるゝ酒類賣場仲買小賣業の堅實なるのみならず、業界は勿論社會的公共的方面に於て、氏の誠意ある人格を認識せられ、多數の景仰者を輩出しつゝある。

◇氏は資性俊敏誠實の人であつて、少年時代より郷黨の未來を瞻望する所であつたが、明治三十七八年戰役に出征して偉勳を建て、凱旋勲七等功七級を賜はる。其の翌年明治三十九年現在の地に創業して業界に入り實實眞實なる營業方針によつて信用を高め、着々強固なる地盤を扶植して今日に至る。

◇氏は明治十五年の出生にして今や人格識見手腕共に圓熟の境に達し、其の將來は更に期待すべきものが多くであらう、即ち自愛加餐を切望するものである。

一方業礎の安定と共に公共的方面に進み、區内同業者の福利増進に努め、町内住民の爲めにも幾多の貢献を致されたのである。

◇現に東京酒類商同業組合第十部部長として名をあり、區内に於ては小石川區酒類商第十部會を創立して部會長に任じ、該會の中心人物として、爾來の弊害を矯正し新時代に適合せる施設を樹立實行せられつゝある。更に所得調査委員補員として同業者の共同申告に盡力する等其の犧牲的活躍は枚擧に遑なき有様である。

◇氏は明治十五年の出生にして今や人格識見手腕共に圓熟の境に達し、其の將來は更に期待すべきものが多くであらう、即ち自愛加餐を切望するものである。

東京市日本橋區箱崎町二ノ一
酒類業 一宮要也商店

京橋區南新川(倉庫)
電話茅場町一六五〇番

日本橋區箱崎町の酒類仲買商二宮要也商店は、新進業者として斯界に定評があり、其の活躍を期待せられつゝある。當主二宮要也氏は當年三十六歳の新人であつて少年時代より業界に入り

優等清酒

毒之黨

て刻苦精勵大正六年現在の地に獨立創業せられたる人である。

◇同店は銘酒「愛黨」の一手發賣元として業界に異常なる飛躍を遂げつゝあるが、同店は高級銘酒「廣福」「金盃」「正宗」等は努力する

一方地方酒の普及宣傳に意を注ぎ「愛黨」其他「日本晴」「稚兒櫻」等も、同店の活躍によつて多大の氣を吐くに至つたものである。

同店は帝都の酒類集散市場たる南北新川に近く、従つて其の營業方針は積極的であつて、尋常同業者の企及すべからざるものがある。當主二宮要也氏は業界の趨勢に鑑みて、將來一段の機略を振ひ活躍する所あるべく多大の刮目を以て迎へられてゐる。

◇最後に銘酒「愛黨」は品質本位の優良酒であつて、道に責任を以て發賣される逸品との評が高い。

東京市小石川區八千代町
酒類 三河屋本店
仲買商 藤原音吉

電話小石川十三四番

小石川區八千代町の三河屋本店は區内屈指の紳商として著名である現在支店十八軒を有し、本店之れを聲して仲買方面に小賣方面に「三河屋」の

信用を 扶植せられつゝある

同店は明治二十七年先代藤原音吉氏の創業に係り、よく奮勵努力して今日の業礎を致され、人格識見、德望共に現はれ、區内同業者の牛耳を執る一方、舊仲買商組合の役員となり、現東京酒類商同業組合組織せらるゝや、第一期小石川部會の部長として推され、組合の樞機に任じて令名噴々たるものがあつた。當主藤原音吉氏は先代の氣魄と

精神を 受けて人格圓熟識見深遠加ふるに營業の手腕に長じ先代の業礎を繼承して遺憾なき人物である。當年四十二才益々圓熟の境に達し、現在東京酒類商同業組合評議員として月つ第十部會部會長として區内同業者の爲めに努力せらるゝこと甚大なるものがある。由來同店は先代の時より區内に於て第一流の仲買業者として一流銘酒の普及

宣傳に 努力せられつゝあり現に「皇然白鷹」「日本盛」「東自慢」等の特約店として花柳界其他各方面に「三河屋本店」の巨腕を延長せられつゝあるものである。

東京市神田區豐島町九
酒類 新川屋總本店
仲買商 笹川清光

電話浪花一六三三番

神田區豐島町に本店を置き、支店十五軒を聲して東京酒類業界に独自の飛躍を遂げつゝある笹川清光氏は、稀に見る營業手腕の練達なる人である。同氏は夙に

業界に 入りて具に營業の機微に徹し、十二分の自信を得るや明治四十年現在の地に獨立自營一代にして今日の大をなせる人であつて、以て如何に氏が斯業に堪能であるかを證することが出来る

氏は一流銘酒の普及宣傳にも十分の手腕を有する人であるが、特に地方酒の東京市場紹介に於て深き識見を 有する人であつて現在「フジ光正宗」「征鷹」「金雀」「大和橋」等の銘酒によつて、斯

界に雄飛し、實質本位の優良酒を經濟的に普及せらるゝを以て著名である。氏は近來業礎全く充實するや、公共的方面にも之れが奉仕を行ふべく、各方面に對して盡瘁努力せらるゝこと少からず、現在東京酒類商同業組合第二部部長として神田區内の同業者の牛耳を執ると共に、本組合の樞機に 變じて畫策せられつゝある。氏は多年の業界生活によりて特に酒類の識見に長じた人であるから、時々選ばれて品評會の審査員として亦令名がある町内に於ても人望厚く町會部會長の要職にあり、前途甚だ多望の人にして其の活躍は最も刮目すべきものがあらう。

東京市小石川區大塚窪町二四

都盛 發賣元 盛屋本店

岡部源吉

電話小石川二〇七九番

銘酒「都盛」「盛屋」の發賣元として小石川區内の有力業者として最も積極的に活躍せられつゝある盛屋本店主岡部源吉氏は、府下

店主 岡部源吉氏



北豊島郡の出身にして、幼時より製界に入り斯業に對する深き知識と生來の機略を以て明治四十年獨立創業以來著々堅實なる發展をなし今日に至つた。

氏は當年四十一歳の働き盛りで

あつて、酒類卸小賣方面に於ては區内有数の権能総なる人として聞えてゐる「都盛」「盛屋」兩印は岡氏の專賣として品質優秀の實質的銘酒であつて、斯界に好評噴々たるものがある。

氏は故に地方酒に對しては獨自の見解と手腕を有する人であつて氏によつて東京市場に宣傳普及するに至つた無銘酒も相當に存在するといふことである。氏は幼時より兼苦勵精今日を成した人だけあつて、信用を第一義として苟くも浮薄なる營業態度を排し、誠實を以て一貫してゐる。前年春秋に富む氏の飛躍は更に今後に期待すべきものが多いであらう。

東京市淺草區聖天横町

味噌醬油 酒類販賣 淺田徳次郎 商店

電話淺草五四三番

淺草區聖天横町に當るの營業陣を張る淺田徳次郎商店は、其の積極的方針によつて斯界に異常なるセンセーションを興へつゝある。店主淺田徳次郎氏は府下中野町の「マルアサ」味噌醸造元淺田鐵



仙臺味噌 甘味噌

の輔氏の令弟であつて、令兄の醸造に依る味噌の販賣方面を分擔して大正七年現在の地に賣場を設けられたる人である、現在醬油酒類方面にも飛躍し、漸利多賣をモットーとして斯界に多大の脅威を

興へつゝあるのである。氏は味噌の醸造販賣に就ては斯界稀れに見るべき熱心の人であつて、二十四歳迄令兄の味噌醸造業を助けて専心斯業の蘊奥を極め、自ら苦心研究の結果最も科學的な味噌醸造機械を發明製作し、之れを實地に活用せられつゝありといふ。更に販賣方面に飛躍以來遂年「マルアサ」印の標價を高めつつあるは前述の通りである。氏は極めて意志的人物であり事に當るや終始一貫障礙をものともせず、現に幾多の追害と戦ひつゝ顧客本位の營業方針を以て味噌のみならず、醬油清酒の仲買方面に活躍せられつゝあるは偉とすべきである。

文化清涼飲料「パーム」

パーム飲料合資會社並に山屋

◆：帝都の清涼飲料界は従來某々會社製品の壟斷であつたが、震災前後を一轉機として、其の地盤に著しき變動を招來した。即ち傳統的に盛名ある製品が單にマーク宣傳に没頭するのみで、時代の好尚を顧みず、製品の品質體裁等に對して改良を加へることなく、十年一日の舊態を辿り來つた爲めに、遂に人心を倦かした結果であつて、そこに新時代の趣味嗜好に先驅する新製品の勃興によつて地盤を覆食せられるに至つたからである。

◆：文化清涼飲料「パーム」はさうした新興製品中に於て最大の實力を有し、併せて最大の人気を集申し、僅々數ヶ年にして東都第一流の花形飲料として牢固たる地盤を扶植するに至つたものである。之れが製造元はパーム飲料合資會社であつて、代表社員淺田初太郎

氏は斯界の先驅者として多年品質の改良向上其他に留意し、特に清涼飲料の使命に鑑みて、近代人の趣味嗜好に着眼し、之れを「パーム」の上に具現すべく苦心の結果遂に理想的製品を得たのであつたが、氏は更に宣傳販賣上に就て考慮の結果遂に洋酒界の重鎮山屋と結んで華々して帝都飲料界にデビューせられたのであつた。

◆：「パーム」の今日あるは實に其の製造に販賣に其の人を得た結果であつて、帝都の社交界花柳界方面に於ける「パーム」の人気は断然として頭角を現はしてゐる。山屋の販賣政策も極めて時代に適合し、生産問屋小賣の三者協調して共益の意義を實現し、益々「パーム」の宣傳普及に戮力協力しつゝあるは敬服に堪えぬ所である。



文化清涼飲料 パーム

新時代の好尚に先驅する

帝都飲料界の花形と

御高評を賜はつてゐます

製造元 パーム飲料合資會社

東京市淺草區山川町 電話淺草四一〇五番

發賣元 株式會社 山屋

本店 東京淺草雷門前 電話淺草 自三五三五番 至三五三七番

東京市牛込區揚場町飯田橋際 空樽問屋星野商店

星野 四郎

電話牛込(二八七二)本店用
電話四〇八二(自宅用)

牛込飯田橋際に堂々たる店舗を有し近來メキ／＼と發展して帝都の空樽界を席捲せんとする概ある星野商店は如何なる歴史と陣容に立脚するものであらうか今や帝都の空樽界は混沌として群雄割據の觀があつて、數年前迄飯田橋治橋に於て空樽王の名を恣にした星野友七氏が、功成り名遂げて隱退せられて以來、之れに繼ぐ者を見出さない状態にある、牛込揚場の星野商店は實に第一世空樽王星野友七氏の愛婿星野四郎氏の經營するものであつて、未だ岳父の盛名に及ばずとは云ひ乍ら、大正元年創業以來着々發展して、今や將に第二世空樽王の榮冠を得んとする盛況にある。

星野四郎氏は茨城縣の釀造家に生



れ、二十歳にして星野友七氏の愛婿となり、岳父の空樽業を補翼し來つたが、大正三年岳父は之れを

業し野田方面の釀造家の肩入れと多年氏が東京市に扶植し來つた信用と相俟つて加速度の發展を招來したのである、氏は資性豪傑仁俠の人物であつて、震災に直撃するや當局に數萬の空樽を犠牲的に供給して人氣を博し、陸軍省は氏に酬ゆるに感戴なる感謝状を以て

野四郎氏は別に現在の地に獨立創業して開地に就かれたので、星野四郎氏は別に現在の地に獨立創業したといふことである。

氏の事業は震災を一轉機として更に加速度の發展を實現するに至つた。之れ全く氏の營業方針が積極的であつて、而も尋常商人に見るべからざる独自の風格に立脚する取引を行はるゝ爲めであつて、同店の隆盛は一に當主星野四郎氏の人格に起因するものと云はねばならぬ。氏や岳父に曩の空樽王星野友七氏を有し、自らも亦恵まれた人格と才能の所有者であるから、近き將來に混沌たる帝都空樽界を一統し、第二世空樽王の名を成すは必定であらうと云はれてゐる。

最後に附言すべきは東京の空樽界は現在二大分野に分れつゝあることとで、即ち組合側と非組合側との間屋の對立であるが、星野商店は岳父星野友七翁の傳統を體して非組合側の頭目と目され、尙まで營業方針が積極的であつて、組合側とは自ら其の態度を異にするものあることである。而も同店の方針は時勢に適し前述の如く發展せられつゝあるのである。

東京市神田區大和町一

伊勢權

榊原權四郎商店

電話浪花一四八六番

神田の「伊勢權」の名によりて仲買小賣方面共に著名なり、明治三十一年年代の創業に係り地盤堅實信用厚し、當主は三十五歳の新人町會幹事として公共に盡し、業界では同業組合代議員第三班長として、令名ありて前途を刮目せられつゝあり。

東京市神田區佐久間町二ノ一八

酒類卸小賣商

森本芳之助商店

電話下谷二三四四番

外神田有數の業者にして安政元年の創業當主にて三代目、人格識見共に卓越し、支店數ヶ所を有して活躍す、自らは兼ねて三等郵便局長たり業界人としては同業組合代議員として推され、区内同業者の共存共榮につき努力せらる。

東京市神田區豊島町二六

酒類卸小賣商

八榮本店

八木彌一郎

電話浪花六五一四番

銘酒「天泉」其他一流品の特約店として卸小賣兩面に活躍され大正三年創業以來十數年にして今日の繁榮を見る。當主は實行の人公同心にも富み組合代議員として同業者の爲めに奮闘努力せられつゝあり。

東京市神田區岩本町三七

酒類卸小賣商

銚子屋本店

菅澤爲吉

電話浪花四八二〇番

同店は明治三十四年の創業にして當主は獨立獨行今日の地位を礎きたる人、享年五十六歳、堅實を以て開け、日露戦後の功により勳七等功七級を賜はる。町會理事、在郷軍人幹事等に歴任し同業者の爲めにも亦組合幹事として令名あり。

東京市浅草區聖天横町七
酒類仲買商

岐阜屋本店

野々村延太郎
電話浅草七八四番

安政四年の創業當主を以て三代目町内屈指の老舗なり、仲買商として「月桂冠」其他に力を注ぎ支店分店を督して活躍當主は町内に人望あり町會長に推される。

東京市浅草區千束町二ノ一三六
小川屋

小島惣次郎商店

電話浅草三二六〇番

營業方針堅實にして、當主を以て三代目とす。酒類仲買商として盛業當主は公共の念に富み現に東京酒類商同業組合代議員として同業者の爲めに盡瘁し、人望ありて前途多望科目すべし。

東京府下世田ヶ谷町太子堂三五五
橋和屋

和田力藏商店

電話世田ヶ谷二二一番

明治二十五年の創業にして同地方の發展と共に繁榮今日に至る當主は三十三才の新人手腕練達六人の店員を督して仲買小賣方面に活躍し噴々の令名あり。

東京府下淀橋町角筈七三四
酒類仲買商

栃木富藏商店

電話四谷三三三二番

明治元年の創業に係り當主は三十年斯業に従事し、練達の聞え高く、堅實第一の評あり、支店二軒共に盛業、町會に盡瘁すると深く人望厚し。

業界に重きをなせる

伊藤木次郎氏の業績

東京府下淀橋町の酒類仲買商老舗伊藤木次郎氏は、府下に於ける殆んど唯一とも稱すべき老舗であつて、新川の東京酒類問屋牧原商店の分家として寛永年間創業に係り爾來三百餘年の歴史を有し、地盤と信用の厚大充實せるは定評のある所である。



老舗の當主にふさはしき人格の高潔、氣宇の活潑を以て稱せられる人で、公共の念厚く仲買商組合時代の役員を歴任し、之れが東京酒類商同業組合の組織となるや、第十七部豊多摩郡部會の組合員より推されて部長の重責に就き、創立當時の同業組合の權限に參して多大の努力を致されたることは、多數組合員の等しく之れを認むる所である。

閑地に就かれたるの感あるも、氏は今や齢五十八才まだ老ひたりといふにあらねば、組合に於ても改選期毎に氏の出馬を懇請し、昨々改選期の如きは同氏を再び部長に推選して副組長の要職に擬せんとする一派さへあつたが、氏は固辭して出でず今日に至つてある。

今や氏は營業に没頭し二十餘名の店員を督して職目も之れ足らざる有様であるが、東京酒類業界は時勢の進運と共に益々多事多難なるものがあるから、氏の如き業界に重きをなす人も卓越せる手腕の所有者によつて、局面的展開を期待する者多く、一而郡部方面の同業者も氏の物靜には多大の注目を以て迎へつゝあることを附記し置く。(寫眞は伊藤木次郎氏)

各麥酒會社
代理店

酒類問屋
醬油問屋

寛永年間創業

東京府下淀橋町
牧原商店
伊藤木次郎

電話一八六一番
四谷一八六二番

東京府下板橋驛前
酒類問屋

森田善太郎商店

電話大塚五二七番

東京市外板橋驛前に酒類問屋を
經營され、郡部方面の小賣業者を
對象として近來刮目すべき發展を
招來せられつゝある森田善太郎氏
は如何なる人物であらうか。

優等清酒 加茂泉

森田氏は當年三十七才の新進氣
鋭にして、幼少より釀造界に入り
埼玉縣入間川の久屋酒造會社に於
て醸造に従事せられた。此の間
於ける蘊蓄の充つるや大正十二年
販賣界に飛躍すべく上京現在の地

の地勢上最も有利なるに着眼し、
酒類問屋を經營せられたが、其の
親切木位信用第一主義の政策は多
大の歡迎を蒙り僅々數ヶ年にして
今日の大をなすに至つた。

現在酒類「加茂泉」の一手發賣
店として飛躍し一方「黒松萬兩」
の特約販賣を行ひ、郡部の酒類問
屋中に於て、其の營業振りの積極
的であると共に、信用堅實なるを
以て押しも押されぬ地位を扶
植しつゝある。之れ同氏の如く釀
造販賣兩面の識見を有する練達の
人にして始めて成し得た業績であ
らう。

東京府下淀橋町柏木
酒類醬油仲買商

加丸屋本店

岩本阿三郎

電話四谷八四六番

府下淀橋町の有力者として岩本
阿三郎氏は著名な人である。現在
公共的方面に於ては淀橋町會議員
として三期應任し、町民の多大な

的奉仕を以て牛耳を執り令名噴々
たるものがある。



同氏は享年四十有五歳今や人格
識見手眼共に最も圓熟練達の秋に
あり、生來の實業よく
人を容れ、衆に呼たる
の器局は稀に見る所で
あつて、同氏を知る人
の悉く推服措かざる
所である。

信用を集め、且つ大都府益社長
として町民の福利増進に努力せら
れてゐる。

同氏の經營せられる
加丸屋本店は實に明治元年の創業
に係り、同氏は之れが二代目の當
主であつて酒類醬油仲買商として
祖父の時代より活躍せられ、同氏
によりて一層擴充せられつゝある

東京府下北品川町七四
酒類仲買商

升屋本店

和泉久太郎

電話高橋 八二番

北品川の老舗として連綿百十餘年を閲し、當主は人格深淵滿
衆望を負ふて、東京酒類商同業組合第一期第二部長として令名
あり、現在は同町同業者の牛耳を執り共存共榮に努力する一方町
會の役員として町民に讃仰せられ、業界人としての人格者たり。

東京市深川區熊井町八
酒類仲買商

竹中本店

瀬川吉次郎

電話本所四一六三番

酒類仲買業者として區内に重きをなす同氏は、明治二十年北陸
に生れ十九才にして東京業界に入り斯道の經驗を積み大正二年獨
立創業今日に至る。公共の念に富み現に區内青年團長として衆望
を受け、業界人としても亦前途を刮目せられつゝあり。

優等清酒



發賣元

東京市京橋區

水谷町三番地

濱屋本店

武智勇助

電話京橋一五五四番

區内有數の仲買業者として五代連綿樂榮銘酒「武神」は其の代表
的な銘酒として嗜々の好評あり、當主は斯業に最も練達、組合方
面に對しても一隻眼を有し、斯界に重きをなせり。

東京府下西巢鴨町三ノ二七
新川屋

公德一發賣元 塚本長藏店

電話大塚一四七二番

酒類醬油仲買商として附近の重鎮たり銘酒「公德一」の發賣
元として卸方面に盛名を博す。當主長藏氏四十一才、人格圓滿手
腕練達、公共心に富み、同町酒類商同業會の會計主任其他の公職に
ありて奉仕的盡瘁を致し人望極めて厚し。

電話銀座	
酒類係専用	4925
代表番號	4930
同	4935
同	4940
同	4945

鐵道省指定取送取扱人

(工)

資本金貳百廿萬圓

東京中央酒類問屋聯盟會株式會社

東京市沙留驛前

送運驛

中央酒類問屋聯盟會理事

荒井佐五兵衛氏の業績

◆營業の基礎が鞏固で、而も積極的な活躍ぶりを以て帝都市場に噴々の名聲ある酒類問屋荒井佐五兵衛商店の實際を知るといふことは要するに店主荒井佐五兵衛氏の人物と業績を知るに如かないのである。氏は實に帝都業界に於ける立志傳中の人物であつて、一代にして帝都一流問屋の班に上り、財力に於て信用に於て、多く比肩する者なきに至つたのである。

◆氏が今日の大をなされた處には聞くも麗しい奮闘努力の跡が秘められてゐるので、青年業界人を奮起せしむるに足る美談佳話が多いといふことである。氏は營業に對して異常の熱と力を有する人であつて、多數店員を督して自ら營業の第一線に立つて奮闘せられたつのである。

◆而して氏は問屋業者の將來に就ても深き慮りを有し、醸造販賣主義に邁進すべく、之れが先驅として先年より府下玉川の別邸に附設して白酒醸造場を經營し「玉川白酒」の銘を以て發賣されつゝあるが、品質の優秀と巧みな宣傳と相俟つて、今や天下一品の聲價を博するに至つてゐる。

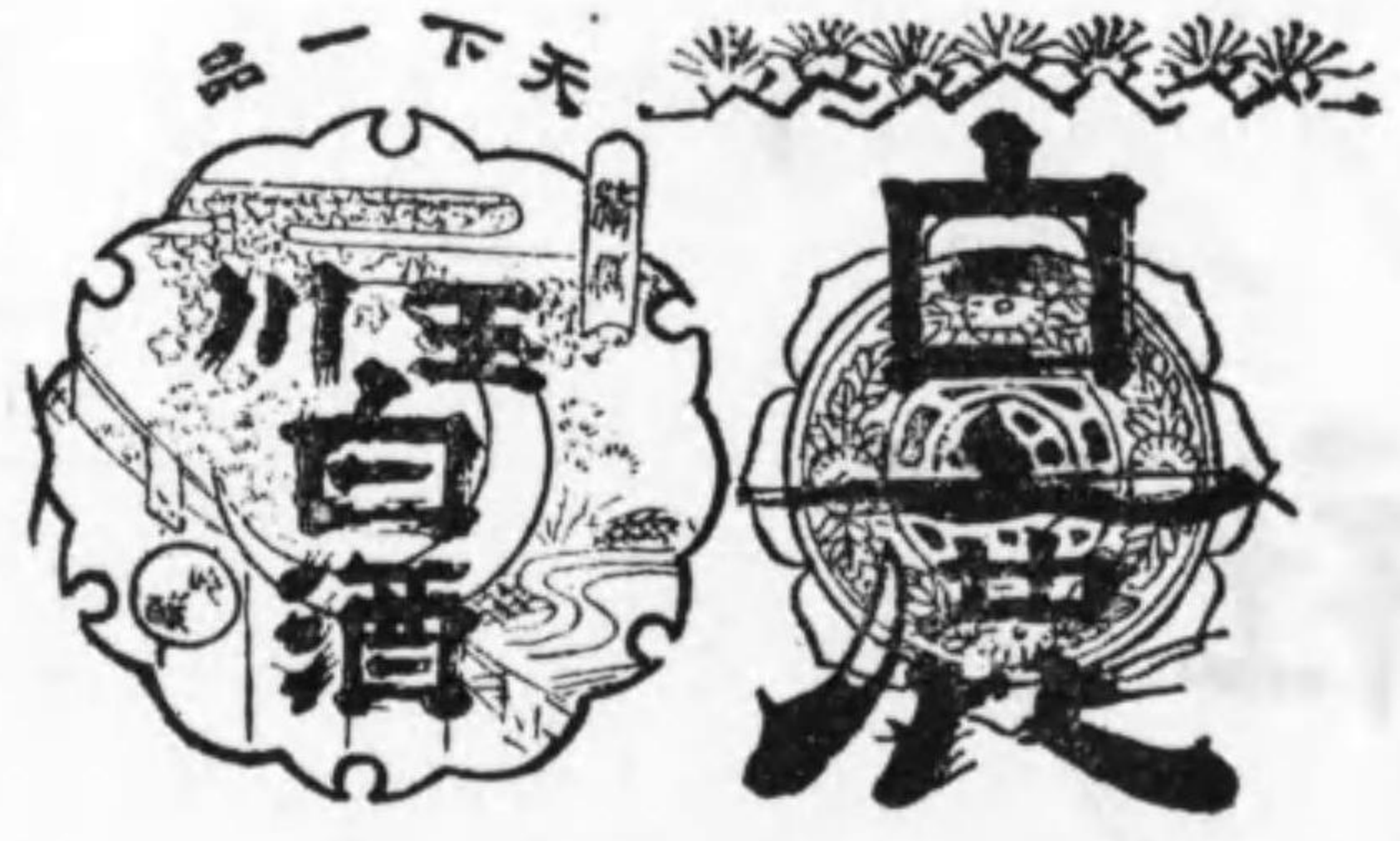
◆清酒方面に於ては「黒松白鹿」の東京一手發賣元として最も堅實な地盤に立ち、其他氏の業界人としての深き識見は地方酒の宣傳普及にも巨腕を揮はれつゝあり氏によつて東京市場に確固たる地盤名譽價を樹するに至つた地方酒は枚舉に遑なく、且つ醬油方面にも巨腕を揮ひ今や帝都一流の問屋として隆降たる概があるのである。

◆而も氏は業界の公的方面にも多大の貢獻を致され、更新會の創立者として該會の牛耳を握り、更に中央酒類問屋聯盟會理事として該會の中心人物となり、氏の動靜は業界の刮目する所となつてゐる。

特飛切銘酒

濃醇無雙

黒松



酒類問屋
荒井佐五兵衛商店

東京市日本橋區箱崎町二丁目
電話茅場町 (三五) 四番
(二八一) 四番
(一九一) 四番

東京市本所區綠町四丁目

酒井屋本店 酒井榮次

電話本所三三六番

本所區屈指の紳商として定評ある酒井屋本店は、銘酒「虎の巻」「金鶏正宗」等の發賣元として逐年店運の隆盛を來し、區内のみなならず東京酒類業界に於て由きをなすに至つてゐる。



同店は明治九年の創業であつて當主酒井榮次氏は二代目に當るが、先代の氣魄を受けて人格手腕共に傑出し、寧ろ同氏によりて今日の盛運を招來したと稱して差支へなく、現在一流銘酒に鑑賞の手腕を揮はれるのみならず、特に地方酒の宣傳紹介にも独自の營業方針を以て躍み、令名

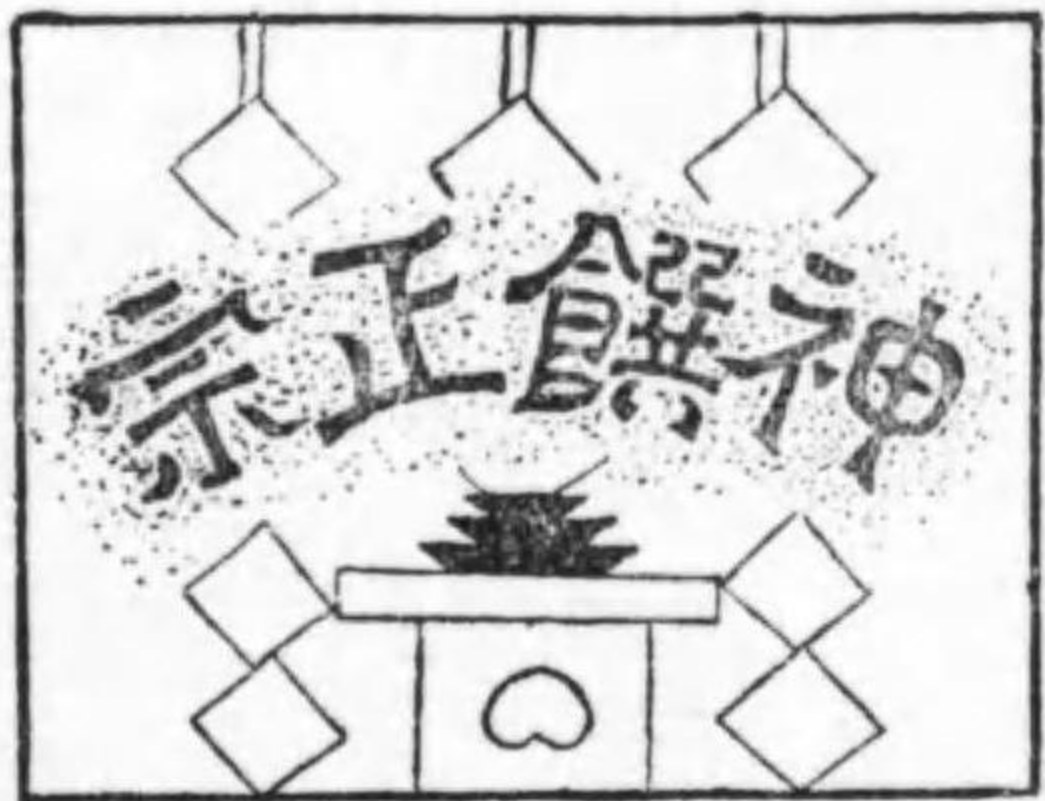
が第一回の名譽ある議長として、三百餘名の代議員中より選ばれて當選就任せられるに至つた、以て氏の聲望の偉大なるを知るべきである氏は享年四十五歳其の活躍は今後一層大なるべく期待せられてゐる。(寫眞は酒井榮次氏)

噴々たるものがある。

同氏は區内同業者中の重鎮として、多年本所區酒類商友會々長として同業者の聯絡和に努力し、

同業組合に於て同業組合を代表し、同業組合より選出するべく定款を改正するや、之れ

酒界の權威 最上醬油



西 灘
岡本部家吟釀

セ 豆 小
清水醬油會社吟釀

東京市芝區濱松町二ノ九

發賣元 村田愛助商店

電話芝一四五四番



「墨松白鷹」 升本總本店

革新的營業方針に就て

東京に於ける酒類の一般的な聲價は、大江戸の昔から以來、天下隨一の芳醇と謳はれて、連綿として盡くすることのない盛名を恣にしてゐるやうである、然し酒類といふ一般的な言葉の中に含まれた個々の銘酒に就ては、其の時代と共に隆替消長は免れぬところで、ずつと古い昔の男山、劍菱の時代はいざ知らず、明治に入つてからも、酒類の個々の聲價は時世の變轉と共に走馬の燈の如く移り變つて來たやうである。

然し茲に天下の酒類の中で、諸々の隆替消長の跡をよそに見て長い間酒類の第一人者として、絶對最高の玉座を「下らぬもの」「墨松白鷹」がある。「墨松白鷹」はこれぞ酒類の酒造家中で吟醸家の本

家本元と稱へられ、酒造の神標とも云はれる辰馬悦藏氏の醸造に係るものである。「墨松白鷹」の特色とする所は今日の酒造界で最高目標とする「旨口濃厚」の典型を示したもので、酒造界で最も困難とされてゐる確固不動の規格を統一して毫も變る所がない。

故に「墨松白鷹」は東京市場に於て最大の聲價を擧げ、同時に市價を保つに至つた。之れは決して醸造家や販賣業者が空虚な宣傳廣告によつて取得したものではなく、「墨松白鷹」の優れた品質が自ら多數の購讀者を集めて「墨松白鷹」でなくてはならないことになつた結果である。今日の酒界は段々時勢の影響を受けて大量生産と宣傳廣

告の時代になつて來て、多く造つて上手に賣ればよいといふ傾向であるが、「墨松白鷹」は決して大量生産と宣傳廣告の酒ではない而も長い間酒界最高の玉座に君臨して毫も變る處がないといふ點は、全く「墨松白鷹」の特色ある品質に依るものであつて、人間に例へて見れば、人格の傑出した偉人のやうなもので、永久に其の價値を失ふことがないものだらう。

「墨松白鷹」は升本總本店の一手發賣であるが、同店は東京酒界に由ある傳統と強固な地盤を扶殖されてゐる升本一旗の共同出資に係るもので、最近醸造元が東京に於ける「墨松白鷹」の販賣革新を行はれるに際して、特に選ばれて、一手發賣元の重責を引き継がれたものである。「墨松白鷹」は前述の通り其の偉大な特色と聲價によつて獨りて賣れて行く酒ではあるが、一面時勢に順應して販賣經營上の革新を斷行することゝ

なつたのは「墨松白鷹」の將來を益々光輝あるものにする所以であらう。

升本總本店はオフィスを丸ビル内に置き、現金主義を標榜して、業界の因習打破に努め、一切の方針を科學的に合理化されてゐる。支配人馬場英之助氏は、業界に於て練達堪能の聞え高い人で、特に升本總本店の創立と共に請はれて主腦に就いた人である。「墨松白鷹」と升本總本店のかうした販賣革新は業界に異常な刺激を與へ之れが動機となつて、業界にも漸次意義ある販賣經營上の改善が行はれんとする状態である。帝都酒界に於て最高の聲價を有する「墨松白鷹」が、更に斯くの如く其の販賣經營上に先驅的な態度を表現されたといふことは、將來益々「墨松白鷹」の聲價を高揚し、永久に其の玉座を光輝あるものたらしむるものであり、同時に發賣元升本總本店の發展と盛名を加へる所以であらう。

東京 麹町區永樂町一ノ一
丸ビル三階三三六

升本總本店

電話丸之内一九六五番

銘酒「爛漫」と

秋田銘釀株式會社



近來東京市場に於て秋田銘釀香東北地方の代表的銘釀として、白熱的な歡迎と需要を得つゝある「爛漫」は秋田縣雄勝郡湯澤町秋田銘釀株式會社の吟醸に係るものであり、東京に於ける發賣元は該會社の直營店として神田區佐久間町に秋田縣東京出張所を設け、積極的な販賣政策を以て堂々の陣を張り、加速度の飛躍と發展を遂げつゝある。

秋田縣は天卜の銘釀地として聞えてゐるが、然し各造家は比較的保守的であつて、縣内の需要に充足して活躍の氣分に乏しい憾みがあつたが、心ある同地の各酒造家

が品質本位のモットーを具體化し來つた爲めであつて、特に市販酒としての立場から、餉まで酒質の改良向上を實現し、之れを冷く寒界並に需要方面に認識せられた結果でなければならぬ。大正十四年以來各種品評會に於て「爛漫」の受領せる左記最高賞は、其の品質を最も雄辯に寫すきするものである。因に社長伊藤基之助氏は前代として秋田縣酒造組合會長の重責にある人である。(寫眞は伊藤社長)

- 大正十四年十一月十八日於第一回東北清酒醬油品評會優等賞受領
- 大正十五年五月十九日於東亞酒醬油新聞社主催第一回全國酒醬油品評會名譽大賞牌受領
- 大正十五年十一月十六日於第十回全國酒醬油品評會優等賞受領
- 昭和二年十月十五日於山形市主催全國産業博覽會名譽賞牌受領
- 昭和二年十一月十八日於東京酒類商同業組合主催品評會優等賞受領



本社

秋田縣勝郡湯澤町

秋田銘釀株式會社

出張所

東京市神田區佐久間町三ノ九

秋田銘釀東京出張所

電話下谷一三〇番

東京市京橋區南新堀一ノ五

丸玉商店 南店

株式會社
東京酒問屋 白鷹發賣元

電話 京橋九八八番

東京酒問屋株式會社丸玉商店南店は、辰馬悅藏氏の吟醸に係る「金松白鷹」の發賣元として、最も古き傳統と、鞏固たる地盤と、博大なる信用に立脚する大問屋である。

同店は株式會社丸玉商店の分身と目すべく、江戸時代から酒を取扱ひ東京酒問屋組合に屬し丸玉商店本店の東京酒問屋組合に屬すると相俟つて、帝都酒界に最も力をなしたつたのであつたのである。最近時代の趨勢に鑑みて組織を刷新し、一層陣容を充實して業界に際むに至り名譽更に高きを加へつゝあるのである。

「金松白鷹」は酒界第一位の定評ある高級銘酒であつて、丸玉

東京市日本橋區本材木町

野田酒造東京支店

釀造發賣元
銘酒「東盛」

電話 日本橋一七三八番



(アツマサカリ)

野田六左衛門氏を中心として創立せられ醸造場を兵庫縣灘群馬場等に置き、之れが關東に於ける販賣を東京支店に於て行はれつゝある譯で、野田一家一族を背景とする該會社が、最も堅實な地盤と背景に立脚することは喋々を要しない所である。

野田酒造株式會社は酒界の雄として帝都市場に最も着實なる歩みを進められてゐる野田酒造株式會社東京支店は、大正十二年一月開設せられ、從來問屋の委託販賣制度を廢して造家直營とし、最も合理的經營に立脚して着々代表商標「東盛」の聲價を高むると共に地盤を扶植して今日に至つたものである。

酒類問屋

津谷治助氏の業績

深川區牡丹町の酒類問屋津谷治助氏は、区内屈指の紳商として定評があり、近來特に異常なる積極的飛躍によつて、一層斯界の耳目を聳動しつゝあることは喋々するまでもあるまい。



津谷治助氏は當年四十四歳の働き盛りで、人格手腕兼備の業者として、立志傳中の人と稱しても差支へない。斯も明治三十年四月新川の牧原商店に營業は習として入店、具に苦心努力の結果斯業の蘊奥を究め、五五の癡青春の身を以て獨立自營小賣業を開店せられたのは實に明治四十二年の暮れであつた。

當時店舖は同區蛤町一丁目であつたが、同氏の圓満なる人格と

たものである。此の間兵役に就て海軍にあり、四年現在區内の有力者として區調整委員、深川在郷軍人分會常務委員、國務調査委員、市政調査委員、借家借地調査委員等の公職に歴任し、内に在つては十五人の店員を管して業界に雄飛せられつゝあるのである。

同店の代表的發賣銘酒を「鳳凰萬兩」「鳳凰立德」「富士の光」の三印とする。近來右三印が東京市場に於て異常なる盛名を博するに至つたのは、全く發賣元の宣傳販賣が積極的であつて、深川も店主の人格に出発する堅實味を發揮した結果であつて、深く敬服に堪えざる次第である。

氏の令兄津谷一治郎氏は東京酒類同業組合組長として、業界稀有の人格者であるが、氏も亦令兄に倣して深く人格と徳を以て聞え、趣味の方面に於ても筆江と號して俳句をよくせられる、以て氏の優れた性格の一而を知べきであらう。(寫眞は津谷治助氏)

銘酒
鳳凰萬兩
鳳凰立德
富士の光
發賣元
東京市深川區牡丹町四
津谷治助商店
電話本所一〇三六

東京市本郷區湯島天神町二ノ三〇

一色屋 石川仁市 商店

電話下谷二九五十番

本郷湯島天神に近き所に明治二十五年創業以來三十有餘年の長きに至り、酒類問屋を經營される一色屋石川仁市商店は、最近益々異常なる發展を遂げ、地盤の鞏固と販路の擴張を期するに至つたのは慶賀の情に堪えないものである。

◆……………◆

店主石川仁市氏は人格者として定評あり、浮華輕佻を排して實實誠實を尚び、賢者の行動は總じて之れを譽め、見るからに至誠の溢れた人物である。従つて氏の營業は自ら氏の人格の發揚となつて表現されてゐる。斯も誠實に信用を重んじ、顧客との間に其の觀念に立脚して、苟くも所謂商人根性に墮して、顧客を誤るが如き態

度がない、斯くの如きは實に業界稀に見る所で、商業道德の泥土に委せられんとする今日、氏の如き營業態度は業の模範とすべきものであらう。

◆……………◆

氏は營業に熱情を有すると共に一面人間としての高き修養を怠らず、其の趣味方面を聞くに業界人には珍らしく新時代の思想的な讀書を好まると、以て氏の性格の一面を知るを得るであらう。氏は公共觀念極めて厚く、現に東京酒類同業組合代議員として同業者の爲めに献身的に努力を致されてゐる。吾人は業界に氏の如き人格者の存在を心強く思ふものである。

東京市下谷區數寄屋町二千一番地

三河屋 守山翁助 商店

電話下谷四一三三番

下谷方面の發展は上野公園を中心として其の山下に集中したかの趣があるが、さうした上野の邊り場に近い地帯を相して堂々たる店舖を經營し、下谷屈指の紳商として推される守山翁助商店こそは、其の過去現在將來に至つて刮目すべきものである。

◆……………◆

同店は多年の傳統的地盤の鞏固なるものと共に、着々新境地を開拓して、仲買小賣兩方面に飛躍され、土地柄から云つても特に一流銘酒に重きを置き、兼ねて地方酒の普及にも努力せられてゐるのである。

◆……………◆

店主守山翁助氏は区内有数の人

物家であるのみならず、帝都酒類業の有力者として推されてゐるが、而も身を持つること極めて堅く、謙遜風範の人格者として、衆人の等しく敬服する所である。従つて推されて町内役員として大衆の福利増進に努力されたことは多大なるものがあり、業界では東京酒類同業組合の幹事部長に歴任して、令名噴々たるものである。

◆……………◆

實に氏の如き營業状態といひ人物識見といひ、下谷區同業者中の代表的人物であつて、業界益々多事多端ならんとする今日此等、益其の自愛加餐を祈り、組合の爲め同業者の爲めに盡力を願ふ。

東京市京橋區越前堀新川橋通

酒大洋盛發賣元 布屋本店

上野久一郎

和洋支那食料品問屋

京橋區銀町一丁目十一番地 電話京橋二八五九番

東京新川に酒類支那食料品問屋を令弟と協力して營する、布屋本店主上野久一郎氏は、當年三十六

種に見る所で、氏を知る人々の推服指かざる所である。

銘酒 大洋盛

最新製造の才幹と手腕を所有する最も前途多望の人である。

氏は滋賀縣下の酒造家に生れ二十五歳の時上京現在の地に新業を創始し僅々十年にして前記兩店を經營して隆盛を招來した人であつて、業務に對する研究と熱誠は

とに對しては一家の創見手腕を有し、氏によつて帝都市場に紹介せられたる無銘酒は枚舉に遑なきものである。

而も氏は人格圓滿信用を第一義とする人であつて、顧客との關係は酒類食料品部を通じて最も密健剛を祈るや切なるものである

東京府下南品川四ノ二五

三國尾田國三郎商店

電話高橋一七六一番

府下南品川の酒類仲買商として異常の發展を遂げつゝある三國尾田國三郎氏は、大正七年の創業で

「虎の巻」並に伏見銘酒「名譽冠正宗」は氏の最も勢力を集中して宣傳發賣しつゝある二大銘酒であつて、近來兩印が帝都市場に隆價を高むるに至つたのは、一に尾田國三郎氏の努力によると云はねばならぬ。

優等清酒



名譽冠正宗

あつて、都府方面の發展に先驅して、著々堅實なる地盤を扶植し、現在同地屈指の伸張として推さるるに至つた。

關東酒中の逸品として盛名ある

「金竹正宗」四季の艶

山本酒造東京支店に就て

近來帝都並に近郷に於て西國酒の發展著るしく、釀酒に次で其の盛價を高めんとしつゝあるが、中「金竹正宗」並に「四季の艶」の兩印は品質秀卓越し、殊に關東人の嗜好に適合して第一流酒の譽を譽せんとするものあり、爲めに嶄然として頭角を現はし、着實實なる地盤を扶植するに至つたのである。

「金竹正宗」「四季の艶」の釀造發賣元山本酒造東京支店は、本店を香川縣に有し、東京支店は、大正九年の創立に依り、爾來僅々數ヶ年にして今日の地歩を築くに至つたのは、造家直營店として全く異數と云はなければならぬ。

あり、而も關外移出をモットーとして吟醸の産出に努力し、遂に大正九年關東方面に進出すべく、神田區片原町萬世樓隣に支店を開張せられ、特に主任として人格識見手敏共にも信頼すべき岩田瑞氏を選抜して之れに當て、繁々の陣容を固めて華々しく京和業界に乗り出されたのであつた。

當時東京市場の状況は、伏見方面の所謂本場物の天下であつて四國酒の如きは未だ殆んど存在を認むるものはなかつたが、よく此の際に策應して奮闘努力、積極的販賣政策を執行し信用第一主義を以て邁進されたので、逐年加速度の發展をなし今日山本酒造東京支店の存在を知らぬ業界人は之を認め難い迄に發展するに至つた。

飛切二六銘酒

金竹正宗

四季の艶

醸造發賣元

山本酒造 東京支店

電話下谷六七一七番

東京市場に於ける

銘酒「本鹿」「本鶴」の聲價

銘酒「本鹿」「本鶴」の聲價は、近來東京市場に於て著るしく噴進せられるに至つたが、右は之れが醸造元下谷區萬年町の御影酒造東京出張所の、積極的努力によるものである。

御影酒造株式會社は、醸造に於ける一流造家として夙に關西方配に眼力を求めて飛躍しつゝあつたが更に關東市場にも其の巨腕を延ばすこととなり、現出張所主任吉澤利三郎氏を得るに及んで、氏と提携して東京出張所を設けしたのは大正十二年震災直後であつた。

主任吉澤利三郎氏は少壯時代、關東の酒造家に於て實地酒造に從事すること多年、大正二年上京して日本橋區橋本町高梨商店に入り、業界に活躍して其の人物と手

腕を誦はれ、且つ店主仁三郎氏の愛顧と結託して益々信譽を高められるに至つた。

而して大正十三年御影酒造會社と結んで現在の地に出張所を創立し、費策經營宜しきを得て店運日に隆昌を加へ、今日に至つたものである。實に吉澤氏は醸造の氣宇と細微なる頭腦を所有し、且つ醸造販賣兩方面の經驗により、最も特色ある營業ぶりを發揮されてゐる。

震災直雨後の旬の如く繁生した造家直營店にして、今日あるは極めて僅少であるが、該出張所は實地の確固たると吉澤主任の練達なる手腕と、「本鹿」「本鹿」兩印の優秀と相俟つて今日の盛運を至せるは偉大である。

東京府下池袋町八九六

足立屋 矢部候坪商店

電話大塚一三九七番

府下池袋に繁々たる店舗を構へ同方面の發展に策應して異常なる成功を収めつゝある矢部候坪氏は、近年不惑に達して、今や漸く圓熟の境に入らんとする前途最も多幸なる人物である。

氏は青年時代海軍に入つて軍人生活をなして歸省大正四年現在の地に酒類仲買小賣商を經營せられたもので、其の調達圓熟なる人格と堪能なる手腕とはよく信譽を博し加速度に發展して今日の盛運を得るに至つたのである。

氏は斯業に對して獨自の天分と

共に研究心を所有する人で、東京酒類商同業組合第六回酒品品評會に於て味味鑑定の結果最高賞を受領し、斯業に於ける鑑定家として第一人者たるの折紙を附せらるゝに至つたのである。

氏は營業に熱心であると共に社會公共の念極めて厚く、現に町會長の任にあつて附近住民の利益厚く、同業界に於ては同業組合代議員、陸軍會會長等に歴任して、共同の福利増進に努力されてゐる。意に氏の如きは商人として且つ社會人として圓滿具足の人といふべく將來の活動は更に一層大なるものあるべく期待されてゐる。



東京府下板橋驛前

銘酒「秀峰」石塚正治商店

電話板橋六七番

府下板橋驛前の酒類問屋石塚正治氏は、優等銘酒「秀峰」の發賣元として郡部方面に販賣なる地盤を有し、着々意義ある發展を將來せられつゝある。

石塚商店は先代の創業に依り明治二十年以來四十餘年に亘る歴史を有し、郡部屈指の老舗として其の動靜は斯業に重きをなしてゐるのである。當主任石塚正治氏は先代の氣魄を受けて人格識見手腕共に少壯業界人の譽高く、本年三十六歳前途春秋に富み其の活躍は寧ろ今後に期待すべきである。

銘酒「秀峰」は同族の醸造に係るものであつて、氏の一族は擧げて醸造販賣方面に飛躍せられつゝあることを特筆大書せねばならぬ。關東酒として「秀峰」は稀に見る品質の優秀を以て聞え、各種品評會に於ても常に優秀の成績を得同店の熱心なる宣傳普及と相俟つて、着々聲價を高めつゝあるのである。更に同店は埼玉縣川口町に支店を有し同地に於ても「秀峰」の宣傳販賣に従ひ聲價愈々高きものがある。同店の如き傳統と財力と地盤と相俟つて、最も實力ある酒類業者として推すべきだらう。



東京府下谷區萬年町二ノ五二

御影酒造株式會社

東京出張所

電話下谷六四五一番

酒類問屋

林久吉東京支店に就て

四谷區鹽町一丁目に大正五年以來堂々の營業陣を張つて、山の手方面の酒類問屋として盛名ある林久吉東京支店の現状と將來に就て些か紹介したい。

同店の本店は大坂府下にあり、同地の紳商として巨富ぶるものな、隆昌を續けつゝあるが、時勢の推移に明敏なる店主林久吉氏は帝都に進出して一層商圏の大をなさんとし、大正五年現在の地を擁して支店を開設せられたものである。而して銘酒『喜久娘』『出世正宗』の發賣元として信用第一義の政策を以て業界に偉大なる足跡を印すること將に十餘年、今や兩銘酒の東京市場に於ける地位と、同店の盛名は遂日隆々たるものがあるのである。

店主林久吉氏は明治元年の出生にして人格徳望手腕腕備の人である。青年時代兵庫縣下に於て醸造の研鑽を経て歸郷家業に従事の際



ら、郷里の名望家として漸次社會に力をなし、地方自治の開發に努力すること多年、収入役、國勢調査委員、青年團長、義勇團長、衛生組合長、其他郡制廢止前迄は大坂府西成郡會議員として懸任し、聲望最も高く今日に至れる人である。

此の人によつて開設せられたる東京支店は尋常の業者とは選を異にして、營業方針が頗くまで信用を第一義とし、顧客に對して人格的な取引を行はるゝことは當然なりと云ひ得やう。凡そ地方より業界に進出し來る人々は近來益々増加する傾向があるが、多く信用財力等の點にの恒久性に乏しくは功者を見出すに由な於てき状態にあるが、林久吉成支店の如きは、勿論本店の偉大なる背景を有するとは云へ、僅僅十年にして、此の堅實な地盤を扶植し、兩銘酒の地位を發揮するに至つたのは異數とせねばならぬ實に同店の如き最も將來に富む業者として刮目すべきであらう(寫眞は林久吉氏)

銘酒



出世正宗

發賣元
東京市四谷區鹽町一ノ十一
林東京支店
電話四谷二七三八番

東京市京橋區木挽町九ノ七

吉良屋 吉田甚五郎商店

電話四座 三五五番

吉良屋本店は先代によつて實に明治五年創業以來異常の發展を遂げ名聲に遂に全市に洽く支店三十餘軒を有し以て地盤の堅實と商圏の大を知るべし、當主は四十七歳人格圓滿手腕練達公共心に富み町會長として令名噴々たるものあり。

東京市本所區横網町二丁目

銘酒金湖 坂上東京出張所

坂上儀十郎

電話黒田 一〇〇四番

銘酒『金湖』の造家直營店とす本店は滋賀縣にありて醸造業を營む、東京出張所は震災の翌年創業主任坂上儀十郎氏の手腕によりて漸々發展を將來し、現在支店數軒を營して大飛躍を行はれつゝあり將來最も期待すべきものあらむ。

東京市京橋區新佃西町二ノ二二

合名 太星商店 星野義夫

電話京橋 八六三番

區内仲買商として先代星野義四郎氏によつて盛名を擧ぐ、先代は茨城縣出身にて一代によく巨富をなし三等郵便局長東京酒類商組合部長等に任じて令名ありしが、一昨年逝去せられたるは惜しむべし。當主は二十八歳先代の氣魄を受け人格手腕共に將來期待すべき所多し。

東京府下南品川一四五

升由 和泉由兵衛商店

電話高橋 一八五三番

酒類仲買商として明治初年創業郡部屈指の紳商たり。當主和泉由兵衛氏は人格識見高邁、斯業の傍ら在阪商事株式會社の重役として盡瘁され、公的方面では町會議員二期を歴任し、現に東京酒類商同業組合第十六部長として業界に重きをなしつゝあり。

東京市神田區佐久間町三ノ三七

酒類仲買商 山城屋本店

石井金五郎

電話下谷 五六九六番

明治三十三年創業以來約三十年區内有数の仲買商として重きをなす、當主は當年五十六歳人格識見高邁選ばれて同業組合代議員三回評議員二期を歴任し、神田區共正會の創立者としても隆望頗る高し。

東京市神田區平河町四

三浦屋 樋口松藏商店

電話下谷 六一七一番

區内仲買業者中の巨匠として難物地方共に熟達の手腕を振ひ店運極めて隆々たるものあり、店主樋口松藏氏は當年三十八歳の壯者にして斯業に最も堪能の評あり大正八年創業以來僅に數ヶ年にして今日の大をなす、町會幹事組合役員としても亦名噴々たり。

東京市淺草區向柳原町

醬油仲買商 小林久平商店

電話淺草 六番

明治四十三年創業以來醬油仲買商を終始一貫今日に至る。品質本位の優良醬油を斯界に供給するを職能として幾多の貢獻を致されつゝあり、支店五軒を督して店運隆盛を極め、當主は明治十六年の出世にして人格圓滿町會其他に盡瘁して令名噴々たり。

東京市神田區三河町二ノ一〇

酒類仲買商 關本本店

赤尾良治

電話神田 二二三四番

銘酒「芳醇正宗」の發賣元として斯界に定評あり、店主は當年五十歳、少壯時代山梨縣にて醸造に從來し、後出で東京の販賣界に入る、練達堪能の聞え高く、現同業組合代議員としても亦名あり。

日本橋區の大彦本店と

大井彦造氏の人物



日本橋區海町二丁目十二番地に酒類仲買商を經營し代表商標「伊藤公」の發賣元として、業界に独自の地位と信用を得つゝある大彦本店主大井彦造氏は如何なる人物であらうか。

氏は明治四十三年創業以來五十一才の今日まで、營業第一義の精神を以て精進奮闘せられたる人で、人格活達、手腕練達、業界稀に見る器局の大を思はせる士であり、「伊藤公」と「黒鷹」とは氏の傑出せる手腕によつて、料理店飲食

店方面に堅實なる地盤を有し着々發展して今日に至つたものである。而も氏は一面人情に厚い人であつて、衆を愛すること深く、公共の念に富み、多年町會長に推されて町内の爲めに盡し、信望最も厚く、各種公共團體に寄附行爲を行ひ、救濟事業に出費する等、舉に違なき有様である。かうした方面が大彦本店と大井彦造氏の名譽を高めつゝあることは言ふまでもなく、以て氏の商人としての優れたる一面を窺知すべきで氏は今や知命を越へて益々人物手腕圓熟、今一段の活躍を期待するものである。業界の公的方面にも氏の進出を祈るものである。同時に人間として氏の優れた精神を物語り、其の美談佳話は妙筆に還がない。

營業之商品は



總て實質本位

東京府下南千住町八八

酒類仲買商 内田市松商店

電話淺草 二七八番

南千住方面屈指の紳商にして明治三十年の創業に係り、仲買方面に於て定評あり、當主は人格高潔識見手腕共に業界に傑出し、同業組合代議員、南千住陸會長等の要職にあり聲望極めて厚し。

東京府下西巢鴨町宮仲二二四六

酒類仲買商 三孫本店

吉村孫次

電話大塚 八三七番

郡部方面に於て信用第一義の商策を以て開ゆ、酒類及釀甲吉醬油の仲買商として地盤の堅實なる種に見る所なり、明治四十三年先代によりて創業當主は享年三十三歳の青年業界人、先代の後繼者として手腕の傑出せるものありとの高評あり。

東京市深川區富川町二一

酒類仲買商 大石商店

太田謙治

電話本所一〇二二番

酒類醬油味噌の仲買商として明治四十三年創業以來實績豊に發展の一路を辿り、大石商店の盛名を護はる、當主太田謙治氏は斯業に独自の手腕を有し、有意義なる活動を持続されつゝあり。

東京府下千住町中組三五五

酒類仲買商 増鐵商店

増田宗太郎

電話千住一三七番

實資本位の營業方針を以て開ゆ明治十七年の創業にして當主は二代目、當年三十六歳の青年業界人として、手腕の練達を以て開ゆ、現在在郷軍人分會班長として公共に盡瘁し、人望あり將來を刮目すべし。

稻正宗の發賣元

河東商店の業績

明治神宮常供御神酒として全國的に著聞されてゐる河東倍天郎本家の飛切吟醸「稻正宗」の發賣元東京橋區川口町の河東商店は、創設以來本年を以て滿十週年を閲し逐年堅實なる地盤と信用を扶植して發展の一路を辿り今日に至つたものである。

同店は河東本家の東京出張所に屬するも、これが經營の中心は主任早川光雄氏であつて、氏は未だ而立に滿たざる青年業界人にして而も手腕識見共に稀に見る鬼才として前途を囑望せられつゝある人である。氏は千歳區北條町の酒類問屋早川淺次郎氏の二男に生れ幼時より斯業の經驗を積み河東商店の創設せらるゝや入りて之れが主

任となれる人であつて、令兄は河東本家の支配人として令名噴々たるものあり、氏の一族は擧げて業界に入り醸造に販賣に飛躍せられつゝあるは特筆大書すべき點であらう。

氏の經營方針は實業眞摯を旨とし、青年業界人の弊害たる客氣に驅られ、浮薄な積極味に陥ることなく、極めて着實な歩みを続けられつゝある。従つて創業以來十年今や地盤と信用は愈々堅實確固たるものあり、「稻正宗」を始め、「泉刀海」「花月」等の發賣元として、今や華々しき積極的發展を行はんとせられつゝある。切に其の將來を願祝して止まないものである。

明治神宮

常供御神酒

稻 正 宗



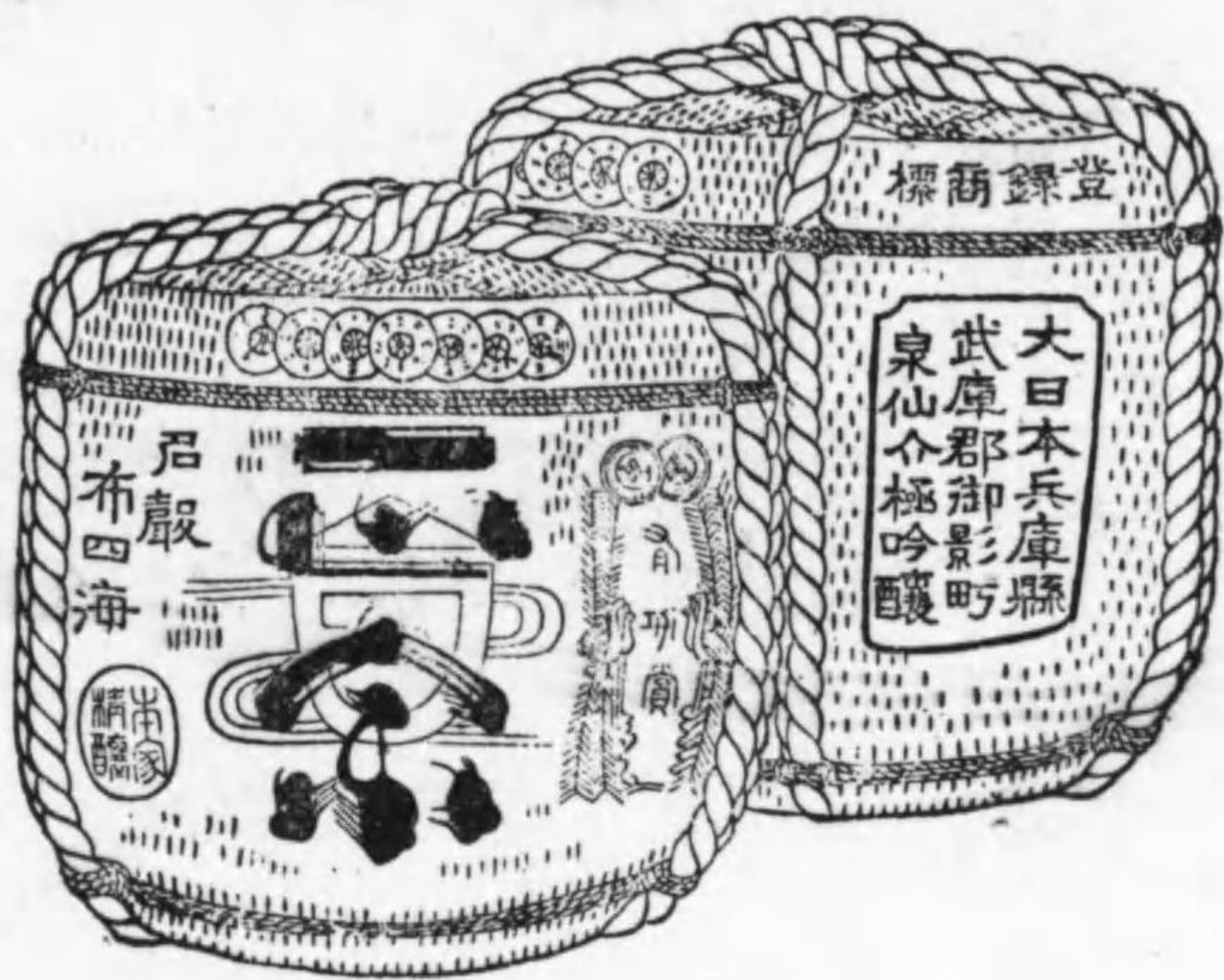
清酒 泉刀海花月

發賣元 河東商店

東京市京橋區川口町一ノ橋通り

電話京橋二二一九六番
振替東京三三二六五番

特飛切最高銘酒



醸造元 泉仙介
攝津・灘御影町

イヰズミ正宗

帝都愛 飲家の 好評 噴々たる 芳醇銘酒

東京代理店 吉村政次郎商店
豊島屋本店

東京市神田區美土代町神田橋外
電話神田(25)二六六〇二番

營業取引革新の實行者

高原菊太郎氏の業績

◆東京酒類問屋高原吉藏商店は、明治三十二年の創業以來、堅實な地位の營業政策を以て、一躍發展の過程を辿り今日に至つたもので、主高原吉藏氏は夙に業界の先賢者として名を著し、東京酒類問屋組合の副頭取に歴任して同業の福利増進に努力せらるゝ所、少ながらざるものがある。

◆若主人高原菊太郎氏は、嚴父遺教を承けて、頭明敏識見頗る高く、今や營業の實際に當面して、營業取引の科學的合理化を提唱し、かつ實行しつつあり、最近業界の趨勢に鑑みて、造家と問屋と小賣業者の三者の關係を合理化する目的を以て、業界に新理想主義を懸望し附せて



と「現金會」は業界に多大の共鳴者を輩出し、着々實績を挙げつゝあるが、今や業界の危機に臨んで氏の意氣を壯とすると共に、其の事業の大成を祈るや切なるものがある。(寫眞は高原菊太郎氏)

高商店現金會々則

- 第一條 本會は東京市京橋區靈岸島町六番地東京酒類問屋高商店内に設置し、東京市現金會と名命す
- 第二條 本會は共存共榮の精神に基き、對業界一般の利益を以て、總目的とす
- 第三條 舊來の掛取引を全廢し、凡て現引を以て之を改め
- 第四條 商品委託仕入の形式を採り、商品の充分買取に努むる事
- 第五條 商品の充分買取に努むる事
- 第六條 商品の充分買取に努むる事
- 第七條 商品の充分買取に努むる事
- 第八條 商品の充分買取に努むる事
- 第九條 商品の充分買取に努むる事
- 第十條 商品の充分買取に努むる事

東 京 酒 類 問 屋
高 原 吉 藏 商 店

東京市京橋區靈岸島町六番地

電話 京橋(56)〇九五番

異色ある業界人

中山尚親氏に就て

府下中野町に酒類買仲業を営む中山尚親氏は、其の人格、識見、手腕其他凡ゆる意味に於て異色ある人物といふべきである。氏は現在銘酒「東海一」高級飲料「ブル」等の買仲業として都府方面に於ける屈指の紳商と目され、業界方針が極めて近代的であつて濃潤たる酒味を有してゐる點に注目すべきである。



仄聞する所によれば氏は名門の出身にして、深き教養を有する人であるが、實際社會生活に當面して人間の修養を高むるの目的を以て、自ら業界に入り大正七年現在之地を用し創業以來、孜々として自ら業界の第一線に立ち、具に類

を厭はして、斯業の經營に努むると共に人間の修養を積み今日に至つたのであるが今や創業以來十年の努力は酬ひられて、業界方面の博大なる信用と堅實なる地盤は

牢固として抜くべからざるものあるに至つたと共に、業界人として異色ある人格は益々光彩を發揮して合名噴々たるものあるに至つたのである。故に氏の創業は其の人格を根柢として形造られたものであり、同

時に氏の業界人としての特色も亦其の人間としての優れたる風格に立脚するものでなければならぬ、寒に氏の如きは商人として且つ人間としての余き謙和を得た人であつて、新時代の業界人として、典型的人物であると稱しても過言ではあるまい。更に氏の異色ある風格を一層強調するものは、其の社會公共に對する觀念であつて、一種の哲學的根據に立脚して確立すべきもの多し、實踐的方面に於て徹底的の奉仕を吝まず、町會其他公共に精神的物質的義務を担はれたること故に選なく、業界では東京酒類同業組合代議員として三期を歴任し其他同業者の爲めに盡瘁する所最も多く、尊嚴的となつてゐる。業界に氏の如き異色ある人物の存在は驚異とすべく將來益々飛躍を期待する(寫眞は中山尚親氏)

酒類醬油仲買業

東京府中野町二百五十七番地

萬屋中山尚親商店

電話中野五八番

宮内省御用達

最上清酢



ミツカシ

尾州半田町 釀造元 株式會社 中埜酢店

東京市京橋區南新堀一 發賣元 株式會社 中埜酢店

電話京橋 六一五八四番 六八七八番

優等大二清酒



東京市本區小網町三 發賣元 辰己屋社會會社 支店 電話茅場五〇五五番

味 界 の 覇 王

友

品質優

原料精選

東 京 釀 造 元 芝 浦

大 友 味 界 店

電 話 高 三 〇 四 八 〇 八 五 番

振 替 東 京 一 四 六 五 二 番

河合の「花白酒」の

優秀なる品質と聲價に就て

(一) 我國古來からの嗜好飲料として著名である「白酒」は、永い間傳統的な製法と、之に伴ふ品質によつて、時代に伴ふ進歩の跡の微すべきものがなく従つて「白酒」は三月の雛祭を中心とする一時的の需要に限定されたかの觀があり、斯業の發達と飛躍の爲めに遺憾とすべき點が多かつたのである。

(二) 東京府下千住町の河合欣三郎氏は明治廿三年以來「花白酒」の醸造元として、白酒醸造に従事しつゝ今日に至つた人であるが、氏は夙に白酒界の狀態に着目して、傳統的製法による白酒の改良向上を計ると共に、從來一時の飲料の觀ありしを普遍化して四季飲料たら

しむる爲めに、之れが宣傳的方面にも意を注ぎ、研鑽努力を怠むことなく孜々として目的の貫徹に邁進せられたのである。

(三) 斯くて河合欣三郎氏の努力は着實なものであり、「花白酒」醸造上に關する秘法を發明して之れが專賣特許を得、益々品質の改良向上を計ると共に、一方帝都洋酒界の重鎮國分商店と結んで、宣傳販賣方面に飛躍を期し、兩々相俟つて邁進されたので、今日「花白酒」の聲價は全國的に高く、斯界第一人者として、年産數千石に及び、尙逐年増産を餘儀なくされる實況にあるのである。

(四) 「花白酒」は前述の如く河合式

專賣特許の醸法に據るものであつて、緘對に他の追従を許さざるものであるが、之れが工場組織は近代科學の粹を集め、先年佛國よりギヨーム式蒸餾機を輸入して、一層其の設備を完全にし、斯界の模範的工場として、好評噴々たるものである。されば此の工場と該醸法に據る「花白酒」が拔群の品質を有するは疑なくを要せぬ所であらう。

(五) 更に「花白酒」の宣傳販賣に就ては國分商店との協力により、近代的な大衆宣傳に對して斬新巧妙なる計畫を實行せられつゝあるのので、單に「花白酒」の宣傳普及に止まらず、一般白酒の四季飲料化に偉大なる貢獻をなすものであつて、「花白酒」の今日あるは實に當然と云ひ得やう。



東京府下千住町

河合欣三郎醸造

東京日本橋際

會社 國分商店發賣



千葉縣銚子港
醸造元 濱口儀兵衛

一本日質品 達用御省内宮



油醬サマヤ

東京市 本橋區靈波町一ノ四
濱口東京出張所
電話茅場町二四〇〇番

純國産脱色新劑

マルニカーボン



脱色 脱臭 清澄 精製

變味 濃色 火落 辰酒

實驗は御來店若くは參上教示す

但し御來店の節は精選せんと
する原酒一升御持參願ひたく
見本及使用法
説明書進呈す

東京市日本橋區本石町四丁目
發賣元 反町次郎商店

電話本橋九六七番
振替口座東京六七五二番

東京市京橋區本八丁堀三丁目

株式會社 金陵西野東京支店

電話京橋二〇四二番

◇東京橋區本八丁堀三丁目株式會社金陵西野東京支店は「金陵西野」の光金陵」「別號金陵」「金陵」各印銘酒の醸造を賣元として本店は香川縣琴平町にあり、南瀛

銘酒



總一の大酒造業者として寛政元年の創業以來遂次異常なる發達を遂げ、今や工場を琴平並に兵庫縣灘に置き、近代科學工業組織に據り、膨然たる勢力をなすに至つたものである。

◇東京支店は關東大震災直前の

船政に係り、堅實進取主義を以て、徒らに時流を追はず、只管顧客本位に信用の向上に努められたので、僅々數ヶ年にして同店の存在は帝都業界に重きをなし、現に新進問屋造家直營店を以て組織する更新會の中堅となり、兼ねて中小酒類問屋聯盟會員として、同業の福利増進に努力せられる所尠少なからざるものがある。

◇代表商標「金陵」各印は純粋品質本位の優良酒であつて、特に關東向きの「旨口濃醇酒」として、廉價に高きを加へつゝあり、支店長福永榮一氏は人格高潔、手腕練達の聞え高く、新進造家直營店の主眼者にして前途を囑望されて居る。

酒類 醬油 味淋 酒類 油問屋

東京市京橋區靈岸島町一(南新川)

磯川信一商店

電話京橋(56)一七七八番

東京市京橋區北新川(一ノ橋際)
酒類問屋 倉石儀助商店

電話東京一〇四四番
振替東京三〇四三五番

◇「銘酒」「富久君」の發賣元酒類問屋倉石儀助商店は、凡そ一百年前の創業に依り、現店主倉石儀助氏を以て三代目とする。父祖傳來の豐富なる財力と、信用と、地盤



優等清酒

は更に現店主の努力により一層の發展を招來するに至つた。
◇「店主倉石儀助氏は人格の人であつて、其の營業も人格に出發し、絕對信用を重んじ、最も堅實なる地盤を扶植せられたる。由來新川は江戸時代から酒類の集散市場として、有力問屋が櫛比し今日

に至つてゐるが、就中徒らに時流を追はず堅實味に富む酒類問屋として倉石商店は定評ある所である
◇「銘酒」「富久君」は品質格位の優良酒であつて、樽詰酒として噴噴の好評を博しつゝあると共に、時勢に順應して樽詰酒としても亦頗に盛價を博しつゝある。同店は多年の傳統により所謂下り酒に獨自の境地を開拓せられたるものと共に、一面地方酒の宣傳紹介に意を注ぎ同店によりて盛價を得つゝある地方酒も多數に上つてゐる。
◇「店主倉石儀助氏は上述の如く人格の人であつて、公共の念頗る厚く、幾多の犠牲的奉仕をなして附近の信譽は頗る篤く、且つ業界人としても尊敬の的となつてゐる

最上清酒

本邦二大權威



燒酎味淋

燒酎味淋

元祖最上清酒 家本田笹元造釀

社會式株造酒寶元造釀

發賣元

東京市日本橋區小網町三丁目

酒類問屋 村上市商店 社會資合

電話場町一三九番一三九二番

營業目錄

- 林田式洗米器
- 林田式瀘過機
- 林田式輸送ポンプ
- 林田式輸送ポンプ
- 林田式洗綿機
- 純錫管製蛇管式火入機
- 熱酒錫管入ゴムホース
- 冷酒用ゴムホース
- 瀘過機
- 林田式壘詰機
- 林田式壘洗機
- 林田式壓搾機
- 林田式水揚ポンプ



◎其他釀造用

機械器具一式
發明製作販賣

本賣部

東京市神田區花田町二番地角

日本釀造機械株式會社

電話下谷(83)特長 四〇一〇番
振替口座東京 一七〇三六番

- 第一工場 東京市牛込區西五軒町卅四番地
- 支店 大阪市北區櫻橋交叉點
- 第二工場 兵庫縣武庫郡灘魚崎町
- 第三工場 札幌市北一條東四丁目三番地
- 第四工場 埼玉縣與野驛前
- 出張所 名古屋市東區宮町四ノ一五
- 出張所 福岡市博多社家町三番地

酒類問屋

加瀬政吉氏の業績

◆本所は勿論帝都屈指の酒類問屋として銘酒『万兩正宗』『万兩男』『旭焼酎』等の一手發賣元加瀬政吉氏は業界立志傳中の人物として既に定評ある所である。

◆氏は創業以來十六年享年四十五歳にして今日の成功を勝ち得られたる反面には聞くも涙ぐましき奮闘史を藏せられるといふことである。

◆氏の營業は凡て其の人格を根柢とする販賣主義信用本位の方針であつて、氏が今日の大を致されたるは全く人格に即した營業を行はれた結果でなければならぬ。

◆現在氏は十餘人の店員を管して本所を經營すると共に一方市内外に散在する多數の支店を總括して營業の第一線に監視されつゝある



毎日自店のトラックを運轉して商品の配給を行ふも、不足らざるの狀態にあるといふから、其の盛況を想像すべきである。

◆酒『萬兩正宗』は酒中の逸品として品質優秀草絶し、特に東京人の嗜好に訴へつゝあれば、各階級を通じて異常な好評を博し今や『萬兩正宗』と云へば加瀬政本店を聯想する偉大な商標價値を扶殖せられるに至つた。

◆氏の營業方針は小賣方面に對して酌量信用本位に努力せられると

共に、一面大衆宣傳にも力を盡き東京全市内外に亘つて『加瀬政バー』を設置し之れを通じて『萬兩正宗』の譽價を扶殖されてゐる。故に氏は地方酒の官能普及に就ては十分の地盤と機關を有せられる所であつて、氏によつて帝都に普及され

た地方酒は枚舉に盡がない

◆邊股區より堂々たる本店を建築し

更に一階業界に離れせられつゝあるは、業界の驚異とすべきであらう。今や氏は益々人格圓熟手國權能の域に達し其の將來は無限なるものがあると云はねばならぬ。

(寫眞は新築落成の加瀬政本店)

銘酒

萬兩正宗

旭焼酎

發賣元

東京市本所區横川町三八

加瀬政本店

電話墨田七二五番

東 北 三 大 銘 酒



尾原儀助醸



川合孫四郎醸



原田蘭造場

發賣元

酒類問屋

尾川原商店

東京市神田區田代町一番地
電話下谷六九八番

親切で定評

薄 多 實 本
利 賣 質 位



醸造用道具一式

東京浅草橋
東條吉藏商店

電話浅草二一三番
振替東京七一〇七番

東京空樽問屋組合

- | | | | |
|---------------------|--------------------|-------------|---------------------|
| 芝區松本町三一
電話高輪三六三一 | 星野清兵衛 | 日本橋區白銀町一ノ二〇 | 栗田松太郎
電話日本橋二八一五番 |
| 神田區佐久間町四ノ三 | 奥川常三郎
電話下谷四一九六番 | 日本橋區小網町三ノ一八 | 松井利助
電話茅場町〇四一七番 |
| 神田區松住町四 | 岡田商店
電話下谷三八〇六番 | 芝草區今戸町七 | 藤井勝五郎
電話淺草〇八九八番 |
| 深川區常盤町一ノ七 | 竹下清助
電話本所一〇一〇番 | 日本橋區通一町目一九 | 國分商店
電話日本橋四〇一二番 |
| 芝區田町五ノ三 | 高橋治之助
電話高橋〇〇九〇番 | 京橋區日比谷町九 | 淺田榮次郎
電話京橋五五八九番 |
| 京橋區三十間堀一ノ三 | 高木嘉藏
電話京橋五三三四番 | 深川區東元町一三 | 廣瀬鐵五郎
電話本所二四一七番 |
| 淺草區花川戸町五三 | 中村清太郎
電話淺草〇七五七番 | 日本橋區濱町三ノ一 | 森田半兵衛
電話浪花四二一〇番 |
| 淺草區吉野町九 | 中村慶次郎
電話浪花〇六四八番 | 本所區外手町五 | 杉浦忠藏
電話愚田〇二二六番 |
| 日本橋區浪花町八 | | | |

酒醬油釀造機械最高權威

株式會社山崎鐵工場

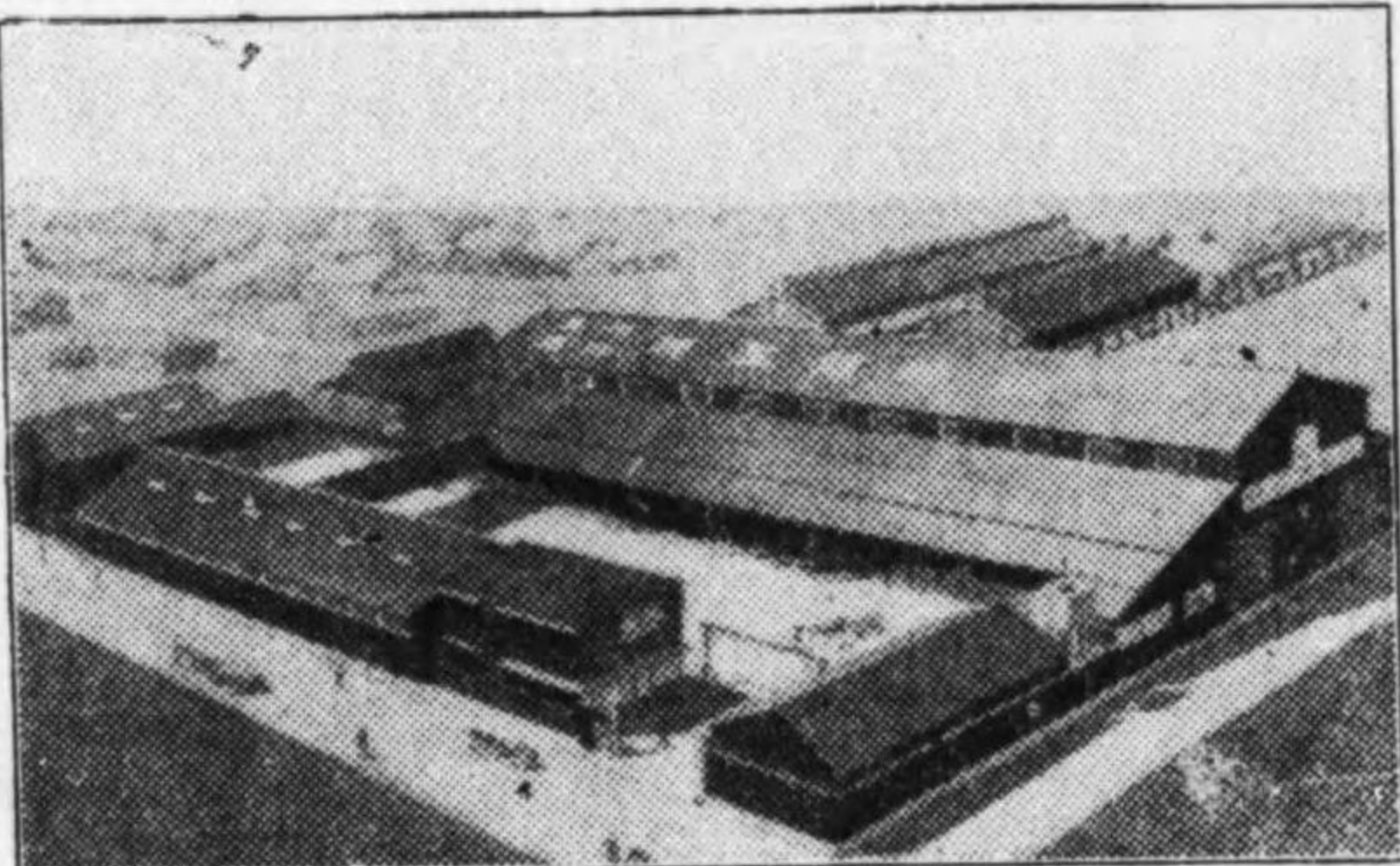
◆株式會社山崎鐵工場は本邦酒醬油釀造機械製作業者中の最高權威として噴々の令名あることは喋々するまでもない。特に釀造界の近代科學的工場組織に必要な機械の發明製作に就ては絶対に他の酒從を許さぬものであつて、最近釀造界に澎湃として起つた科學的的大量生産主義の順調なる發達は全く會社の供給する優良なる機械によつて助成せられつゝあるものであつて、釀造界にとつて同社の努力と貢獻は最も偉大なりと云はねばならぬ。

野田醬油株式會社以下全國釀造業者に供給して能力の優秀を以て多大の賞讃を博してゐる。

◆由來釀造機械は我國獨特の發達を遂げたものであるから、斯界の最高權威たる會社は責任の重大を感じ明治四十年千葉縣行徳に山崎釀造研究所を設け、總ての製作機械は此の研究所に於て嚴密なる試験を行ひ、之れに合格せるもののみを斯界に提供しつゝあるのである。斯種の設備は全く本邦唯一のものであつて如何に會社が自家製作機械に良心を有するかといふことを示すと共に其の機械の優秀にして、絕對の信用を贏ち得るに至つた所以を物語るものでなければならぬ。

◆會社は下掲の如き陣容を以て豐然たる勢力をなし、最近川口工場は更に二百餘坪を増築して一層の完全を期するに至つた。現在製作水壓機一萬五千餘臺に及び、其他山崎式安全蒸力機、同水壓唧筒、同空氣壓縮機、同熱砂式麥煎機、同小麥沖割機、同穀類昇降器、同豆洗機、同大豆蒸熟機、同豆蒸火入殺菌用蒸汽罐、同二重火火釜、同釀造用機關汽機、同縱型スチムエンジン、同調鐵盤等を製作し

て創立せられたものであつたが、



(山崎鐵工場川口機械工場)

先年時勢の推移を洞察して株式組織となし、豊富な資本に據つて優秀なる製作機械を提供せられ、益々異常なる發展を招來するに至つ

た。寔に本邦釀造界の科學的工業化の爲めに愈々其の製品の改良向上と新式釀造機械の發明製作により一層同社の發展を断るや切なるものがある。

株式會社山崎鐵工場

本社營業所

東京市神田區旅籠町一ノ三一
電話下谷一 特長六二七七番
二〇六二番
振替口座東京一五〇九八番

機械工場

埼玉縣北足立郡川口町川口驛前
電話川口 二六三番

鑄造工場

同縣同郡同町榮町
電話川口 二七八番

汽罐工場

東京市深川區東扇橋町一二〇
電話愚田二六五八番

野田出張所

千葉縣東葛飾郡野田町翠平町

研究所

千葉縣東葛飾郡南行徳相之川

大阪支店

大阪市西區江戸堀南通二ノ三八
電話土佐堀二七一九番
振替大阪一七五九八番

東京市淺草區北元町八番地

酒類仲買商 玉川本店

高橋 篤

電話淺草一四九七番

◆淺草區北元町八番地に堂々たる店舗を有し、酒類仲買商を經營される玉川本店高橋篤氏は、區内有數の酒廠として、定評ある人である。嘉永六年の創業に係はり氏は享年四十三才、人格手跡共に傑出し、營業的方面では清酒仲買廠として、酒類は勿論特に地方酒に對して獨自の才幹を發揮せられ、酒方面に於ては「マルル」牌の一手捌として、品質本位を標榜し顧客の信用は極めて厚く、遂に異常なる發展を遂げつゝある。

はらず、公共の念極めて厚く、區民の信譽を負ふて、遂に淺草區會議員の職に當選し、現に其の任にあり、且つ所得調査委員補缺員としても區民の爲めに盡瘁する所多く、其の姓名は益々赫々たるものがあるのである。

◆而して我が業界方面に於ても氏は區内同業者中の先魁として夙に區内同業者の爲めに盡瘁する所少からず、淺草酒類油商會々計主任として努力せられ、一昨年九月東京酒類商同業組合役員改選に際しては、遂に推され第十三部副部長の重責に就き今日に至つてあるが、其の間氏の犧牲的奮闘は同業者の深く推敬する所である。

商品は總て

醸造機具

酒醬油道具

キルク

べ

樽形德利

樽星類

品質第一主義

製造一式卸販賣



中村秀夫商店

東京市本所區相生町五丁目十五番地

營業課目

レツテル	凸版、凹版
ボスタ	石版
株券	オフセット
包装紙	寫眞版
カレンダー	コロタイプ

酒醬油レツテル
圖案ト印刷

竹内金次郎商店

營業所 東京市京橋區海岸町壹番地
工場 東京市京橋區海岸町壹番地
通信 電話東京二六三七番
振替東京一六二一三番

東京市日本橋區蠣殼町一丁目四番地

辰口平作商店

電話茅場町(66)二六〇九番

酒類問屋





全 國 各 地 の
酒 醬 油 釀 造 家 御 用 達

宣 傳 用

印 半 天

前 掛



◇御一報次第早速御伺仕候間多少に
不拘御用命の程願上候

製 造 發 賣 元
東 京 市 下 谷 區 二 町 五 番 地

神 田 屋 商 店

主 店 小 林 安 一
電 話 下 谷 一 三 五 二 番

東 京 市 牛 込 區 神 樂 町 一 ノ 一 四

酒 類 問 屋 食 卓 鹽 貯 藏 所

升 喜 升 本 庄 吉 商 店

電 話 牛 込 六 五 四 番

牛込區内屈指の紳商たり、清酒醬油洋酒問屋として營業の堅實を以て聞ゆ、慶應元年の創業に係り當面人格者として公共の念頗る厚し

東 京 市 四 谷 區 傳 馬 町 一 ノ 一 八

東 京 酒 類 問 屋 伊 勢 傳 商 店

大 山 正 之 亮

電 話 四 谷 五 九 二 三 番

東京山の手方面屈指の老舗東京酒類問屋組合員として、兼ねて中央酒類問屋聯盟會員たり、當主を二代自として、絶對信用本位堅實前進主義を以て聞ゆ、特に當主は新進氣鋭手腕練達前途を囑望せらる

東 京 府 下 寺 島 町 二 九 三 一

小 川 屋 小 川 長 治 郎 商 店

電 話 墨 田 二 四 五 八 番

東京府南葛飾郡寺島町の酒類仲買小賣商小川長治郎氏は、郡内屈指の有力者として人格の圓満高潔識見の高邁を以て定評ある人であり、現在東京酒類問屋同業組合第九部長として、郡内同業者の福利増進に努むると共に、出ては東京酒類同業組合の權機に參し、都七千の同業者の爲めに獻身的努力を致されつゝある人物である。

◇ 氏の經歷を尋ねるに、岐阜縣の出身にして幼にして習業の志を立て、上京、酒類業界に入り具に斯道の經驗を積み、二十六才にして獨立自營、京橋區東淺町に酒類仲買商を經營せられ、主として下り酒の普及宣傳に獨自の手腕を振

◇ 而して中道にして家事の都合上店舗を現住所に移轉せられたるは明治三十四年であつて、爾來二十數年を閱して今日に至るまで、蕭蕭堅實なる地盤を扶植して、營業の發達を計ると共に、一方公人として公共の爲めに盡瘁し、殆んど寧日なき状態である。

◇ 氏の營業は凡て氏の人格の發露であつて、顧客との關係は絕對に信用を基礎として結ばれ、近來地方酒に對しても多年の經驗を基礎として獨自の手腕を振はれてゐる。切に氏の自愛加餐を祈るものである。

空樽問屋

醸造具一式販賣

東京市本所區中ノ郷竹町三八(吾妻橋際)

大重商店 東條重治

電話墨田二七四番
振替東京三三二四八番

酒類用品一式販賣

大折原商店

東京市瑞草區光月町一番地一號
(千束町電車通光月橋際)

最上醬油



酒類 醬油 味噌 問屋

東京市京橋區南新堀二

發賣元 影山次右衛門商店

電話京橋一二八四番

東京府下瀧野川町西ヶ原

『富士大星』 梶宮味噌店

宮川茂吉

東京府下瀧野川町王子電停留
場前に営々たる店舗を構へ『富士
大星』味噌の發賣元として兼ねて
酒類仲買商として郡部方面に飛躍
せられつゝある梶宮味噌店は、同
方面に於ける草分とも稱すべき老
舗であつて、其の財力信用地盤共
に充實して、同地屈指の紳商とし
て推されてゐる。

電話王子二五六番
氏は業務に勵精して殆んど日
なきに拘はらず、公人として社
公共に奉仕の念を失はず、町内の
公共事業に盡瘁する所多く、現に
自ら主唱者となりて町民の親睦
關たる三光會を組織し、職會長の
重責に就いて今日に至る。同地方
に於ける氏の偉望は極めて厚く令
名噴々たるものがある。

店主宮川茂吉氏は瀧野川町の素
村家梶野伊平氏の四男に生れ、入
りて宮川家を繼ぐ、夙に令兄と協
力して梶宮合資會社を組織し、味
噌醸造所を瑞草區志木町に設け、
自ら醸造の任に當ると共に現在の
地に於て之れが販賣を行ひ、生産
より販賣に至る一切の體裁を合理

今や氏は簡知命に達し、其の人
格益々圓熟の境に入り、識見亦充
實して、營業的方面に於ける飛躍
は勿論、公共的方面に於ても、益
益其の將來を期待されてゐる。

東京市四谷區新宿三ノ一七

銘酒三千鶴 榎原要次郎商店

電話四谷一二六八番

◇四谷區新宿三丁目に於て大正
十四年以來営々たる營業ぶりを以
て業界に進出せられた榎原要次郎
氏は銘酒『三千鶴』の造家直營店

に至つた。
◇銘酒『三千鶴』は代表醱酵と
して向くまで品質本位に立脚し、
特に東京向きの旨口濃醇銘酒とし

最優等清酒



ミチル

て地方酒中嶄然
として頭角を現
はし多大の好評
を以て迎へられ
てゐる。
◇店主榎原要
次郎氏は享年三
十三歳の青年業
界人であつて、

として、新に東京市場に飛躍せら
れつゝあるものであつて、創業以
來其の異色ある營業政策は帝都業
界の信譽を擧げ、僅々數ヶ年にし
て異常なる地盤と聲價を扶植する

新時代の教養に富み、科學的經營
に長じつゝあれば其の將來は益々
刮目すべきものあるべく更に公共
的方面に於ける聲譽と共に愈々期
待されてゐる。

印刷の御用は弊店へ明治十八年の創業にして印刷の鮮明と價低廉とは酒界第一の定評を頂き店ります

酒類醬油其他各種レツナル
ボスター、包装紙、紙器類
印刷一式
目品業營
……………
罐詰用品類

日本橋區南茅場町五九番地
南 玉 堂

岡本保之助

電話茅場町一〇八〇番
振替東京二二四五番

酒類仲買業

越前屋 徳居清吉

東京市京橋區南新川
電話京橋二三九八番

酒類仲買商として八十年前の創業に係り老練の譽高く信用頗る厚し
し當主は三代目に當り人物手腕傑出し特に地方酒に對して經驗深し

優等清酒 華陽正宗

日本橋區南茅場町五九

發賣元 松野酒造

東京支店

電話茅場町八九七番

「インディアンソース」

鳥海合名會社の現状と業績に就て

近來我國に於ては西洋料理の普及發達に伴つて、ソースの需要は逐年増加するの傾向があるが、從來之れが國産品は原料の粗悪と技術の不緻により、舶來品に比して著るしく遜色あり甚だ遺憾とすべき點が多かつたが、最近新界に於て著るしく廉價を博し、品質優秀にして舶來品に比して勝るとも毫も劣る所なしとの高評を博しつゝあるを「インディアンソース」とする。

「インディアンソース」は千歳縣屈指の醬油醸造業者として、賣賣の盛名ある「カギサ」醬油醸造元鳥海合名會社の製造に係るものである。同社は夙にソリス泉の前途に着眼して、之れが製造を企畫するや、先づ先進諸外國に就きて

製造上の研究を行ふと共に、特に我國民の嗜好的傾向をも參照して原料の精選製造技術の完全を期して、遂に理想的なる「インディアンソース」を製造し、之れを發賣するに至つたものであるが、果然西洋料理業界は勿論一般家庭から非常な好評を博し、一躍新界の寵兒となるに至つたのは驚異とすべきである。

而も之れが發賣元は東京醬油問屋中の有力者として著名なる京橋區南新川六番地、日本橋區一

優秀調味料
インディアンソース



小町中野長兵衛醬油、同區堀越町本町三郎醬油であつて、右三店協力して「インディアンソース」の宣傳普及に努められつゝあるので、今日の廉價を得るに至つたのは一面三店の飛躍によるものであることを知らねばならぬ。

鳥海合名會社は最上醬油「カギサ」の醸造元として年産十萬石に垂し、其の品質と廉價は定評ある所であるから、敢て賣することを省くが、同店は今後一面「インディアンソース」の醸造元として更に偉大なる發展を遂げられるであらう。

最上醬油



カギサ醬油
インディアンソース
醸造元
千葉縣青堀
鳥海合名會社

電話青堀 三三番番番

東京市京橋區富島町一丁目
 武藏屋陶器店
 店主 石橋忠三郎

電話 京橋一九一
 振替 京二八六番

◆ 滑潤醬油の味、職人の明瞭な口は、其の製造の良否によつて鑑評に影響する所頗る深甚なるものあり、帝都酒界に於て之れが明瞭口の製造發賣元として製品の精進を以て新川の酒問屋を始め市内各問屋仲買小賣方は勿論、全国的に聲價を高めつゝあるは、京橋區富島町一丁地の武藏屋陶器店である。



◆ 同店は現店主石橋忠三郎氏を以て三代目として、先々代辰五郎氏によつて創業せられ由緒ある歴史を有する老舗であつて、特に明瞭口製造に就ては獨特の秘法を有し、網羅に他の追従を許さぬものがあると思へられる。従つて全国各地の品評會用としては勿論、營業用として特に武藏屋製の明瞭口を用ふるもの多きを加へ、逐年販運に懸まつゝあるものである。

◆ 同店は滑潤醬油用明瞭口の外書簡便付各入瓶其他一般飲食店向きの食器類を販賣し、簡便で品質本位を以て顧客に満足と與へてゐる。而して信用第一の營業方針は祖先以來同店をして今日にあらしめた所以であらう。

印刷彫刻新案
 護謄印製造
 スタンプインキ
 標判用票
 墨汁其他許
 元造製判樽式田神



押捺迅速

印面鮮明

神田會商
 東京東區長崎前
 振替口座東京四二八番

營業品目錄

水壓洗米機各種
 連續送米機各種
 精米機各種
 輸送機各種
 同過機各種
 瀘酒火入機各種
 清酒火入機各種
 鹽造用乳機各種
 三共サリチール酸酸械種綿種管
 溫度計度器
 化學用器
 其他醸造用品



荒井恭商店

東京市下谷區西町三番地仲通り

電話 下谷一四七六番
 振替口座東京七七一九番

優等清酒
 豐の賑

酒類醬油問屋
 豐田本店
 鈴木平兵衛

東京市深川區西森下町三五
 電話本所四七八〇番
 振替東京一八五三五番

最上赤味
 池田幸次郎本家

淺草區馬道四丁目
 万久 太田久七
 電話淺草三一七番
 市外千住町中組
 大谷 鈴木儀兵衛
 電話淺草四一七番
 池田幸次郎本家

印刷封緘
軒吊看板
王冠コルク



御報次第實物同様着色ナタログ御送呈可仕候

東京市本所區表町卅七番地

製造發賣元 澁谷文古商店

電話 墨田 八九二番
板橋口座東京四七三九四番

花形燒酎
川

酒類卸商
發賣元 横堀商店

下谷區竹町十五番地
電話下谷一五五一番

壘詰の霸王



正宗ウツマキ
發賣元 吉原淺治商店

下谷區御徒町
電話下谷四三二八番

東京府下西巢鴨町九九〇

伊勢才 森田才市商店

電話大塚一七四番

郡部著名の仲買商たり清酒「神王冠」醬油「現代」の一手捌として 異常の發展を示す、當主森田才市氏は知命に近く人格圓熟町會幹會仲買小賣兩方面に飛躍せられ逐年 等の役員に歴任し聲望高し。

東京府下西巢鴨町宮下一八〇一

酒類薪炭仲買 岡本本店

岡本武治
電話大塚七二一番

府下屈指の紳商として酒類部創業以來二十餘年新炭部開設十五年を閱し支店五軒を有し營業の堅實を以て聞ゆ、當主は業界の公人として聲望頗る高く酒類商陸會新炭商

三 大 銘 酒

營業之商品は實質本位

光の井 正宗



光の井 盛

井ノツミ

東京市淺草區森下町五四
發賣元 池田東京支店

池田増之進
電話淺草三五五一番

東京府下中野町桃園三三三

松屋本店 松井政之輔商店
酒類仲買商

電話中野二七五三番

酒類醬油仲買小賣商として商圏の一年四十歳品質本位の營業政策を
大と地盤の堅實を以て開ゆ、同地し信用頗る厚し。其の將來は益々
屈指の老舗當主は二代目にして享一期待すべきものあらむ。

東京市四谷區新宿三ノ三七

酒類 虎見忠雄商店
仲買商

電話四谷六一九番

大正二年創業以來着々發展して 堅實なるものあり、當主は享年四
今や同地屈指の酒類仲買商として 十八歳人物圓熟公共心に富み、同
令名あり、飲酒「東自慢」の特約 業組合代議員として三期を歴任し
店として特に料理屋方面に地盤の 隆望高し。

東京府下巢鴨町宮下一八六五

和洋酒類仲買 眞成社
藥味問屋 今成真助商店

電話大塚二七五〇番

府下巢鴨町宮下の和洋酒類藥味
問屋今成真助氏は、大正六年創業
以來孜孜として斯業に奮勵努力の
結果、着々地盤の扶植と信用の向
上を策し、今や和洋酒類醬油方面
に於て郡部屈指の紳商として推さ
れ、其の活躍は同業者の刮目する
所となつてゐる。

氏は和洋酒類方面に活躍すると
共に一時時勢の進運に着目し、料
理界の藥味方面に新天地を開拓せ
んとして苦心研究の結果「サクラ
カレー」の製造販賣を行ふことゝ
なし、之れが爲めに眞成社を組織
して、工場を府下板橋町元籠野川
に設置し、優良なるカレー粉「サ
クラカレー」の製造を行ひ、一方

之れが發賣元として宣傳販賣に活
躍し、逐年盛價を高めつゝあるは
氏が事業家として優れた才幹の所
有者であることを證明するもので
ある。

而して氏は特に地方酒の宣傳普
及に獨特の手腕を有し、現在之れ
が取引先としては關井縣日の出酒
造會社其他地方吟醸家多數に及び
醬油方面では茨城縣野野醬油醸造
會社と特約して努力されてゐる。

氏は享年三十有七歳現に西巢鴨
隨會北部部長の職にあり、今や活躍
飛躍の最盛頂期に當り、其の將來
は一層刮目すべきものあるべしと
期待されてゐる。

賣多 潤利 品良

絶對 勉強 と



醸界の 定評



(際野吉)四七町戸今區草淺市京東

大津屋商店

店主 藤井勝五郎

電話 下谷四五〇五番
振替貯金口座東京五八四三番